

一般国道
210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第10集

鷹取五反田遺跡 II

福岡県浮羽郡吉井町大字鷹取所在遺跡の調査

下 卷

—弥生時代包含層・古墳時代以降編—

1999

福岡県教育委員会

一般国道 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第10集
210号

鷹取五反田遺跡 II

福岡県浮羽郡吉井町大字鷹取所在遺跡の調査

下 卷

— 弥生時代包含層・古墳時代以降編 —

1999

福岡県教育委員会

序

福岡県教育委員会では建設省九州地方建設局の委託を受けて、昭和55（1980）年度から一般国道210号浮羽バイパスの建設に伴う、埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。調査は現在も継続中ですが、浮羽町・吉井町におきましては、部分的な一般供用も行なわれています。

この報告書は、平成2・5・6（1990・1993・1994）年度に発掘調査を実施した吉井町大字鷹取所在の鷹取五反田遺跡の記録です。当該地は筑後川と耳納山麓に挟まれた沖積平野に位置する肥沃な地勢であり、今回の調査によって、おもに弥生時代中期と古墳時代後期の集落遺跡を確認することができました。

本書が、地域史の研究や文化財保護思想の普及と活用の一助になれば幸甚に存じます。

発掘調査および出土遺物の整理作業や報告書作成にあたって、ご協力いただいた多くの方々に対しまして深甚の謝意を表します。

平成11年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 光安 常喜

例 言

1. この報告書は、平成2・5・6（1990・1993・1994）年度に福岡県教育委員会が建設省九州地方建設局の委託を受けて実施した一般国道210号浮羽バイパスの建設に先立つ埋蔵文化財の発掘調査記録で、一般国道210号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告の第10集である。
2. 本書に記録した鷹取五反田遺跡は一般国道210号浮羽バイパスの埋蔵文化財発掘調査第9-B地点にあたり、浮羽郡吉井町大字鷹取字五反田・中ノ坪に所在する。
3. 鷹取五反田遺跡の報告は平成9・10（1997・1998）年度の2カ年に分けて実施するが、平成9年度は弥生時代遺構編、平成10年度は弥生時代包含層編・古墳時代以降編・県道東側調査区編からなる。
4. 本書に掲載した遺構図は、井上裕弘・木下修・小田和利・水ノ江和同・日高正幸・矢野和昭が作成した。なお、使用した方位はすべて真北である。
5. 本書に掲載した遺構写真は井上・木下・小田・水ノ江が、遺物写真は北岡伸一・水ノ江が撮影した。なお、空中写真はフォト大塚ならびに空中写真企画に委託した。
6. 出土遺物の整理・復原作業は九州歴史資料館において岩瀬正信の、実測作業は文化財保護課太宰府事務所において平田春美の、図面浄書作業は文化財保護課太宰府事務所と甘木事務所において豊福弥生・塩足里美の指導と協力によりそれぞれ実施した。
7. 出土した炭化米の分析については佐賀大学農学部の和佐野喜久生教授と真鍋智子氏にお願いし、水ノ江とともに「Ⅲ 鷹取五反田遺跡の炭化米特性と稲作起源」として纏めた。
8. 出土遺物・写真・図面等については、すべて九州歴史資料館および福岡県文化財保護課太宰府事務所に保管している。
9. 本書の執筆は「Ⅲ 鷹取五反田遺跡の炭化米特性と稲作起源」を除き、井上・木下・小田・水ノ江が分担し、編集は水ノ江が実施した。

本文目次

[鷹取五反田遺跡Ⅱ(上巻)]

I	はじめに	
1.	調査の経緯と組織	1
2.	遺跡の位置と歴史的環境	6
II	発掘調査の記録—古墳時代以降編—	
1.	遺跡の概要	10
2.	竪穴住居跡	10
3.	掘立柱建物跡	188
4.	土坑	191
5.	土壙墓	191
6.	溝	196
7.	ピット	203
8.	ピット・包含層の古墳時代以降の土器	203
9.	ピット・包含層の縄紋時代の土器	212
10.	ピット・包含層の弥生時代の土器	212
11.	ピット・包含層の石器・石製品	214
12.	ピット・包含層の鉄器	215
13.	県道東側調査区	215

[鷹取五反田遺跡Ⅱ(下巻)]

III	鷹取五反田遺跡の炭化米特性と稲作起源	
1.	はじめに	233
2.	材料および方法	233
3.	結果および考察	236
IV	おわりに	
1.	鷹取五反田遺跡の概要	249
2.	弥生時代の鷹取五反田遺跡	249
3.	古墳時代以降の鷹取五反田遺跡	251

巻頭図版目次

巻頭図版 鷹取五反田遺跡第3次調査区全景（北西から 1994）

図版目次

- 図版1 鷹取五反田遺跡第3次調査区全景（北西から 1994）
- 図版2 鷹取五反田遺跡調査区西部より耳納山麓を望む（北東から 1990）
- 図版3 (1) 5～9号竪穴住居跡（東から） (2) 5・6号竪穴住居跡（南から）
- 図版4 (1) 5号竪穴住居跡カマド（南から） (2) 6号竪穴住居跡（北から）
- 図版5 (1) 7号竪穴住居跡（南から） (2) 7号竪穴住居跡カマド（南から）
- 図版6 (1) 7・8号竪穴住居跡カマド（南から） (2) 8・9号竪穴住居跡（東から）
- 図版7 (1) 8号竪穴住居跡カマド（東から） (2) 10号竪穴住居跡（東から）
- 図版8 (1) 20号竪穴住居跡（南から） (2) 20号竪穴住居跡カマド（東から）
- 図版9 (1) 24号竪穴住居跡（南から） (2) 24号竪穴住居跡カマド（南から）
- 図版10 (1) 31号竪穴住居跡（南から） (2) 31号竪穴住居跡カマド（南から）
- 図版11 (1) 36・37号竪穴住居跡（南から） (2) 38～45号竪穴住居跡（南東から）
- 図版12 (1) 38・39号竪穴住居跡（南から） (2) 38号竪穴住居跡カマド（南から）
- 図版13 (1) 40・41号竪穴住居跡（東から） (2) 40号竪穴住居跡カマド（東から）
- 図版14 (1) 42号竪穴住居跡（東から） (2) 43号竪穴住居跡（南から）
- 図版15 (1) 38～44号竪穴住居跡（南から） (2) 44号竪穴住居跡カマド（南から）
- 図版16 (1) 43号竪穴住居跡完掘（東から） (2) 43号竪穴住居跡カマド（南から）
- 図版17 (1) 46・47号竪穴住居跡（南から） (2) 46・47号竪穴住居跡完掘（東から）
- 図版18 (1) 50A・50B号竪穴住居跡（北から） (2) 50A号竪穴住居跡カマド（東から）
- 図版19 (1) 51号竪穴住居跡（東から） (2) 51号竪穴住居跡カマド（東から）
- 図版20 (1) 52・60号竪穴住居跡（南から） (2) 60号竪穴住居跡カマド（南から）
- 図版21 (1) 52号竪穴住居跡完掘（西から） (2) 53号竪穴住居跡（東から）
- 図版22 (1) 50～60号竪穴住居跡（北東から） (2) 54・55号竪穴住居跡（東から）
- 図版23 (1) 54号竪穴住居跡カマド（南から） (2) 55号竪穴住居跡（東から）
- 図版24 (1) 56号竪穴住居跡（西から） (2) 57・59号竪穴住居跡（南から）
- 図版25 (1) 61号竪穴住居跡（南から） (2) 66号竪穴住居跡（南から）
- 図版26 (1) 67号竪穴住居跡（南から） (2) 67号竪穴住居跡カマド.1（南東から）
- 図版27 (1) 67号竪穴住居跡カマド.2（南東から） (2) 67号竪穴住居跡カマド.3（南西から）

- 図版28 (1) 68号竪穴住居跡(南西から) (2) 68号竪穴住居跡カマド(南東から)
- 図版29 (1) 69~73号竪穴住居跡(南から) (2) 69号竪穴住居跡カマド(南西から)
- 図版30 (1) 70号竪穴住居跡カマド(南から)
(2) 70号竪穴住居跡カマド土層横断面(南から)
(3) 70号竪穴住居跡カマド土層縦断面(東から)
- 図版31 (1) 71号竪穴住居跡カマド(南から) (2) 72号竪穴住居跡カマド(南から)
- 図版32 (1) 73号竪穴住居跡カマド(西から) (2) 74・109号竪穴住居跡(東から)
- 図版33 (1) 74号竪穴住居跡カマド(北東から) (2) 74号竪穴住居跡カマド復原(北から)
- 図版34 (1) 75号竪穴住居跡(南から) (2) 75号竪穴住居跡下層カマド(南から)
- 図版35 (1) 77号竪穴住居跡(東から) (2) 77号竪穴住居跡カマド(南から)
- 図版36 (1) 78号竪穴住居跡(西から) (2) 81号竪穴住居跡(北から)
- 図版37 (1) 80号竪穴住居跡(東から) (2) 80号竪穴住居跡カマド(南から)
- 図版38 (1) 85・86号竪穴住居跡(東から) (2) 87号竪穴住居跡(南西から)
- 図版39 (1) 87号竪穴住居跡カマド.1(南西から)
(2) 88・89・97・98号竪穴住居跡(南から)
- 図版40 (1) 90号竪穴住居跡(南から) (2) 90号竪穴住居跡完掘(南から)
(3) 90号竪穴住居跡土層断面(北から)
- 図版41 (1) 90号竪穴住居跡カマド.1(南から) (2) 90号竪穴住居跡カマド.2(南から)
- 図版42 (1) 104号竪穴住居跡(北から) (2) 104号竪穴住居跡カマド(北東から)
- 図版43 (1) 105号竪穴住居跡(北東から) (2) 105号竪穴住居跡カマド(南東から)
- 図版44 (1) 108号竪穴住居跡(南西から) (2) 108号竪穴住居跡カマド(南から)
- 図版45 (1) 109号竪穴住居跡(南から) (2) 109号竪穴住居跡カマド(南から)
- 図版46 (1) 110・111号竪穴住居跡(南西から) (2) 111号竪穴住居跡完掘(東から)
- 図版47 (1) 112号竪穴住居跡.1(南から) (2) 112号竪穴住居跡.2(南から)
- 図版48 (1) 112号竪穴住居跡遺物出土状態.1(北東から)
(2) 112号竪穴住居跡遺物出土状態.2(西から)
- 図版49 (1) 112号竪穴住居跡カマド.1(北西から) (2) 112号竪穴住居跡カマド.2(南から)
- 図版50 (1) 114号竪穴住居跡(南から) (2) 114号竪穴住居跡カマド(南東から)
- 図版51 (1) 116号竪穴住居跡(南から)
(2) 116号竪穴住居跡カマド(南から)
- 図版52 (1) 116・117・119号竪穴住居跡.1(南から)
(2) 116・117・119号竪穴住居跡.2(北から)
- 図版53 (1) 118号竪穴住居跡(東から) (2) 120号竪穴住居跡カマド(南東から)
- 図版54 (1) 123号竪穴住居跡(南から) (2) 124号竪穴住居跡(南から)

- | | |
|---|-----------------------|
| 図版55 (1) 1号掘立柱建物跡 (西から) | (2) 4号掘立柱建物跡 (西から) |
| 図版56 (1) 5号掘立柱建物跡 (北から) | (2) 6号掘立柱建物跡 (北から) |
| 図版57 (1) 7号掘立柱建物跡 (南から) | (2) 7号掘立柱建物跡周辺 (南東から) |
| 図版58 (1) 32号土坑 (南西から) | (2) 32号土坑土層断面 (南から) |
| 図版59 (1) 1・2号土墳墓 (南から) | (2) 1号土墳墓遺物出土状態 (西から) |
| 図版60 (1) 2号土墳墓 (南西から) | (2) 3号土墳墓 (北西から) |
| 図版61 (1) 4号土墳墓 (東から) | (2) 5号土墳墓 (東から) |
| 図版62 (1) 6号土墳墓 (北から) | (2) 6号土墳墓遺物出土状態 (北から) |
| 図版63 (1) 1050号ピット.1 (西から) | (2) 1050号ピット.2 (東から) |
| 図版64 (1) 15号溝土層断面 (西から) | (2) 調査最終段階の状態 (西から) |
| 図版65 (1) 県道東側調査区.1 (南東から) | (2) 県道東側調査区.2 (北西から) |
| 図版66 (1) 16号溝 (北から) | (2) 16号溝土層断面 (北から) |
| 図版67 竪穴住居跡出土土器.1 (7・8・9・24・31号住居跡) | |
| 図版68 竪穴住居跡出土土器.2 (36・37・40・47・48・50A号住居跡) | |
| 図版69 竪穴住居跡出土土器.3 (50A・50B・51・52号住居跡) | |
| 図版70 竪穴住居跡出土土器.4 (52号住居跡) | |
| 図版71 竪穴住居跡出土土器.5 (53・54号住居跡) | |
| 図版72 竪穴住居跡出土土器.6 (54号住居跡) | |
| 図版73 竪穴住居跡出土土器.7 (54~57・59号住居跡) | |
| 図版74 竪穴住居跡出土土器.8 (60・61・66号住居跡) | |
| 図版75 竪穴住居跡出土土器.9 (66号住居跡) | |
| 図版76 竪穴住居跡出土土器.10 (67・74号住居跡) | |
| 図版77 竪穴住居跡出土土器.11 (75~77号住居跡) | |
| 図版78 竪穴住居跡出土土器.12 (77・78・80・81号住居跡) | |
| 図版79 竪穴住居跡出土土器.13 (87・88号住居跡) | |
| 図版80 竪穴住居跡出土土器.14 (88・90号住居跡) | |
| 図版81 竪穴住居跡出土土器.15 (90・101号住居跡) | |
| 図版82 竪穴住居跡出土土器.16 (101号住居跡) | |
| 図版83 竪穴住居跡出土土器.17 (101・104号住居跡) | |
| 図版84 竪穴住居跡出土土器.18 (104号住居跡) | |
| 図版85 竪穴住居跡出土土器.19 (108・109・111・112号住居跡) | |
| 図版86 竪穴住居跡出土土器.20 (112号住居跡) | |
| 図版87 竪穴住居跡出土土器.21 (112号住居跡) | |
| 図版88 竪穴住居跡出土土器.22 (112号住居跡) | |

- 図版89 竪穴住居跡出土土器.23 (112号住居跡)
 図版90 竪穴住居跡出土土器.24 (104・112・114・116号住居跡)
 図版91 竪穴住居跡出土土器.25 (116・117・119・123・124号住居跡)
 図版92 土坑・土壙墓出土土器 (32号土坑、1・4・5・6・10土壙墓)
 図版93 溝・ピット・包含層出土土器
 図版94 ピット・包含層出土土器.1
 図版95 ピット・包含層出土土器.2
 図版96 (1) 古墳時代の石器・石製品.1 (2) 古墳時代の石器・石製品.2
 (3) 古墳時代の石器・石製品.3
 図版97 (1) ピット・包含層出土の石器.1 (2) ピット・包含層出土の石器.2
 (3) ピット・包含層出土の石器.3
 図版98 (1) ピット・包含層出土の石器.4 (2) ピット・包含層出土の石器.5
 (3) ピット・包含層出土の石器.6
 図版99 (1) 古墳時代の鉄器.1 (2) 古墳時代の鉄器.2

挿 図 目 次

付 図 鷹取五反田遺跡全体図 (1/300)

[上巻]

第1図	鷹取五反田遺跡の現況 (1998. 8撮影 北西から).....	3
第2図	国道210号浮羽バイパス用地内の各調査地点 (1/75,000).....	4
第3図	鷹取五反田遺跡周辺地形図 (1/3,000).....	5
第4図	鷹取五反田遺跡周辺主要遺跡分布図 (1/5,000).....	9
第5図	鷹取五反田遺跡遺構配置図 (1/1,200).....	11
第6図	5号竪穴住居跡実測図 (1/60)	12
第7図	6・7号竪穴住居跡実測図 (1/60)	13
第8図	5・6号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	14
第9図	5・7号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	16
第10図	8・9号竪穴住居跡実測図 (1/60)	17
第11図	8号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	18
第12図	7～10号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	19
第13図	10・20号竪穴住居跡実測図 (1/60)	20
第14図	24号竪穴住居跡実測図 (1/60)	22

第15図	20・24号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	23
第16図	31・46・47号竪穴住居跡実測図 (1/60)	24
第17図	31号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	26
第18図	31号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	27
第19図	31・33号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	28
第20図	36・37号竪穴住居跡実測図 (1/60)	30
第21図	36・37号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	31
第22図	38・39号竪穴住居跡実測図 (1/60)	32
第23図	38号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	33
第24図	38・39号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	34
第25図	40・41号竪穴住居跡実測図 (1/60)	35
第26図	40号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	35
第27図	42・43号竪穴住居跡実測図 (1/60)	36
第28図	43・44号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	37
第29図	44・45号竪穴住居跡実測図 (1/60)	38
第30図	46・47号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	40
第31図	43・44・46・47号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	41
第32図	48・49号竪穴住居跡実測図 (1/60)	43
第33図	48・49号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	44
第34図	50A・50B号竪穴住居跡実測図 (1/60)	45
第35図	50A号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	47
第36図	50B号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	48
第37図	51号竪穴住居跡実測図 (1/60)	49
第38図	51号竪穴住居跡出土土器・土製品実測図 (1/3 土製品は1/2)	50
第39図	52・60号竪穴住居跡実測図 (1/60)	51
第40図	52号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	52
第41図	52号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	53
第42図	52号竪穴住居跡出土土器実測図 .3 (1/3)	54
第43図	52号竪穴住居跡出土土器実測図 .4 (1/3)	55
第44図	52号竪穴住居跡出土土器実測図 .5 (1/3)	56
第45図	53号竪穴住居跡実測図 (1/60)	58
第46図	53号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	59
第47図	53号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	60
第48図	54号竪穴住居跡実測図 (1/60)	61

第49図	54号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	62
第50図	54号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	64
第51図	54号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	65
第52図	54号竪穴住居跡出土土器実測図 .3 (1/3)	66
第53図	54号竪穴住居跡出土土器実測図 .4 (1/3)	67
第54図	54号竪穴住居跡出土土器実測図 .5 (1/3)	68
第55図	55号竪穴住居跡・5号掘立柱建物跡実測図 (1/60)	69
第56図	56号竪穴住居跡実測図 (1/60)	70
第57図	55・56号竪穴住居跡出土土器・土製品実測図 (1/3 土製品は1/2)	71
第58図	57・59号竪穴住居跡実測図 (1/60)	73
第59図	57・59号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	74
第60図	60号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	75
第61図	60号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	76
第62図	60・61号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	78
第63図	61・66号竪穴住居跡実測図 (1/60)	79
第64図	66号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	80
第65図	66号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	81
第66図	66号竪穴住居跡出土土器実測図 .3 (1/3)	82
第67図	67号竪穴住居跡実測図 (1/60)	84
第68図	67号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	85
第69図	67号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	86
第70図	67号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	87
第71図	67号竪穴住居跡出土土器実測図 .3 (1/3)	88
第72図	68号竪穴住居跡実測図 (1/60)	89
第73図	68・69号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	90
第74図	68号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	91
第75図	69～73号竪穴住居跡実測図 (1/60)	折込み 92-93
第76図	68号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	93
第77図	71号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	93
第78図	70号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	94
第79図	70・71号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	95
第80図	72号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	96
第81図	73号竪穴住居跡カマドA実測図 (1/30)	97
第82図	73号竪穴住居跡カマドB実測図 (1/30)	98

第83図	72・73号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3).....	99
第84図	74・109号竪穴住居跡実測図 (1/60)	100
第85図	74号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30).....	101
第86図	74号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	102
第87図	75・76号竪穴住居跡実測図 (1/60).....	104
第88図	75号竪穴住居跡下層カマド実測図 (1/30).....	105
第89図	75号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	106
第90図	76号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	107
第91図	77・78号竪穴住居跡実測図 (1/60).....	108
第92図	77号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30).....	109
第93図	77号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	110
第94図	77・78号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	111
第95図	78号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	112
第96図	80・81号竪穴住居跡実測図 (1/60).....	113
第97図	80号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30).....	114
第98図	80・81号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	115
第99図	85・86号竪穴住居跡実測図 (1/60).....	116
第100図	85号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	117
第101図	87号竪穴住居跡実測図 (1/60).....	118
第102図	87号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30).....	119
第103図	87号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	120
第104図	87号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	121
第105図	87号竪穴住居跡出土土器実測図 .3 (1/3)	122
第106図	88・89・97・98号竪穴住居跡実測図 (1/60).....	123
第107図	88号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	124
第108図	88・89号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	125
第109図	90号竪穴住居跡実測図 (1/60).....	126
第110図	90号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30).....	128
第111図	90号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	129
第112図	90号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	130
第113図	90号竪穴住居跡出土土器実測図 .3 (1/3)	131
第114図	97号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	133
第115図	101号竪穴住居跡実測図 (1/60)	133
第116図	101号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	134

第117図	101号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	135
第118図	101号竪穴住居跡出土土器実測図 .3 (1/3)	136
第119図	101号竪穴住居跡出土土器実測図 .4 (1/3)	137
第120図	104号竪穴住居跡実測図 (1/60)	139
第121図	104・109号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	140
第122図	104号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	141
第123図	104号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	142
第124図	104号竪穴住居跡出土土器実測図 .3 (1/3)	143
第125図	104号竪穴住居跡出土土器実測図 .4 (1/3)	144
第126図	105・108号竪穴住居跡実測図 (1/60)	146
第127図	105・108号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	147
第128図	105・108号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	148
第129図	108号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	149
第130図	110・111号竪穴住居跡実測図 (1/60)	152
第131図	109～111号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	153
第132図	112号竪穴住居跡実測図 (1/60)	156
第133図	112・114号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	157
第134図	112号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	158
第135図	112号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	159
第136図	112号竪穴住居跡出土土器実測図 .3 (1/3)	160
第137図	112号竪穴住居跡出土土器実測図 .4 (1/3)	161
第138図	112号竪穴住居跡出土土器実測図 .5 (1/3)	162
第139図	112号竪穴住居跡出土土器実測図 .6 (1/3)	163
第140図	112号竪穴住居跡出土土器実測図 .7 (1/3)	164
第141図	112号竪穴住居跡出土土器実測図 .8 (1/3)	165
第142図	112号竪穴住居跡出土土器実測図 .9 (1/6)	166
第143図	114号竪穴住居跡実測図 (1/60)	168
第144図	114号竪穴住居跡出土土器実測図 .1 (1/3)	169
第145図	114号竪穴住居跡出土土器実測図 .2 (1/3)	170
第146図	116・117・119号竪穴住居跡実測図 (1/60)	172
第147図	116号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	173
第148図	117号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	174
第149図	119号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	175
第150図	116・118・120号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)	176

第151図	118・120・121号竪穴住居跡実測図 (1/60)	178
第152図	123号竪穴住居跡実測図 (1/60)	179
第153図	123号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	180
第154図	124号竪穴住居跡実測図 (1/60)	181
第155図	124号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	182
第156図	1号掘立柱建物跡実測図 (1/80)	184
第157図	4・10号掘立柱建物跡実測図 (1/80)	185
第158図	8号掘立柱建物跡実測図 (1/80)	186
第159図	9号掘立柱建物跡実測図 (1/80)	187
第160図	6・7号掘立柱建物跡実測図 (1/60)	189
第161図	32号土坑実測図 (1/40)	190
第162図	32号土坑出土土器実測図 (1/3)	191
第163図	1～3号土壌墓実測図 (1/30)	193
第164図	4～6号土壌墓実測図 (1/30)	194
第165図	7・10号土壌墓実測図 (1/20)	195
第166図	1・4～7・10号土壌墓出土土器実測図 (1/3)	198
第167図	1～5・8～11・14号溝断面および15・16号溝土層断面実測図 (1/30)	199
第168図	5・9・12・15号溝出土土器実測図 (1/3)	200
第169図	15号溝出土土器実測図 (1/3)	201
第170図	1050号ピット実測図 (1/20)	203
第171図	1050号ピット出土土器実測図 (1/6)	204
第172図	古墳時代以降のピット・包含層出土土器実測図 .1 (1/3)	205
第173図	古墳時代以降のピット・包含層出土土器実測図 .2 (1/3)	206
第174図	古墳時代以降のピット・包含層出土土器実測図 .3 (1/3)	207
第175図	古墳時代以降のピット・包含層出土土器実測図 .4 (1/3)	208
第176図	古墳時代以降のピット・包含層出土土器実測図 .5 (1/3)	209
第177図	古墳時代以降のピット・包含層出土土器実測図 .6 (1/3)	210
第178図	包含層出土縄紋土器実測図 (1/3)	212
第179図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .1 (1/4)	216
第180図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .2 (1/4)	217
第181図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .3 (1/4)	218
第182図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .4 (1/4)	219
第183図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .5 (1/4)	220
第184図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .6 (1/4)	221

第185図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .7 (1/4)	222
第186図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .8 (1/4)	223
第187図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .9 (1/4)	224
第188図	ピット・包含層出土弥生土器実測図 .10 (1/4)	225
第189図	古墳時代の石器・石製品実測図 (1~3は2/3 4~16は1/2)	226
第190図	ピット・包含層出土石器実測図 .1 (1~6は2/3 7~15は1/2)	227
第191図	ピット・包含層出土石器実測図 .2 (1/2)	228
第192図	ピット・包含層出土石器実測図 .3 (1/2)	229
第193図	ピット・包含層出土石器実測図 .4 (1/3)	230
第194図	鉄器実測図 (1/2)	231

[下巻]

第195図	鷹取五反田遺跡の位置と筑紫平野の地形図 (1/12,000)	234
第196図	鷹取五反田および比較遺跡 (北部九州・韓国) の炭化米粒長・幅平均値の分布図	238
第197図	鷹取五反田および比較遺跡 (北部九州・韓国) の炭化米粒長・幅平均値 (付 .95%信頼区間) の分布図	238
第198図	鷹取五反田遺跡の頻度分布図	239
第199図	鷹取五反田遺跡の炭化米 .1 (上は4号貯蔵穴 下は5号貯蔵穴)	245
第200図	鷹取五反田遺跡の炭化米 .2 (上は25号土坑 下は83号堅穴住居跡)	246
第201図	鷹取五反田遺跡の炭化米 .3 (上は32号土坑 下はP-3)	247
第202図	鷹取五反田遺跡の炭化米 .4 (89号堅穴住居跡)	248
第203図	鷹取五反田遺跡の古墳時代年代別遺構分布図 (1/1,200)	252

表 目 次

[上巻]

表 1	国道210号浮羽バイパス用地内の各調査地点一覧	4
-----	-------------------------	---

[下巻]

表 2	稲粒 (米、粳) 特性の指数、指数別階級値および特性の表現法 (和佐野、1995)	235
表 3	稲粒 (米、粳) の粒長・粒幅指数による粒型分類 (和佐野、1995)	235
表 4	鷹取五反田および比較遺跡の炭化米粒特性の平均値および標準偏差	236
表 5	鷹取五反田および比較遺跡の炭化米粒厚の頻度分布・平均値・標準偏差	241
表 6	鷹取五反田および比較遺跡の炭化米粒長 / 幅比の頻度分布・平均値・標準偏差	241
表 7	鷹取五反田および比較遺跡の炭化米粒の粒型分布図	243

Ⅲ 鷹取五反田遺跡の 炭化米特性と稲作起源

和佐野喜久生*・真鍋智子*・水ノ江和同**
(* 佐賀大学農学部・** 福岡県教育委員会)

1. はじめに

本遺跡は福岡県浮羽郡吉井町大字鷹取字五反田に所在し、筑紫平野の南東部、耳納連山の北側山麓を西流する筑後川の左岸に近い沖積平野に位置する(第195図)。遺跡は筑後川と耳納連山のほぼ中程にあり、筑後川の支流である美津留川と巨瀬川に挟まれた標高23mの扇状台地に立地し、弥生時代中期後半から8世紀後半代にいたる竪穴住居跡や墓地在検出されている。炭化米の出土遺構および所属年代については、弥生時代中期後半が83竪穴住居跡の1軒と4号・5号貯蔵穴の2基と25号土坑の1基、古墳時代後期が89号竪穴住居跡の1軒と32号土坑の1基で、それぞれから麦類・粟・堅果類(ドングリ)と一緒に炭化米が出土した。

弥生時代の中期後半とされる炭化米の出土状況は次のように報告されている(文献4)。

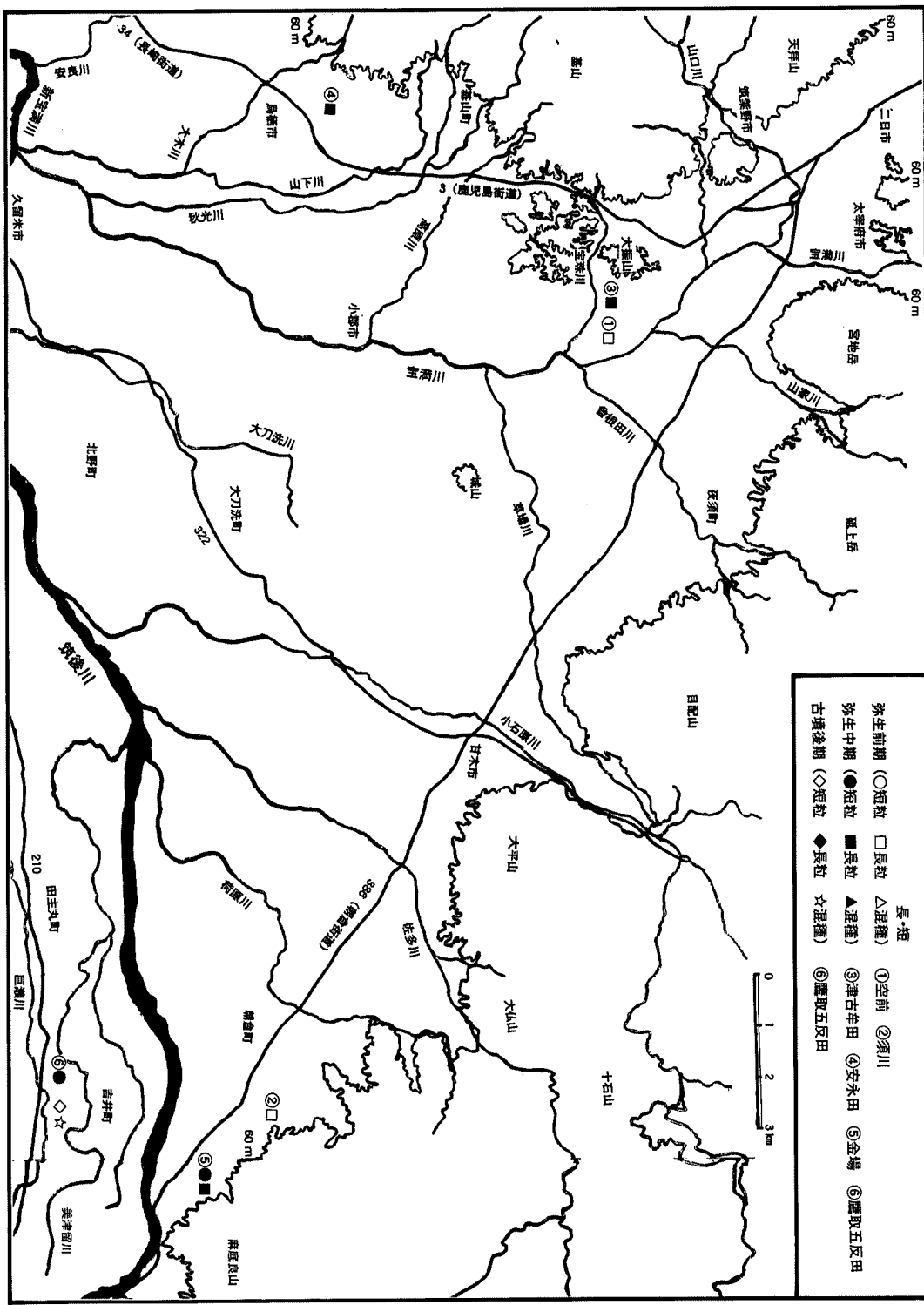
4号貯蔵穴は、P7区古墳時代後期の70、71号竪穴住居跡の下層で検出された。やや袋状に掘り込まれ、下底面との境は丸く底面もU字状になり、深さは58cmであった。埋土は3枚あり、第1層は茶褐色砂質土、第2層は10cm内外の黒色土、最下層の第3層は暗灰色砂層で、いずれもレンズ状に堆積していたが、炭化米は第2層から少量のアワと一緒に4.1kgを採集した。

25号土坑は、O8区で検出された長径163cm、短径130cmの長円形をした深さ47cmの土坑で、床面はほぼ平坦で断面は台形になった。炭化米は壺・甕などに伴って75gが検出された。

5号貯蔵穴はT10区に位置し、5号円形周溝状遺構の内側になり、この一帯は弥生時代の遺構が密集する地区である。焼土は第1～3層にも含まれが、特に第3層に大量の炭化米と焼土が発見された。また、第4層は炭化米だけがブロック状の層でみられ、第5層にも多量の炭化米が含まれていた。すべての埋土から5.7kgの炭化米が得られたが、土器の多くは第3層から出土した。

2. 材料および方法

本報告の炭化米資料は、貯蔵穴、竪穴住居跡および土坑中から掘り出した埋没土を、水洗・選別して得られたもので、発掘は福岡県教育委員会が行なった。炭化米粒の計測標本は、出土箇所が異なる7つの資料それぞれから100～130粒(P-3は69の全粒を調査)を任意抽出した。



第195図 應取五反田遺跡の位置と筑紫平野の地形図 (1/12,000)

表2 稲粒（米、粳）特性の指数、指数別階級値および特性の表現法（和佐野、1995）

米粒特性	特性指数 (階級値)					
	1	2	5	7	9	10
粒長 (mm)	(3.5) 極短粒	(4.1) 短粒	(4.7) 中長粒	(5.3) 長粒	(5.9) 極長粒	(6.5) 極大長粒
粒幅 (mm)	(1.3) 極狭粒	(1.9) 狭粒	(2.5) 中幅粒	(3.1) 広粒	(3.7) 極広粒	—
粒厚 (mm)	(0.7) 極薄粒	(1.3) 薄粒	(1.9) 中厚粒	(2.5) 厚粒	(3.1) 極厚粒	—
長/幅比	—	(1.1) 円粒	(1.7) 中形粒	(2.3) 細粒	(2.9) 極細粒	—
米粒特性	1	3	5	7	9	10
粒長 (mm)	(5.3) 極短粒	(5.9) 短粒	(6.5) 中長粒	(7.1) 長粒	(7.7) 極長粒	(8.3) 極大長粒
粒幅 (mm)	(1.9) 極狭粒	(2.5) 狭粒	(3.1) 中幅粒	(3.7) 広粒	(4.3) 極広粒	—
粒厚 (mm)	(1.3) 極薄粒	(1.9) 薄粒	(2.5) 中厚粒	(3.1) 厚粒	(3.7) 極厚粒	—
長/幅比	—	(1.1) 円粒	(1.7) 中形粒	(2.3) 細粒	(2.9) 極細粒	—

*: 4.4mm ≤ 中長粒 (4.7mm) < 5.0mm, 2.2mm ≤ 中幅粒 (2.5mm) < 2.8mm
1.6mm ≤ 中厚粒 (1.9mm) < 2.2mm, 1.4 ≤ 中形粒 (1.7) < 2.0

表3 稲粒（米、粳）の粒長・粒幅指数による粒型分類（和佐野、1995）

		粒長指数						粒幅表現
		1	3	5	7	9	10	
粒幅指数	1	1・1型	1・3型	—	—	—	—	極狭粒 狭粒
	3	3・1型J*	3・3型	3・5型	3・7型	3・9型	3・10型	
	5	5・1型J	5・3型J	5・5型J	5・7型	5・9型	5・10型	中幅粒 広粒 極広粒
	7	7・1型J	7・3型J	7・5型J	7・7型J	7・9型	7・10型	
	9	—**	—	—	—	—	—	
粒長表現		極短粒	短粒	中長粒	長粒	極長粒	極大長粒	

* J: 従来の分類法による長/幅比・2.0以下のジャポニカ・タイプにほぼ相当する。

** -: 本報告（和佐野、1995）の資料中にはみられなかった。

計測は、スケール付きの板上（約2mm深の4×8mm間隔の条溝の交点に10粒を並べる）で粒の平面（長・幅）および側面（厚さ）を接写撮影し、約4.5倍大にプリントしたものから行った。米粒の形態的特性は、粒長・粒幅および粒厚の測定値および計算によって求めた長/幅比の4項目とした。炭化米粒の接写写真（第199図）は、調査資料の全体像を反映するように、正形に近いものから大小、長短などの粒特性を考慮しながら上段右肩から順に配列して示した。

表2および3には、既報（文献3）に示した稲粒（米・粳）の形態的特性の表し方および粒型の分類の仕方を示した。なお、日本の古代稲を対象とした長粒系および短粒系の分類は、粒長で中長粒（粒長指数・5）と短粒（粒長指数・3）の境界の上下によって行ない、4.3mm以上が長粒系に相当する。

表 4 鷹取五反田及び比較遺跡の炭化米粒特性の平均値および標準偏差

遺跡名	4号貯蔵穴	5号貯蔵穴	25号土坑	83号住居	32号土坑	89号住居	P-3
時代	弥生中期後半	弥生中期後半	弥生中期後半	弥生中期後半	古墳後期	古墳後期	
所在地	福岡県浮羽郡	福岡県浮羽郡	福岡県浮羽郡	福岡県浮羽郡	福岡県浮羽郡	福岡県浮羽郡	福岡県浮羽郡
長 (mm)	4.09	4.06	4.04	4.19	4.07	3.99	3.93
S.D.	0.26	0.22	0.34	0.36	0.31	0.28	0.32
幅 (mm)	2.50	2.78	2.44	2.42	2.78	2.49	2.63
S.D.	0.20	0.22	0.20	0.22	0.27	0.20	0.24
厚 (mm)	1.79	1.94	1.78	1.76	1.95	1.76	1.85
S.D.	0.16	0.18	0.17	0.18	0.23	0.18	0.22
長/幅比	1.65	1.47	1.66	1.74	1.47	1.62	1.50
S.D.	0.13	0.13	0.15	0.15	0.14	0.16	0.15
調査粒数	100	100	110	130	100	120	69

S.D: 標準偏差

遺跡名	松菊里	菜畑	菜畑	有田	板付	瑞穂	安永田	吉野ヶ里
時代	B.C.5	縄文晩期	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生中期	弥生中期
所在地	忠清南道	唐津市	唐津市	前原市	福岡市	福岡市	鳥栖市	佐賀県
長 (mm)	4.02	4.11	3.93	4.01	4.19	4.17	4.50	4.60
S.D.	0.37	0.35	0.28	0.22	0.24	0.24	0.34	0.19
幅 (mm)	2.34	2.45	2.38	2.33	2.64	2.77	2.51	2.83
S.D.	0.27	0.23	0.20	0.15	0.18	0.19	0.18	0.13
厚 (mm)	1.59	1.93	1.95	1.58	1.80	1.86	1.86	1.98
S.D.	0.23	0.22	0.24	0.11	0.13	0.15	0.16	0.13
長/幅比	1.73	1.69	1.66	1.72	1.59	1.51	1.80	1.63
S.D.	0.12	0.17	0.12	0.11	0.11	0.11	0.15	0.10
調査粒数	122	155	38	107	120	100	110	180

S.D: 標準偏差

3. 結果および考察

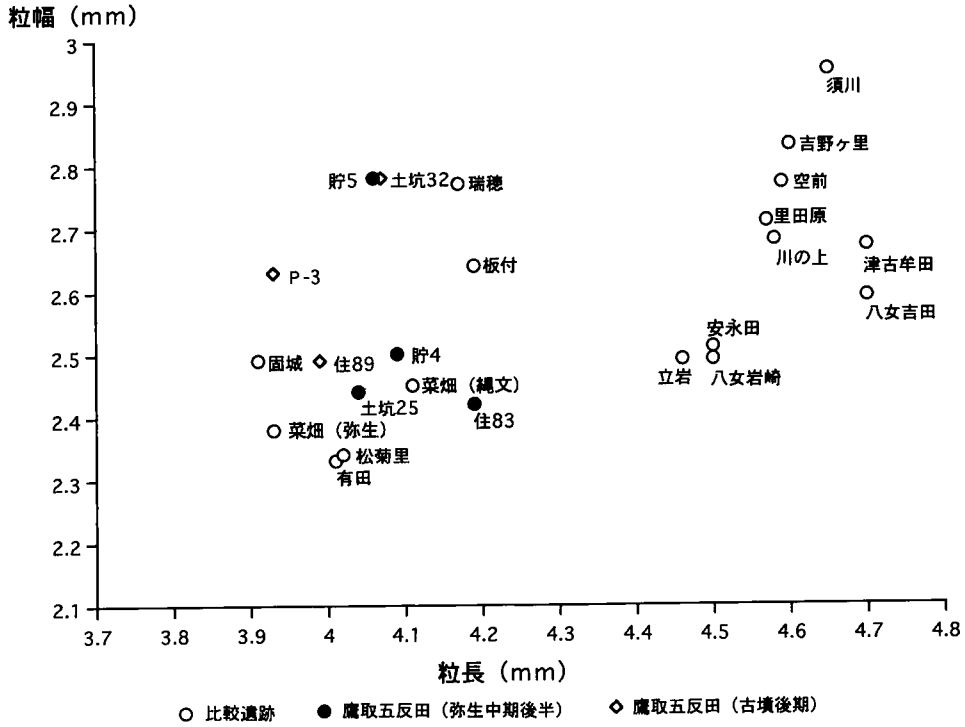
本遺跡の炭化米資料は弥生時代の中期後半から古墳時代後期のものを含むが、粒特性の比較は北部九州6遺跡7資料（縄文時代晩期～弥生時代中期）および韓国の松菊里（紀元前5世紀）のものを対照にして行った。表4には、粒特性4項目それぞれの平均値、標準偏差および調査粒数を示した。第196図は、長・幅平均値による粒形（大）分布を既報（文献1）の北部

九州および韓国の16遺跡17資料（図中の白抜きマル印「○」）と比較したものである。本遺跡の炭化米資料は、弥生時代中期後半のものは黒丸印「●」、古墳時代後期のものは白抜き菱印「◇」で区別した。

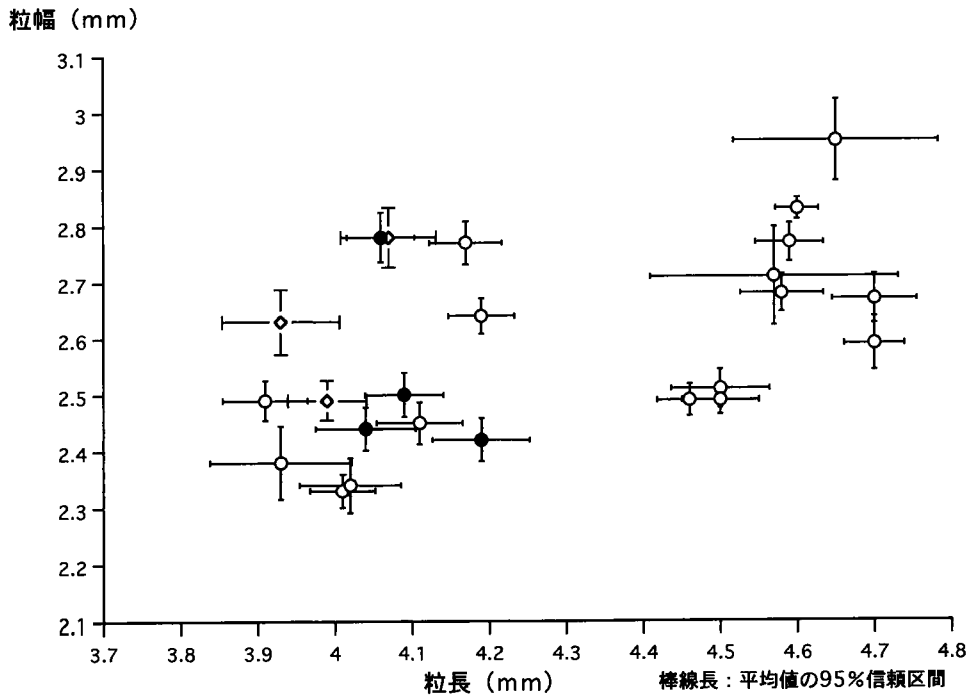
表4に示されるように、本遺跡の炭化米粒は粒長平均値は3.93～4.19mmの間に含まれ、いずれも短粒系に属する。第196図および第197図（平均値の95%信頼区間を付した）は、粒長・粒幅平均値による粒形（大）分布を上述の18資料と比較しながら示した。図から明らかなように、本遺跡の炭化米粒特性はいずれも短粒群に属するが、P-3（所属が明らかではない）以外は粒幅の大小によって2つのグループに群別された。群内の資料相互間には顕著な差はみられないが、4号貯蔵穴、25号土坑および89号竪穴住居跡の3資料は小粒種、5号貯蔵穴および32号土坑の2資料は短・広幅種になり、群内のそれぞれの資料間には他の2形質を含めていずれもほぼ同様な値を示している（表4）。83号竪穴住居跡の資料は短粒系の中では、やや長粒になる。以上のように、本遺跡には少なくとも2品種の稲が存在していたことが分かる。しかし、5号貯蔵穴および32号土坑の2資料間のように、両資料間に数百年の年代差が存在するにも拘わらず粒特性があまりにも近似過ぎることから、果たして、両者が年代的に異なる資料であったかどうかという疑問も生じてくる。このことについては、古墳時代後期とされる89号竪穴住居跡と32号土坑の年代観について再度検討を行なったが、遺構の特徴や出土物からはやはり古墳時代後期という年代しか得られなかった。資料の採集方法に問題があった可能性も否定できないが、今後の周辺地域における類例の増加を待って、この年代観の問題については再度検討を加えたいと考えている。

第198図は、本遺跡の炭化米資料それぞれの集団内の遺伝的純粋性をみるために、粒長変異をヒストグラムによって示したものである。粒長は量的形質であることから、変異の分布型がほぼ正規分布するものは1つの品種に由来する集団であると見なされる。図から一見して正規分布しているとみなされるものには、4、5号貯蔵穴および89号竪穴住居跡の資料がある。それ以外の分布をみると、25号土坑資料には3.6mm前後にピークをもつ極小粒の品種と、4.2mm前後の平均値をもつやや長粒の品種が混ざっているようである。次に、83号竪穴住居跡および32号土坑資料のものについては、前者は4.1mm前後の平均値をもつ変異の大きい短粒品種に4.7mm前後の平均値をもつ長粒品種が少し混入したようであり、後者は同様の短粒品種に3.8mm前後の平均値をもつ極短粒品種が混入したような分布を示している。なお、P-3の資料は所属が明確でないことから、いくつかの品種が混ざったものようである。

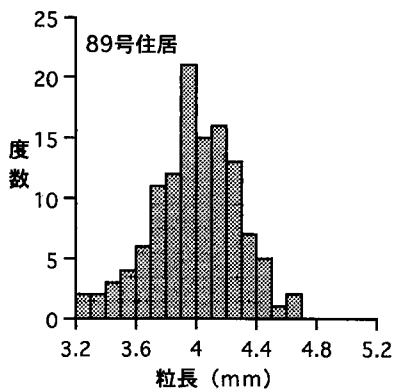
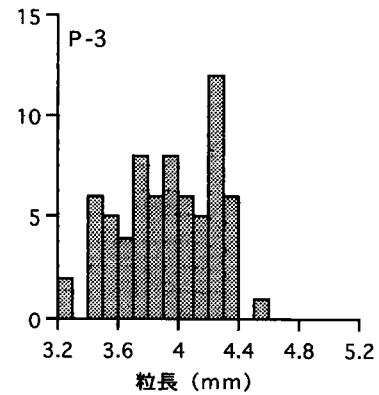
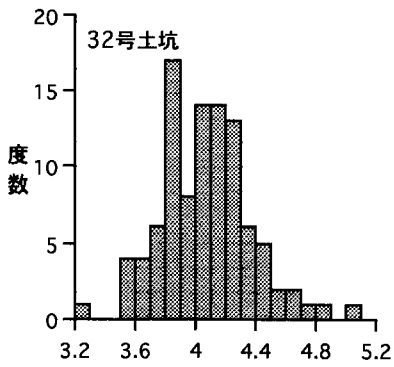
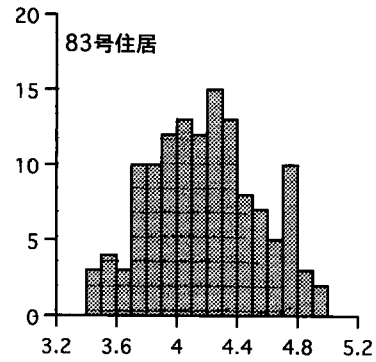
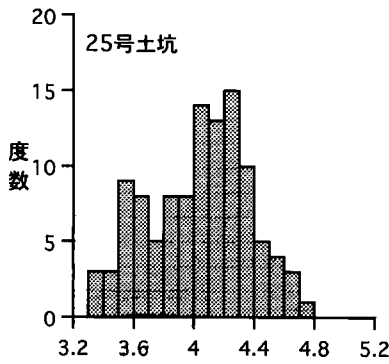
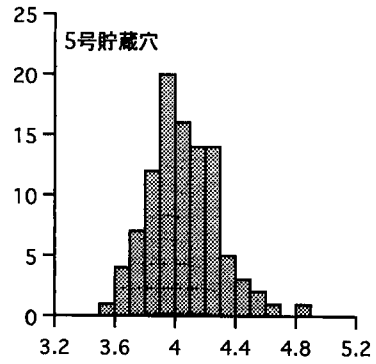
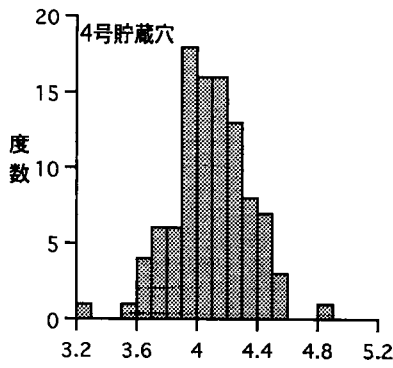
以上のことから、本遺跡の炭化米資料は、粒長平均値が4.0mm前後のほぼ遺伝的にも純粋なイネ品種（4、5号貯蔵穴資料および89号竪穴住居跡資料）と粒長平均値が4.1mm前後の品種に極短粒品種が混入したもの（25号、32号土坑資料）、および同品種に長粒品種がわずかに混ざったもの（83号竪穴住居跡）によって構成されていると言えよう。このことから、本遺跡の周辺には極短粒あるいは長粒のイネ品種が栽培されていた可能性が考えられる。



第196図 鷹取五反田および比較遺跡 (北部九州・韓国)の炭化米粒長・幅平均値の分布図



第197図 鷹取五反田および比較遺跡(北部九州・韓国)の炭化米粒長・幅平均値(付.95%信頼区間)の分布図



第198図 鷹取五反田遺跡の粒長の頻度分布図

表5には、7資料それぞれの粒厚の頻度分布を対照資料と比較しながら示した。上述の北部九州の17資料の粒厚平均値は1.88mmであり（文献3）、それに比べるとやや薄粒になるものが4号貯蔵穴、25号土坑、83号竪穴住居跡および89号竪穴住居跡の資料になるが、他の3資料は平均かそれ以上である。変異幅はやや広いものが2点みられるが、他は平均的である。このことから、この遺跡周辺の稲作は、肥沃な土地とやや稲作には不適な状況のところもあったようであるが、一応の稲作知識（部分的に混種が存在する）と栽培技術によって稲がつくられていると考えられる。

表6には、長／幅比の度数分布を前表と同じように示した。北部九州の全平均（1.69mm）に比べると、かなり小さい値（円粒系）を示すものが3資料（5号貯蔵穴、32号土坑、P-3）があるが、他はほぼ平均的な値を示している。

表7は、7つの炭化米資料それぞれ個々の粒型分布を対照遺跡と比較したものである。以下にその類似性を個別的に比較資料と対比しながら検討する。

4号貯蔵穴の炭化米は、佐賀県唐津市菜畑遺跡（縄文晩期）ものと類似した粒型分布を示すが、やや粒幅が広くて粒揃いがよい。粒幅は中幅粒（92%）がほとんどであるが、狭粒（6%）をも含む。粒長は短粒（78%）を主として、極短粒（12%）と中長粒（10%）を含む。粒型は5・3型（73%）を主とするが、5・5型（10%）、5・1型（9%）などを含み、ジャポニカ・タイプ（97%）の中幅の短粒種である。

5号貯蔵穴（弥生時代中期後半）の炭化米は、福岡県福岡市瑞穂遺跡（弥生時代前期）ものと類似した粒型分布を示すが、やや短粒になる。粒幅は広粒（50%）と中幅粒（49%）をほぼ同じ割合に含み、粒長は短粒（83%）を主として極短粒（10%）と中長粒（7%）を含む。粒型は、広・短粒型の7・3型（46%）と中幅・短粒型の5・3型（36%）を最も多く含み、他に中幅・極短粒型の5・1型（9%）、中幅・中長粒型の5・5型（4%）、広・中長粒型の7・5型（3%）などを含む。ジャポニカ・タイプ（99%）の広・短粒種である。

25号土坑（弥生時代中期後半）の炭化米は、菜畑遺跡（縄文晩期）ものと類似した粒型分布を示すが、やや極短粒が多くなる。粒幅は中幅粒（85%）がほとんどであるが、狭粒（12%）と広粒（4%）を含む。粒長は短粒（60%）を主として極短粒（27%）、中長粒（14%）を含む。粒型は5・3型（49%）を主とするが、5・1型（22%）、5・5型（14%）、狭・短粒型の3・3型（7%）、狭・極短粒型の3・1型（5%）などを含む多形型を示す。ジャポニカ・タイプ（93%）の中幅の短粒種である。

83号竪穴住居跡（弥生時代中期後半）の炭化米は、菜畑遺跡（縄文晩期）ものと類似した粒型分布を示すが、やや中長粒が多くなる。粒幅は中幅粒（83%）がほとんどであるが、他に狭粒（15%）とわずかの広粒（2%）を含む。粒長は短粒（57%）を主として中長粒（28%）と極短粒（15%）を含む。粒型は5・3型（51%）を主とするが、5・5型（24%）、5・1型（8%）、3・1型（7%）、3・3型（6%）などを含む多形型を示す。ジャポニカ・タイプ

表5 鷹取五反田および比較遺跡の炭化米粒厚の頻度分布・平均値・標準偏差

No.	遺構名	粒厚 (mm)									平均値 (mm)	標準偏差
		1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0	2.2	2.4	2.6		
1	4号貯蔵穴		1	9	46	35	8	1			1.79	0.16
2	5号貯蔵穴			4	18	40	31	7			1.94	0.18
3	25号土坑		1	17	43	38	11				1.78	0.17
4	83号住居		2	18	53	36	10	1			1.76	0.18
5	32号土坑		2	3	23	20	41	9	1		1.95	0.23
6	89号住居		5	12	54	36	13				1.76	0.18
7	P-3		2	6	18	17	11	4			1.85	0.22
	松菊里	7	3	29	64	15					1.59	0.23
	菜畑縄文		1	7	32	57	40	15	3		1.93	0.22
	菜畑弥生		1	6	10	11	9	1			1.95	0.24
	有田	1	2	56	44	4					1.58	0.11
	板付		1	4	50	57	8				1.81	0.13
	瑞穂		2	10	54	29	3	2			1.86	0.15
	安永田			9	27	56	16	2			1.86	0.16
	吉野ヶ里			1	38	91	28	1	1		1.98	0.13
	分類 (指数)	薄粒 (3)			中厚粒 (5)			厚粒 (7)				

表6 鷹取五反田および比較遺跡の炭化米粒長/幅比の頻度分布・平均値・標準偏差

No.	遺構名	長/幅比									平均値 (mm)	標準偏差
		1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0	2.2	2.4	2.6		
1	4号貯蔵穴		3	36	48	12	1				1.65	0.13
2	5号貯蔵穴		35	48	16	1					1.47	0.13
3	25号土坑		2	42	47	17	2				1.66	0.15
4	83号住居		2	21	69	30	7	1			1.74	0.15
5	32号土坑	1	30	51	16	2					1.47	0.14
6	89号住居		10	53	42	14	1				1.62	0.16
7	P-3		22	22	23	2					1.50	0.15
	松菊里			16	75	28	3				1.73	0.12
	菜畑縄文		4	42	75	26	4	3			1.69	0.17
	菜畑弥生			13	20	5					1.66	0.12
	有田			12	69	25	1				1.72	0.11
	板付		3	62	52	3					1.59	0.11
	瑞穂		17	61	22						1.51	0.11
	安永田			8	45	47	8	2			1.81	0.15
	吉野ヶ里		1	64	106	9					1.63	0.10
	分類 (指数)	円粒 (3)			中形粒 (5)			細粒 (7)				

(92%)の中幅の短粒種である。

32号土坑(古墳時代後期)の炭化米は、瑞穂遺跡のものと類似した粒型分布を示すが、やや短粒が多くなる。粒幅は広粒(53%)と中幅粒(43%)をほぼ同様に含み、粒長は短粒(72%)を主として極短粒(16%)、中長粒(11%)などを含む。粒型は、7・3型(41%)と5・3型(30%)を多く含み、他に5・1型(9%)、7・5型(7%)、広・極短粒型の7・1型(4%)、5・5型(4%)などを含む多形型を示す。ジャポニカ・タイプ(99%)の広幅の短粒種である。

89号竪穴住居跡(古墳時代後期)の炭化米は、菜畑遺跡(縄文晩期)のものと類似した粒型分布を示すが、やや中長粒のものが少ない。表には示していないが、固城遺跡(韓国、AD.100)のものにもよく類似する(文献3)。粒幅は中幅粒(89%)がほとんどであるが、狭粒(6%)と広粒(5%)をも含む。粒長は短粒(71%)を主として極短粒(22%)、中長粒(7%)を含む。粒型は5・3型(66%)を主とするが、5・1型(18%)、5・5型(5%)、3・1型(4%)などを含む。ジャポニカ・タイプ(98%)の中幅の短粒種である。

P-3の炭化米は、他には類似した粒型分布を示すものはみられないが、菜畑遺跡(弥生時代前期)のものに福岡県福岡市板付遺跡(弥生時代前期)あるいは瑞穂遺跡のものを混合したような分布を示す。粒幅は中幅粒(62%)と広粒(32%)がほとんどであるが、狭粒(5%)をわずかに含む。粒長は短粒(61%)を主として極短粒(36%)を含むが、中長粒(2%)をもわずかに含む。粒型は5・3型(38%)、5・1型(23%)、7・5型(22%)、7・1型(9%)、3・1型(4%)などを含む多形型を示す。ジャポニカ・タイプ(99%)の中幅の短粒種である。

以上のことを総合すると、本遺跡の炭化米粒特性、古代稲作あるいは稲品種の起源については、以下のことが考えられよう。

本遺跡の炭化米資料はいずれも短粒系に属するものであり、筑紫平野に独占的な分布がみられる長粒系のものとは明らかに異なるものである。炭化米の粒特性からは、短粒系のなかで粒幅に顕著な違いがみられ、菜畑遺跡(縄文時代晩期)および瑞穂遺跡のものに類似した2群に分類されたが、本資料が属する弥生時代中期後半と古墳時代後期の数百年を隔たる時代差による違いはみられなかった。

九州の古代の稲作起源を考える場合は、玄界灘に面した九州北岸域の短粒系のイネ品種と有明海に注ぐ筑後川流域にみられる長粒系のものと考えなければならない(文献1)。ところが、本遺跡の所在地は筑紫平野の南東縁辺奥部に位置しながら、イネ品種の由来あるいは古代稲作の起源は九州北岸域遺跡の短粒系のものと考えなくてはならない。ただ、未発表ではあるが、本遺跡に最も近い福岡県杷木町金場遺跡(弥生時代中期)には極短粒の炭化米が出土しており、さらに筑後川の支流・宝満川流域(第195図)の弥生時代(前期～中期)の遺跡(小郡市横隈山、津古内畑遺跡)にも短粒系のもものが混種としてみられる。このことから、筑紫平野での古

表7 鷹取五反田および比較遺跡の炭化米粒の粒型分布図

		4号貯蔵穴 100粒 粒長指数				計	5号貯蔵穴 100粒 粒長指数				計		
		1	3	5	7	9	(%)	1	3	5	7	9	(%)
粒幅指数	1 3	3	3				6		1				1
	5 7 9	9	73 2	10			92 2	9 1	36 46	4 3			49 50
計%		12	78	10			100	10	83	7			100
		25号土坑 110粒						83号住居 130粒					
粒幅指数	1 3	5	7				12	7	6	2			15
	5 7 9	22	49 4	14			85 4	8	51	24 2			83 2
計%		27	60	14			101	15	57	28			100
		32号土坑 100粒						89号住居 120粒					
粒幅指数	1 3	3	1				4	4	2				6
	5 7 9	9 4	30 41	4 7	1		43 53	18	66 3	5 2			89 5
計%		16	72	11	1		100	22	71	7			100
		P-3 69粒											
粒幅指数	1 3	4	1				5						
	5 7 9	23 9	38 22	1 1			62 32						
計%		36	61	2			99						

		松菊里 122粒 粒長指数				計	板付 120粒 粒長指数				計		
		1	3	5	7	9	(%)	1	3	5	7	9	(%)
粒幅指数	1 3	3					3						
	5 7 9	14	6				20						
計%		6	60	13			79	5	58	15			78 21
		23	66	13			102	5	71	23			99
		菜畑細文 155粒						瑞穂 100粒					
粒幅指数	1 3	8	5	2			15	1					1
	5 7 9	14	47 5	19 1			80 6	4	45 35	8 7			57 42
計%		22	57	22			101	5	80	15			100
		菜畑弥生 38粒						安永田 110粒					
粒幅指数	1 3	13	3				16		2	3			5
	5 7 9	18	53 3	11			82 3	3	30 1	53 3	6		92 4
計%		31	59	11			101	3	33	59	6		101
		有田 107粒						吉野ヶ里 180粒					
粒幅指数	1 3	6	9				15						
	5 7 9	10	71 1	3			84 1		6 7	33 54	1		40 61
計%		16	81	3			100		13	87	1		101

代の「イネの道」としては、1つには古代の官道・朝倉街道がり、あと1つは位置的にはやや距離があるが、宝満川を下って筑後川を少し廻り、さらにその支流・美津留川に入れば本遺跡に至る。本遺跡の所在する筑後川中流域が周辺地域との交流を行なう場合、筑後川沿いの限られた範囲ではなく、直接に福岡平野とも積極的に交流を行なっていたことを示していると考えられる。またこれに対して、筑紫平野の中央部に位置する福岡県甘木市平塚川添遺跡（未発表）の炭化米は佐賀県神埼町吉野ヶ里や同県東背振村瀬ノ尾遺跡のものに酷似する長粒系であり、本遺跡の事例とともに古代の交流のシステムが多元的であったことを物語る事例として極めて興味深い。以上のように、本遺跡の古代イネの品種の由来あるいは古代稲作の起源については、今後の周辺地域の弥生遺跡からの炭化米資料の新たな発掘を待って、さらに考察を深める必要があると思う。

[要約]

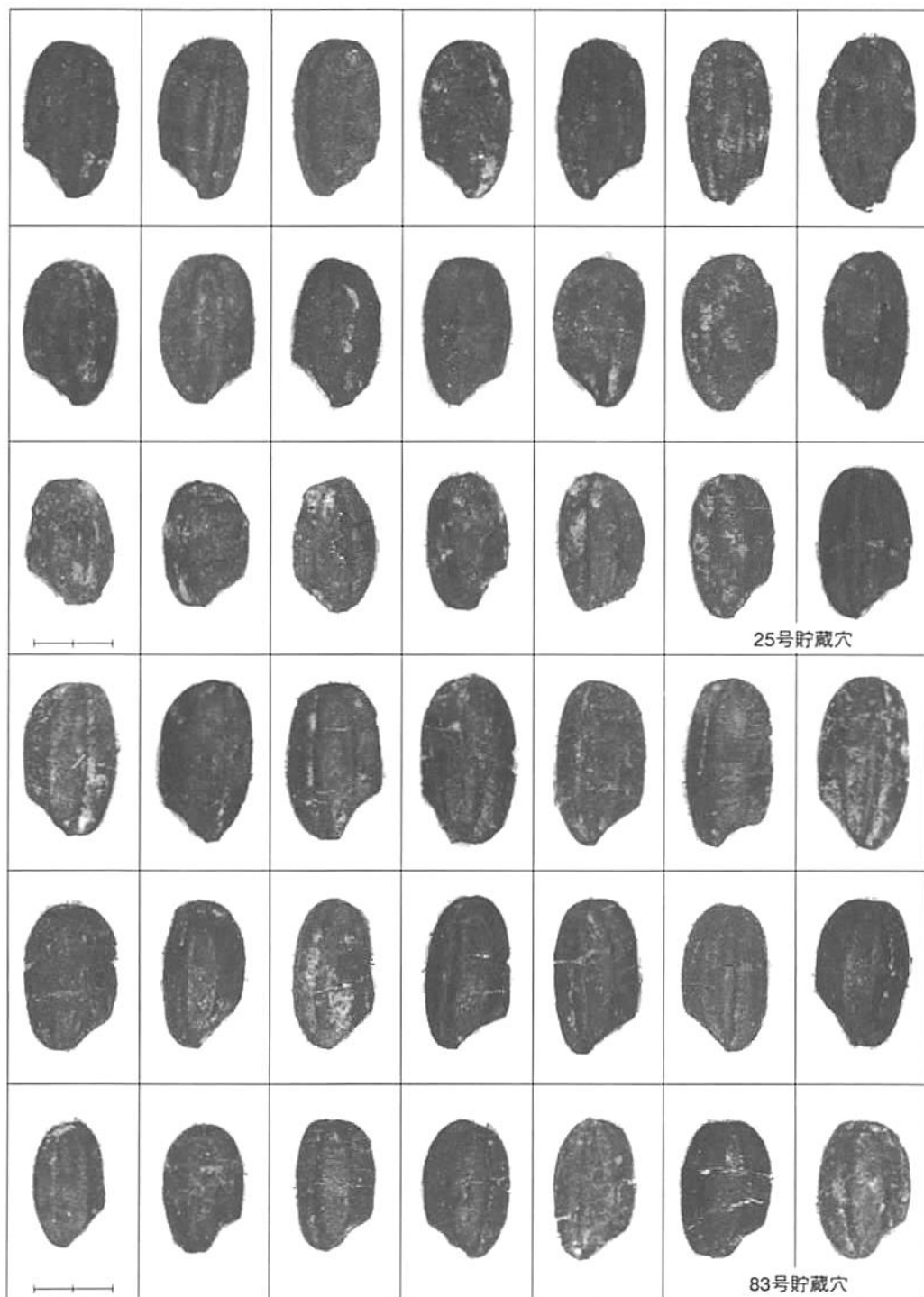
1. 鷹取五反田遺跡の炭化米は弥生時代中期および古墳時代後期に属するものであったが、粒特性を既報の北部九州および韓国の遺跡のものと比較し、本遺跡の古代稲の粒特性と稲作起源についての考察を行った。
2. 本遺跡の炭化米粒はいずれも短粒系のイネ品種に属したが、粒幅の違いによって菜畑遺跡（縄文晩期）および瑞穂遺跡のものに類似する2群に分れた。このことから、本遺跡のイネ品種あるいは古代稲作は、玄界灘沿岸域起源のものが陸路あるいは河川を利用して南下してきたものと考えられる。
3. 炭化米の粒厚の充実度は良およびやや不良のものがみられたことから、本遺跡周辺でのイネの栽培条件は必ずしもすべてが最適ではなかったようである

[参考文献]

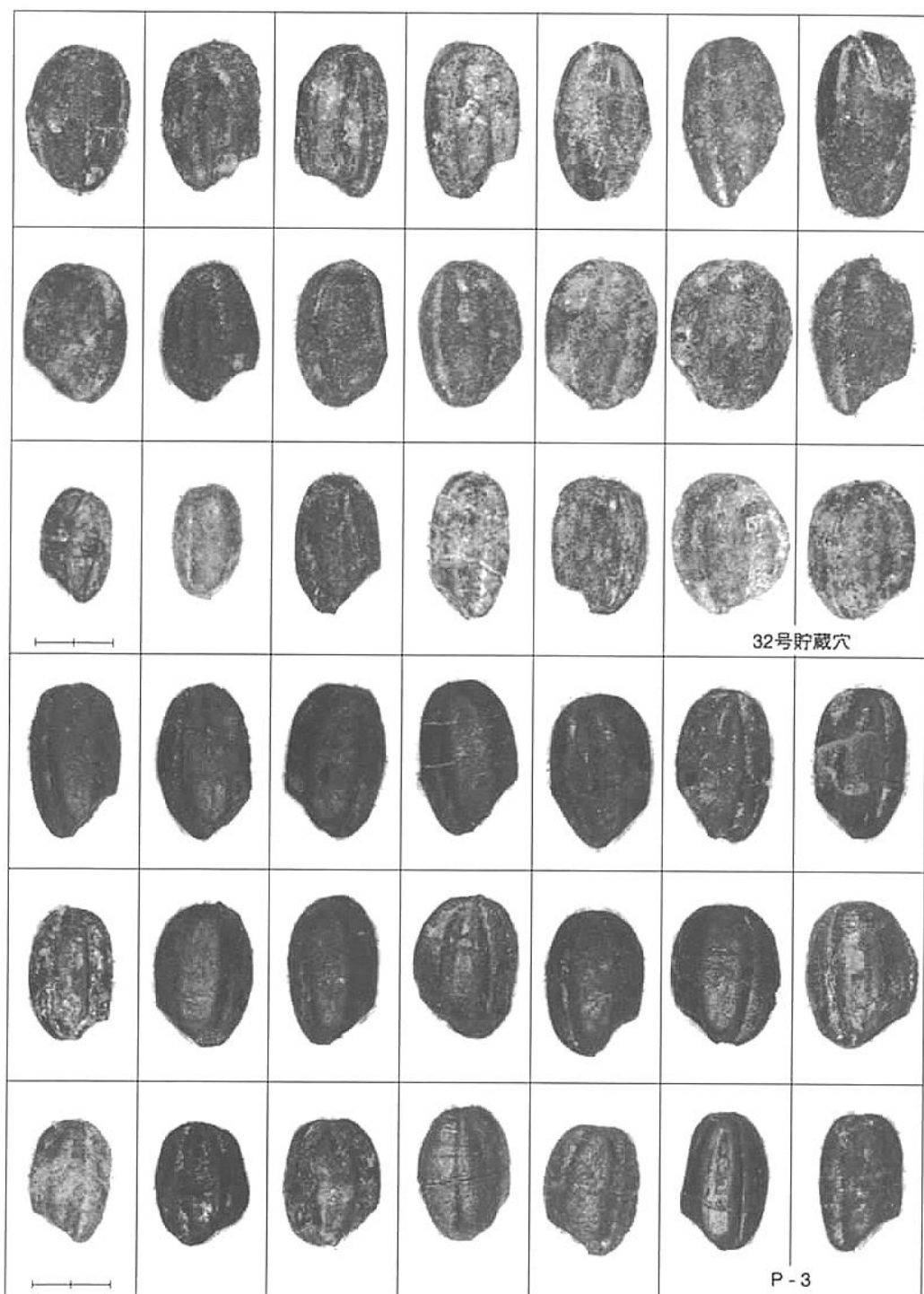
- 1 和佐野喜久生 1993 「九州北部古代遺跡の炭化米の粒特性に関する考古・遺伝学的研究」『育種学雑誌』 43: 586-602.
- 2 和佐野喜久生 1995 「稲作の江南起源説」『講座・文明と環境 第3巻 農耕と文明』朝倉書店 東京 143-167
- 3 和佐野喜久生 1995 「東アジアの古代稲と稲作起源」『東アジアの稲作起源と古代稲作文化 文部省科学研究費による国際学術研究、報告・論文集』和佐野喜久生・研究代表・編集: 1-52、331pp.
- 4 水ノ江と同編 1998 『鷹取五反田遺跡 I』福岡教育委員会



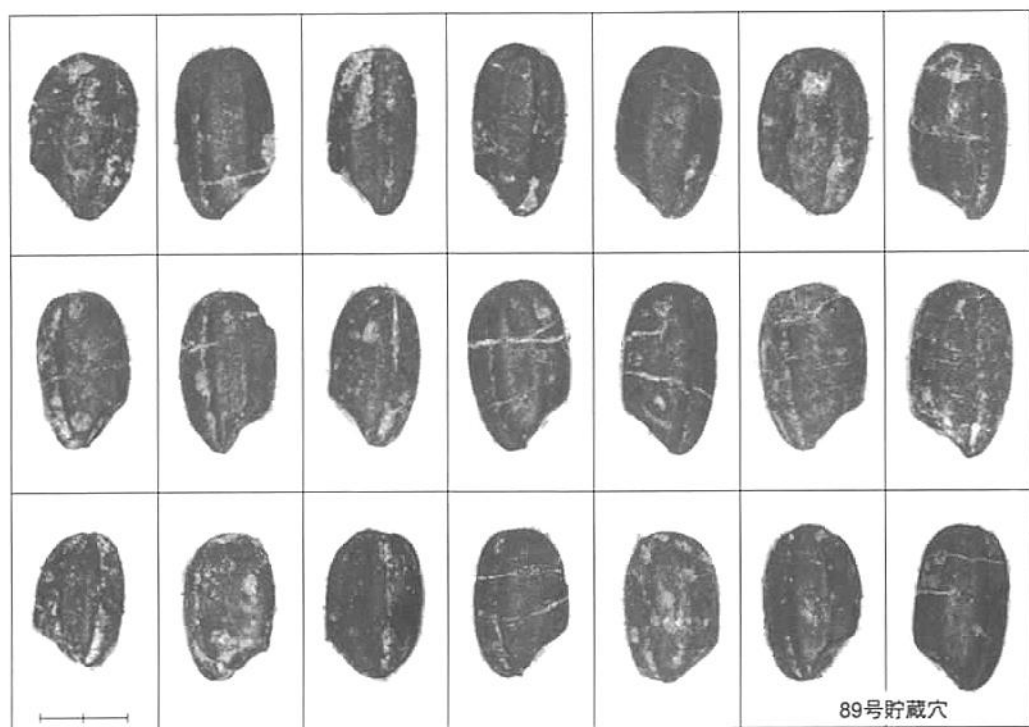
第199図 鷹取五反田遺跡の炭化米.1 (上は4号貯蔵穴 下は5号貯蔵穴)



第200図 鷹取五反田遺跡の炭化米.2 (上は25号土坑 下は83号竪穴住居跡)



第201図 鷹取五反田遺跡の炭化米.3 (上は32号土坑 下はP-3)



第202図 鷹取五反田遺跡の炭化米.4 (89号竪穴住居跡)

IV おわりに

1. 鷹取五反田遺跡の概要

鷹取五反田遺跡は、南を活断層の所産とされる耳納山麓に、北は福岡県最大かつ最長の筑後川に挟まれた標高22mほどの平野部に立地する。当該地は美津留川の氾濫原でそれによる土砂の堆積は著しく、また中世以降の条里遺構の遺存状態は県内でも有数の地域であるため、客土による盛り土も多く、現地表面から約2mほど表土や客土や土砂を除去してはじめて遺構面に達する。したがって、周辺地の現況を見る限りでは旧地形がどのような状況であったのかほとんど判断することができない。

遺跡は全体的に東方向へ緩やかに傾斜しており、今回の250mに及ぶ細長い調査区の中で検出された竪穴住居跡の床面レベルは、東西両端で約1mの比高差がある。この調査区の中央部I-J区付近より西側の遺構面は拳大から人頭大までの自然礫を多量に含む礫層であるのに対して、それより東側では暗黄褐色砂質土が遺構面となっている。礫層に遺構を掘り込む困難さを考慮するなら、この場所に敢えて竪穴住居を構築しなければならなかった必然性が何であったのかが非常に興味深い。また、遺跡の西横を流れる美津留川を挟んで反対側には時期的にほぼ同じあるいは若干ズレる船越高原遺跡が広がっており、両者の間にどのような社会的な関係があったのかも注目すべきことである。

なお、発掘調査は周辺部のほ場整備事業の進捗状況に合わせて、平成2・5・6（1990・1993・1994）年度の3カ年に亘って進めた。したがって、一定の方向性で順次調査を進めて行くのではなく、工事の優先度の高い地点からランダムに調査を進めたため、二度手間になったり遺跡の全体写真が撮れなかったりするなど、不都合な点が多々見られた。今後はこのような事態ができるだけ生じないように、事前協議を綿密に進めたい。

2. 弥生時代の鷹取五反田遺跡

弥生時代の遺構としては、竪穴住居跡47軒、掘立柱建物跡1棟、方形竪穴状遺構1基、貯蔵穴5基、土坑40基、円形周溝状遺構6基、甕棺墓24基、土壇墓2基、石棺墓1基が検出されたが、これらはいずれも弥生時代中期後半から後期前半代に位置づけられるものである。

竪穴住居跡については、部分的に数軒が集中する地区が見られるものの、調査区のほぼ全域に亘って満遍なく分布している。平面プランは長方形で、その長軸線上の中央部に炉跡が、炉跡を挟むようにやはり長軸線上に2本の支柱穴を持つものが一般的で、この長軸線が東西方向に延びるのが多く見られる。壁際に屋内土坑を持つものやベッド状の高まりを持つものもある

が、類例は少なくむしろ特殊事例である。

本遺跡で最も注目される弥生時代の遺構としてはやはり甕棺墓であろう。24基が確認されたが、このうち20基は調査区西端部 S-T-U11区の範囲に、西北西—東南東方向に約20mに亘っておよそ列状に配列されている。明確な列状ではなく、また頭位方向にもやはり明確な纏まりはないものの、中期後半から後期前半にかけてこの場所に或る種の墓域としての規制が働いたものと考えられる。特に今回注目されるのは、16号甕棺墓の下甕の一部が17号甕棺墓の蓋として転用されたり、14号甕棺墓の上甕の一部が21号甕棺墓の墓壇内で出土したことである。甕棺墓を作るどの段階でこのような行為が行われたのか不明ではあるが、これらの甕棺墓の間に何等かの社会的な関係、例えば婚姻関係等があったことが想定される。人骨がほとんど残っていないだけにそれを検証することは難しいが、甕棺墓の調査においてはこのような事例があることを念頭に置くことが今後は必要であるし、また、復原作業においては異なった甕棺墓間での接合を試みることも望まれる。

円形周溝状遺構も甕棺墓群に近接して、T-U10-11区に6基が密集する。中期後半の甕棺墓を切るものもあれば、同時期の甕棺墓や土坑に切られるものもあり、いずれにしても中期後半に収まる年代的な位置づけが可能である。また、5号円形周溝状遺構については、円形ではなく逆「の」字状に捲いていき、中央部へ向かうにつれて深く掘り込まれ、さらには1.0～1.5mの間隔でこの円形周溝状遺構に沿ってピットが巡っており、従来の円形周溝状遺構とは異なる特徴を見せるものもある。果たしてこれを円形周溝状遺構と呼んで良いのか疑問も残るが、ここでは便宜的に円形周溝状遺構として位置づけた。今後の類例の増加を待ちたい。

土坑も40基が確認されたが、性格のわかるものは少ない。その中にあって、41号土坑は丹塗土器が多量に投棄されており、また甕棺墓群にも近接していることから、甕棺墓に伴う祭祀土坑であることが想定される。ただし、完形土器や完形近くに復原できるときもほとんどなく、この点を考慮するなら、祭祀の行為に使用した土器の廃棄土坑としての性格が強いと考えられる。甕棺墓群に伴う祭祀土坑の多様性を物語る類例として興味深い。

4・5号貯蔵穴や83号竪穴住居跡や25号土坑から出土した炭化米を分析した結果、いずれも筑紫平野（有明海沿岸）に広く分布するとされた長粒系ではなく、福岡平野に分布する短粒系であることが判明した。当該地と周辺地との交流がただ筑後川沿いの限られた範囲ではなく、直接に福岡平野とも積極的に交流を行っていた傍証として興味深い。

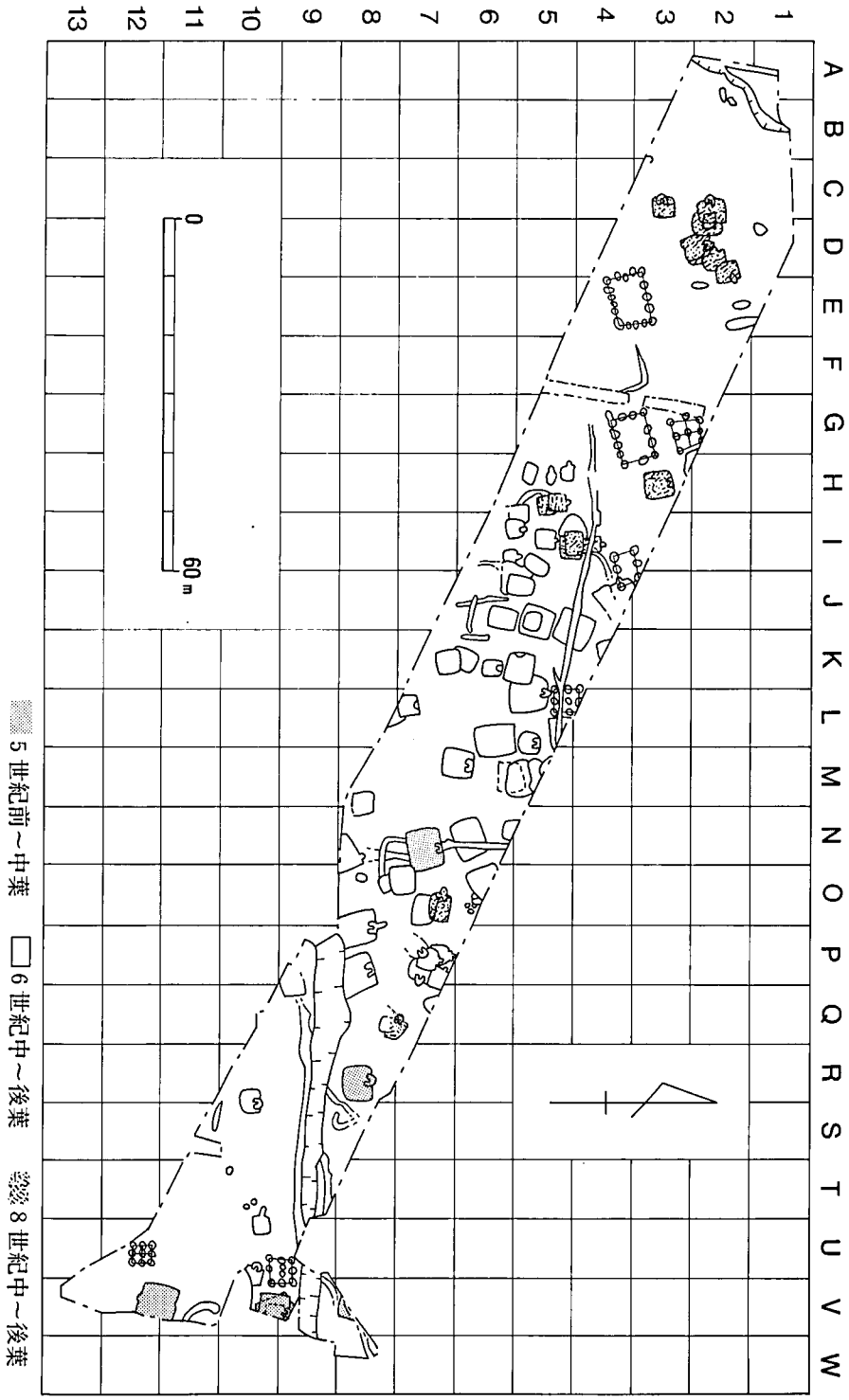
以上のように、本遺跡の弥生時代の状況について纏めてみたが、先述したように、美津留川を挟んだ対岸には同時代の集落遺跡である船越高原遺跡が所在しており、それとの関係を考慮しない限りは、本遺跡の本質的な性格付けは難しく、今後に残された課題も多いことをここで確認しておきたい。

3. 古墳時代以降の鷹取五反田遺跡

古墳時代以降の遺構としては、竪穴住居跡76軒、掘立柱建物跡7棟、土坑1基、土壙墓8基、溝16本が主なものとして検出された。年代的には5世紀前葉～中葉、6世紀中葉～末、8世紀中葉～後葉の大きく3期に分かれる。以下、この3期の年代別の特徴について纏めてみたい。

5世紀前葉～中葉の竪穴住居跡は90・101・104・112・116・117・119号の7軒で、いずれも調査区の東端部に集中する。調査区外へ延びるものが多く全体像を把握することが難しいが、平面プランは正方形もしくは長軸が東西報告に延びる横に長い長方形も見られる。カマドはおよそ北壁に付設されるが、104号住居跡に限っては本遺跡の竪穴住居跡野中でも唯一南壁に付設される例である。カマドの形態もまちまちで、104・116・119号住居跡のようにわずかに突出するものもあれば、112号住居跡のように焚き口を石で構築するものもある。この時期の竪穴住居跡として最も注目されるのが、112号住居跡の遺物の出土状態である。本住居跡は住居の機能が廃絶した直後の埋没の時点で、多量の完形になる坏と、坏部と脚部が外された状態の30個体以上になる高坏、さらにはまったく完全に復原できる須恵器大甕が投棄されたような状態で出土したことである。非常に祭祀性の強い出土状態ではあるが、本遺跡の同時期の他の住居跡ではこのような状況が認められなかっただけに、その意義については不明な部分が多い。なお、当該期の出土遺物のほとんどは土師器で須恵器は数点しか出土しないが、この時期の特徴としてよく見られる状況である。

6世紀中葉～末は、本遺跡において古墳時代の主体を成す時期である。52軒からなる竪穴住居跡は調査区の中央部より東側に分布するが、その大半は調査区中央部H4-5区からP7-8区のおよそ東西100mの範囲に密集し、L6区にピット一つもない直径25mほどの空間を形成するのが特徴的である。平面プランは正方形もしくは若干の長方形になるものも見られる。カマドの多くは北壁中央部に付設され、したがって住居跡の方位もほぼ真北を軸とする。出土遺物から当該期に属する住居跡でカマドが西壁に付設されるものは36・51・105・108号住居跡の4軒だけであるが、住居跡内に付設されるのは108号住居跡だけで、他はいずれも住居跡の外へ突出する。出土遺物は51号住居跡を除いていずれも少なく、遺物の出土がほとんど認められなかった西壁に突出する40・41号住居跡とともに、これらの多くは8世紀中葉～後葉に本来は属するものである可能性も否定できない。ところで、当該期のカマドには、住居跡の外へ突出するタイプと、屋内に付設されるタイプの2種類に大きく分けることができる。前者の場合多くは一辺が3～4m程度の比較的規模の小さい住居跡に見られるのに対して、後者は一辺が5～6m程度の比較的規模の大きな住居跡に見られる。これは住居内での空間（面積）の問題に呼応していると従来考えられているが、本遺跡の場合も同様の見解に基づく結果と考えられる。なお、規模の小さい竪穴住居跡の場合、4本の支柱穴が明確に確認できないことが多いが、こ



第203図 應取五反田遺跡の古墳時代年代別遺構分布図 (1/1,200)

れも空間（面積）の問題と同様で、おそらくは住居跡の外（周辺）に主柱穴が掘られた可能性も認められる。

8世紀中葉～後葉（奈良時代）の竪穴住居跡は、出土遺物から確実に押さえられるのは5～10・20・24・31・38・39・46・47・68・74号住居跡の15軒と、先述したよう出土遺物はないもののカマドの特徴や分布地域から40・41号住居跡も同時期と考えられる。全体的な分布としては、調査区西端部D2区と調査区中央部やや西寄りのI4-5区の2カ所に集中するが、これ以外には2～3軒しか認められない。住居跡の平面プランはほぼ正方形で、一辺が4m程度の比較的規模の小さいものに限られる。平面プランが長方形になるものも数軒見られるが、これらはいずれも一辺が3mほどと小さく、またカマドも西壁に付設される場合が多い。主柱穴は4本が確認されるものもあるが、多くは明確に主柱穴として認められるものがない場合が多いのもこの時期の特徴となる。カマドは多くの場合は住居跡の外へ突出しており、先述したように西壁に付設されて北壁への付設はむしろ少ない。

以上のように、竪穴住居跡の分布や特徴を概観すると、東西250mからなる本遺跡の中を5世紀前葉～中葉、6世紀中葉～末、8世紀中葉～後葉の3段階に亘って集落の中心が東から西へと移っていく様子が明確に窺える。その理由については、調査成果から明確な答えを導き出すことはできないが、おそらくは美津留川の氾濫等もこういった集落の設置に大きく係わったものと考えられる。なお、対岸の船越高原遺跡ではやはり6世紀中葉～末が遺跡の中心を成すようであるが、本遺跡には存在しない4世紀代や7世紀代の竪穴住居跡も検出されており、あるいは美津留川を挟んで同一系列の集団が古墳時代のほぼ全期間を通して生活領域を形成していた可能性も窺える。このことについては、船越高原遺跡の正式報告を待って再度検討したい。

土壌墓については8基が確認されたが、そのうち1～6号の6基は調査区西端部に集中する。1・2・6号については軸を東西方向に向け、3～5号については南北方向に向け違いを見せる。ここで問題になるのが所属年代であるが、纏まった遺物の出土をみた1・6号からは7世紀という年代が得られた。この年代は本遺跡の竪穴住居跡ではまったく得られない年代であるが、美津留川の対岸である船越高原遺跡では多くの当該期の竪穴住居跡が確認されており、その集団の墓地である可能性が窮めて高い。溝は16本が検出されたが、いずれも古墳時代（6世紀中葉～末）に属するものであり、またほぼ東西もしくは南北に走行する。竪穴住居跡や掘立柱建物跡と有機的な関係を有していたことを如実に物語っていると言えよう。その中でも15号溝については、本遺跡の溝の中でも幅も深さも最大級のものであるが、現代の用水路とほぼ同じ場所に掘削されている事実は興味深い。本遺跡の所在する吉井町は、県内でも条里遺構が現代の田畑の地割りに明瞭に残る地域として有名である。かつて、本遺跡の東1.5kmの堺町・大碓遺跡でもほぼ東西に走行する幅約10m、深さ2mの12世紀代の溝を検出したが、これは条里遺構と見られる現代の田畑の地割り見事に乗っていた。今回の15号溝の場合も、6世紀後半代であるだけにこれと同様に考えることは当然にできないが、一つの可能性として位置づけるこ

とは必要であろう。

89号竪穴住居跡や32号土坑から出土した炭化米を分析した結果、いずれも本遺跡の弥生時代中期後半の炭化米と酷似した短粒系であることが判明した。当初は出土遺構の年代観に問題があるのではとの疑義も生じたが、再度検討した結果、やはり古墳時代後期に所属する炭化米という認識に至っている。しかし、当該期の資料はこの地域一帯では類例が少ないだけに、今後資料の増加を待って再度の検討を行ないたい。

以上、古墳時代以降の鷹取五反田遺跡について纏めてきた。当該地は筑後川中流域の南岸に広がる平野部の中心地（浮羽地区）に位置し、塚堂・月岡・日岡古墳といった前方後円墳からなる若宮古墳群や、100mを越える大前方後円墳である田主丸大塚古墳に近接する地域として、また多くの装飾古墳が存在する地域として、古墳時代においては非常に重要な位置関係にある。特に近年、210号浮羽バイパスの建設に伴う発掘調査や、ほ場整備に伴う発掘調査が広面積で多数行なわれ、古墳時代前期から奈良時代までの遺跡がほぼ途切れることなく確認されだした。このように古墳と集落とを一体として位置づけることが可能な地域は未だ少なく、そういった意味においても、当該地が一層重要性を帯びてくることになるが、いずれにせよ今後の調査と報告書の刊行が大いに期待される地域として今後注目していきたい。

図 版



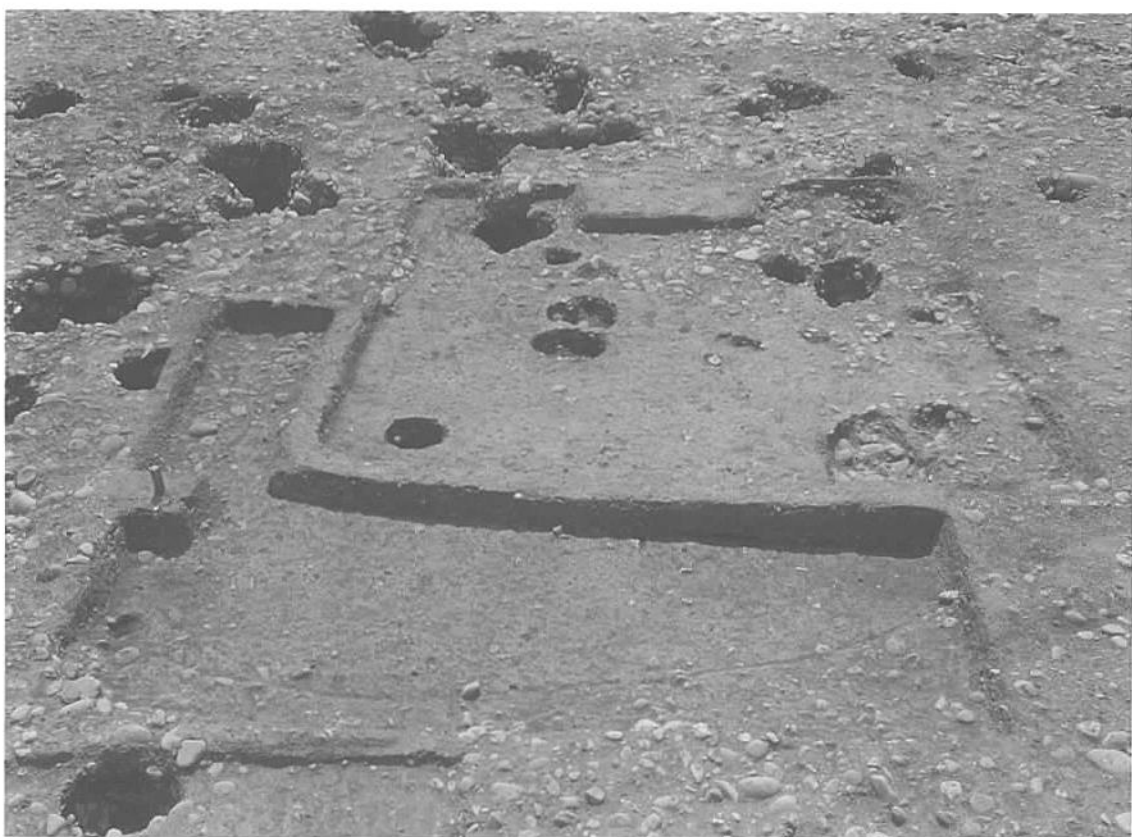
鷹取五反田遺跡第3次調査区全景（北西から 1994）



鷹取五反田遺跡調査区西部より耳納山麓を望む（北東から 1990）



(1) 5~9号竪穴住居跡 (東から)



(2) 5・6号竪穴住居跡 (南から)



(1) 5号竪穴住居跡カマド（南から）



(2) 6号竪穴住居跡（北から）



(1) 7号竖穴住居跡 (南から)



(2) 7号竖穴住居跡カマド (南から)



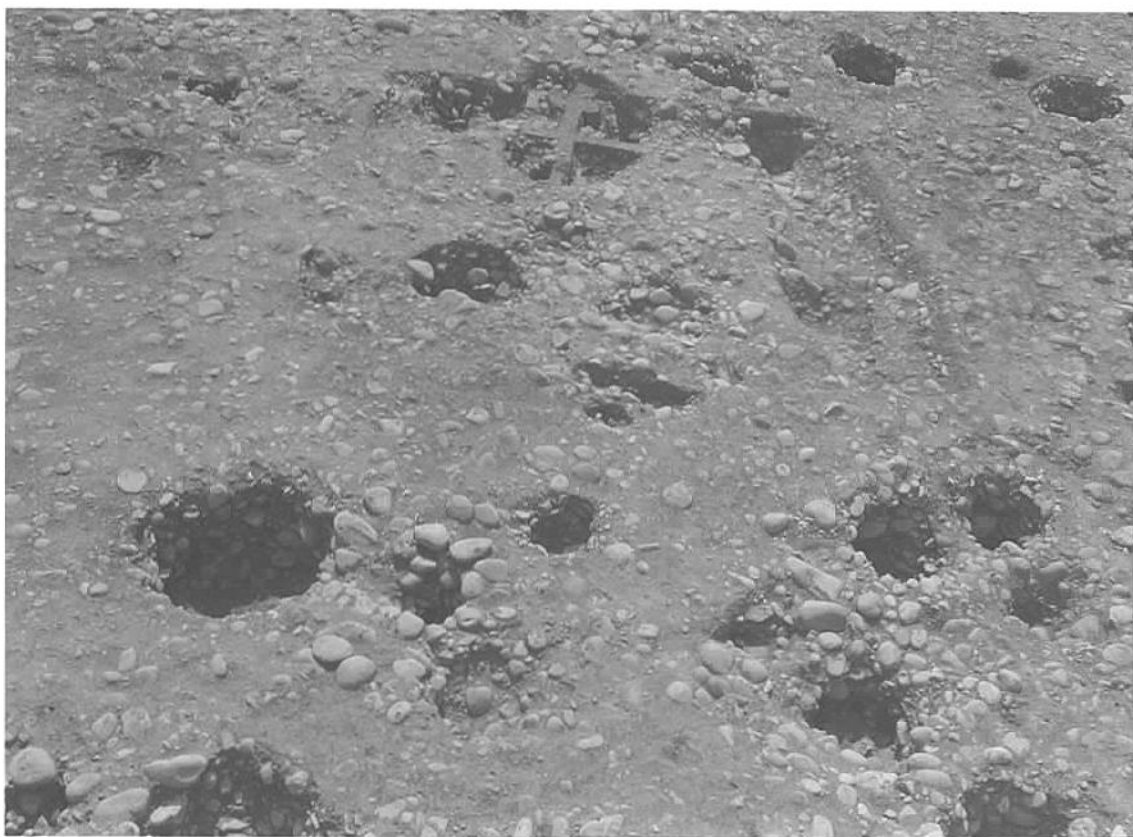
(1) 7・8号竪穴住居跡カマド（南から）



(2) 8・9号竪穴住居跡（東から）



(1) 8号竪穴住居跡カマド (東から)



(2) 10号竪穴住居跡 (東から)



(1) 20号竪穴住居跡（南から）



(2) 20号竪穴住居跡カマド（東から）



(1) 24号竪穴住居跡 (南から)



(2) 24号竪穴住居跡カマド (南から)



(1) 31号竪穴住居跡（南から）



(2) 31号竪穴住居跡カマド（南から）



(1) 36・37号竪穴住居跡 (南から)



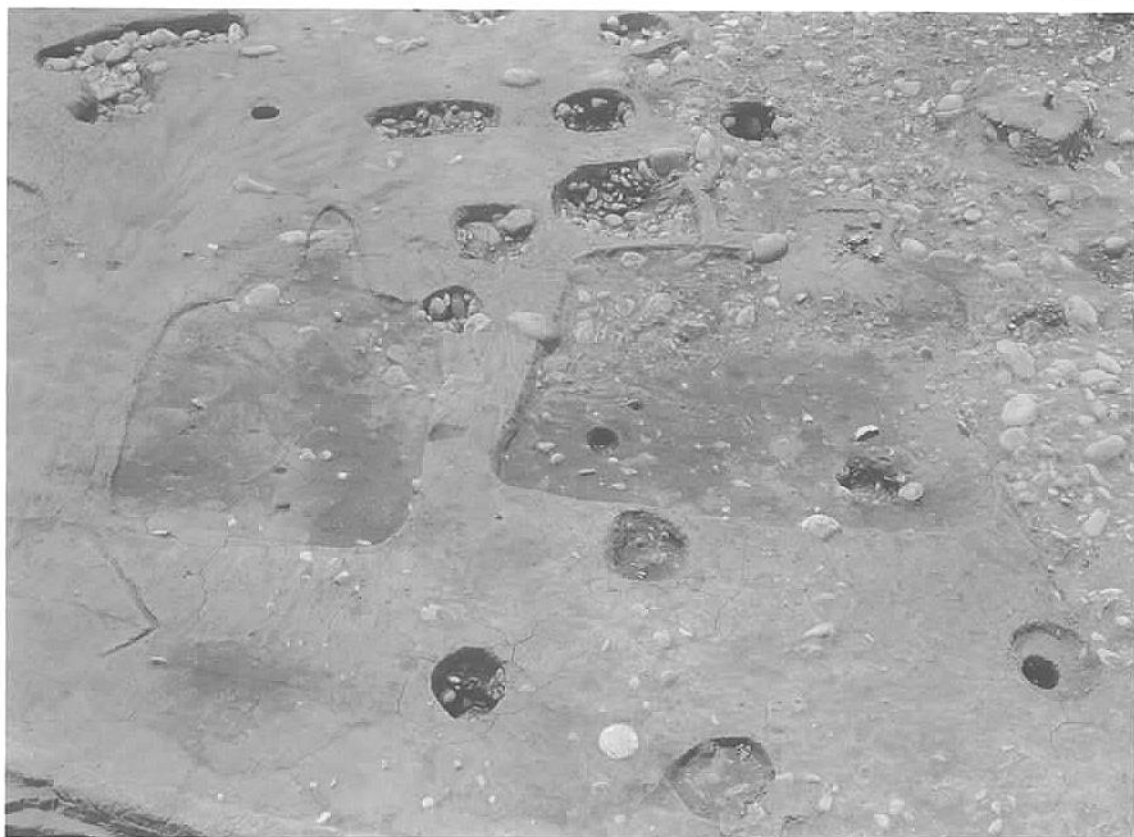
(2) 38～45号竪穴住居跡 (南東から)



(1) 38・39号竪穴住居跡（南から）



(2) 38号竪穴住居跡カマド（南から）



(1) 40・41号竪穴住居跡（東から）



(2) 40号竪穴住居跡カマド（東から）



(1) 42号竪穴住居跡 (東から)



(2) 43号竪穴住居跡 (南から)



(1) 38～44号竪穴住居跡（南から）



(2) 44号竪穴住居跡カマド（南から）



(1) 43号竪穴住居跡完掘（東から）



(2) 43号竪穴住居跡カマド（南から）



(1) 46・47号竪穴住居跡（南から）



(2) 46・47号竪穴住居跡完掘（東から）



(1) 50A・50B号竪穴住居跡（北から）



(2) 50A号竪穴住居跡カマド（東から）



(1) 51号竪穴住居跡（東から）



(2) 51号竪穴住居跡カマド（東から）



(1) 52・60号竪穴住居跡（南から）



(2) 60号竪穴住居跡カマド（南から）



(1) 52号竖穴住居跡完掘（西から）



(2) 53号竖穴住居跡（東から）



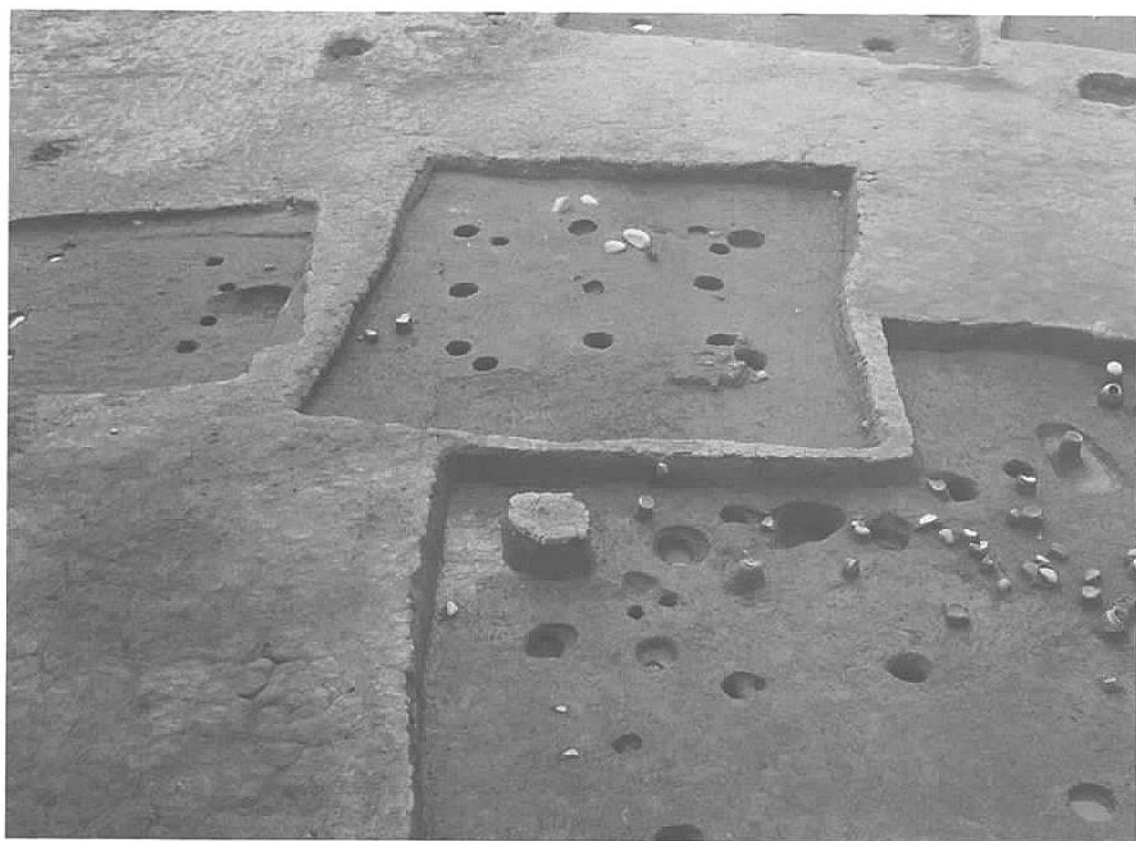
(1) 50～60号竪穴住居跡（北東から）



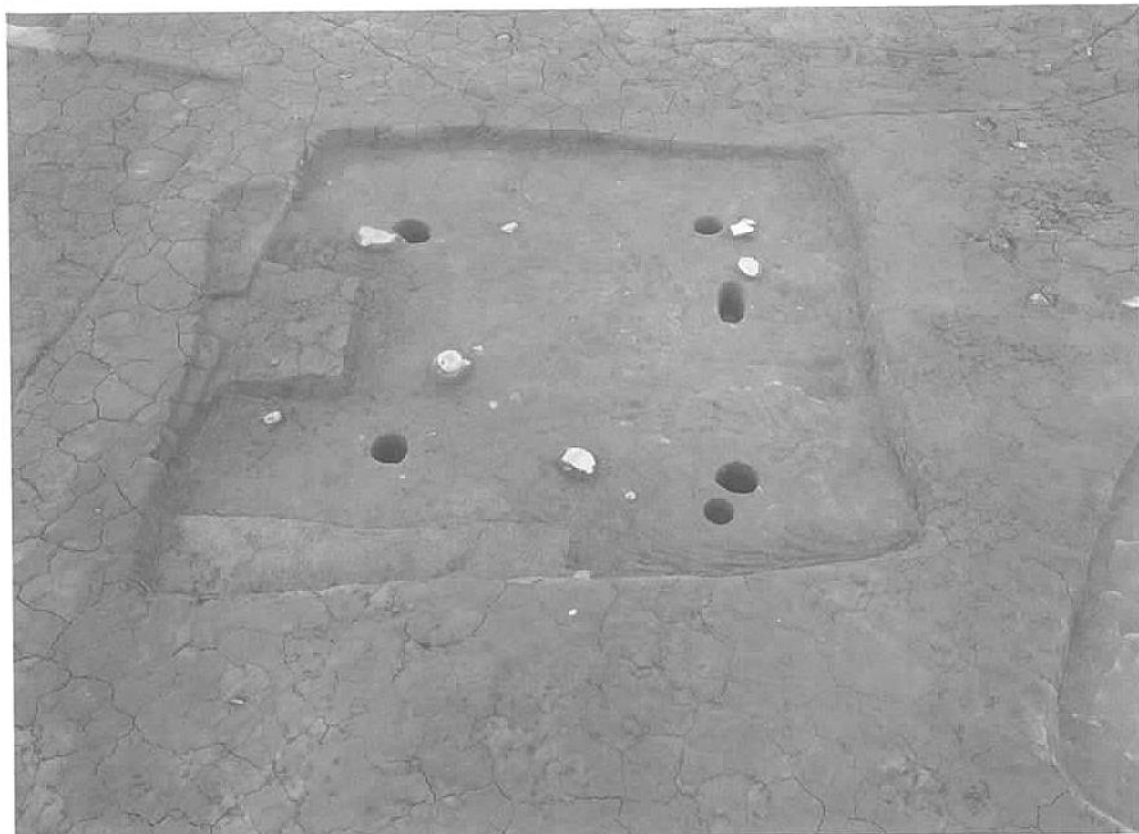
(2) 54・55号竪穴住居跡（東から）



(1) 54号竪穴住居跡カマド (南から)



(2) 55号竪穴住居跡 (東から)



(1) 56号竪穴住居跡 (西から)



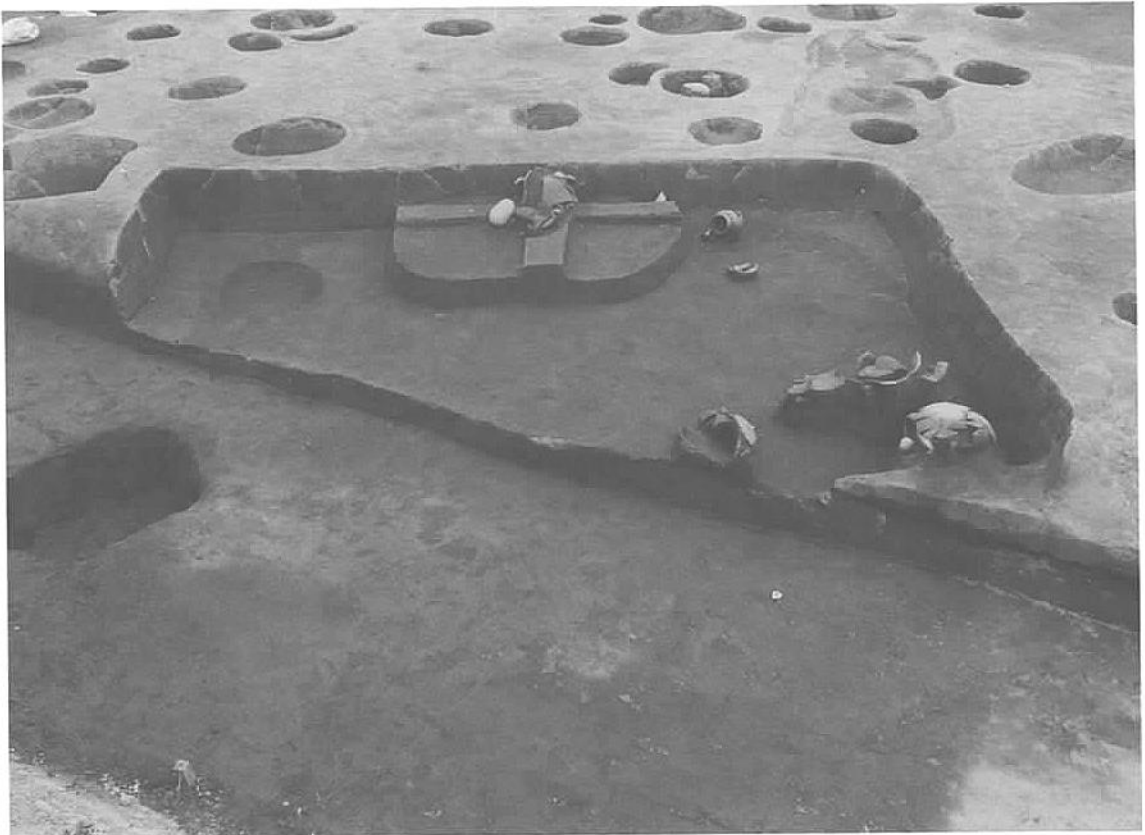
(2) 57・59号竪穴住居跡 (南から)



(1) 61号竪穴住居跡（南から）



(2) 66号竪穴住居跡（南から）



(1) 67号竪穴住居跡 (南から)



(2) 67号竪穴住居跡カマド. 1 (南東から)



(1) 67号竪穴住居跡カマド. 2 (南東から)



(2) 67号竪穴住居跡カマド. 3 (南西から)



(1) 68号竪穴住居跡（南西から）



(2) 68号竪穴住居跡カマド（南東から）



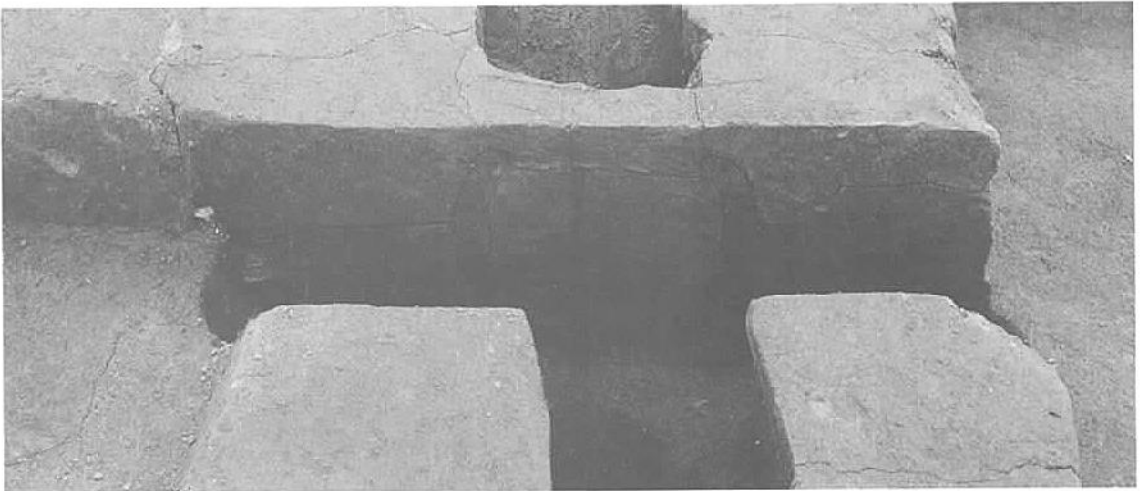
(1) 69～73号竪穴住居跡（南から）



(2) 69号竪穴住居跡カマド（南西から）



(1) 70号竪穴住居跡カマド（南から）



(2) 70号竪穴住居跡カマド土層横断面（南から）



(3) 70号竪穴住居跡カマド土層縦断面（東から）



(1) 71号竖穴住居跡カマド (南から)



(2) 72号竖穴住居跡カマド (南から)



(1) 73号竪穴住居跡カマド（西から）



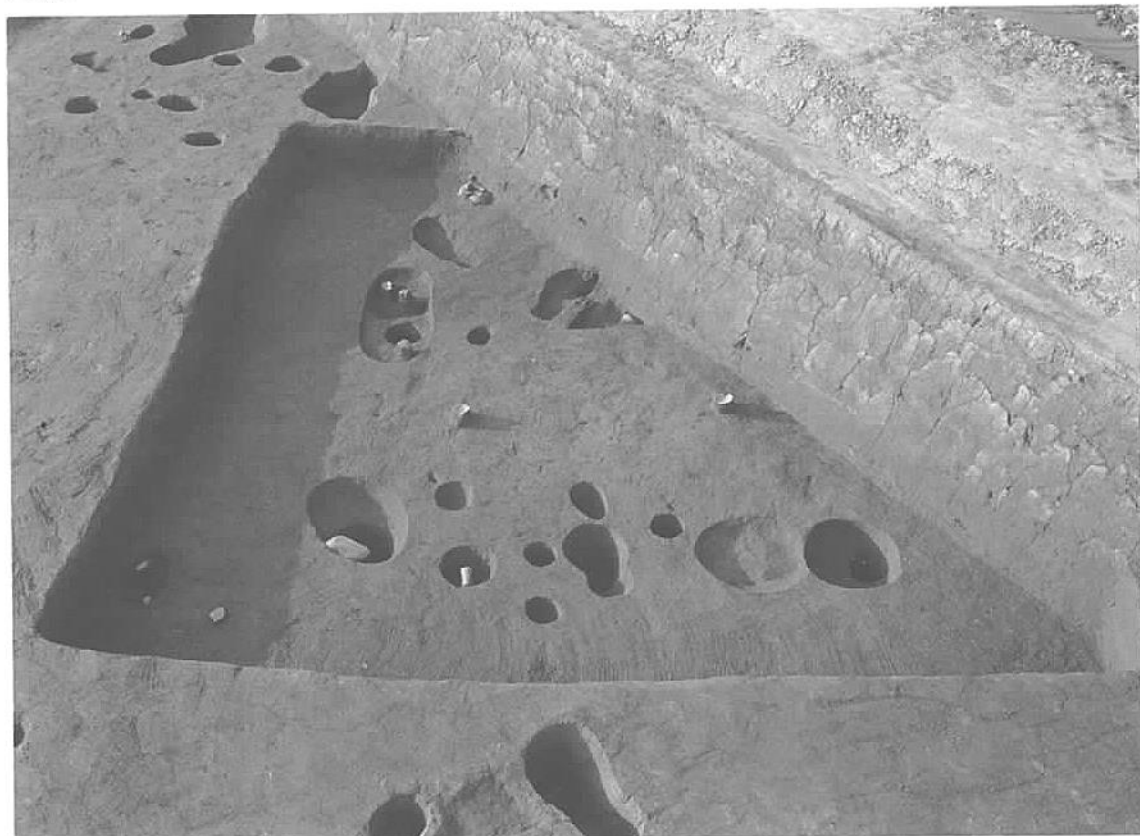
(2) 74・109号竪穴住居跡（東から）



(1) 74号竪穴住居跡カマド（北東から）



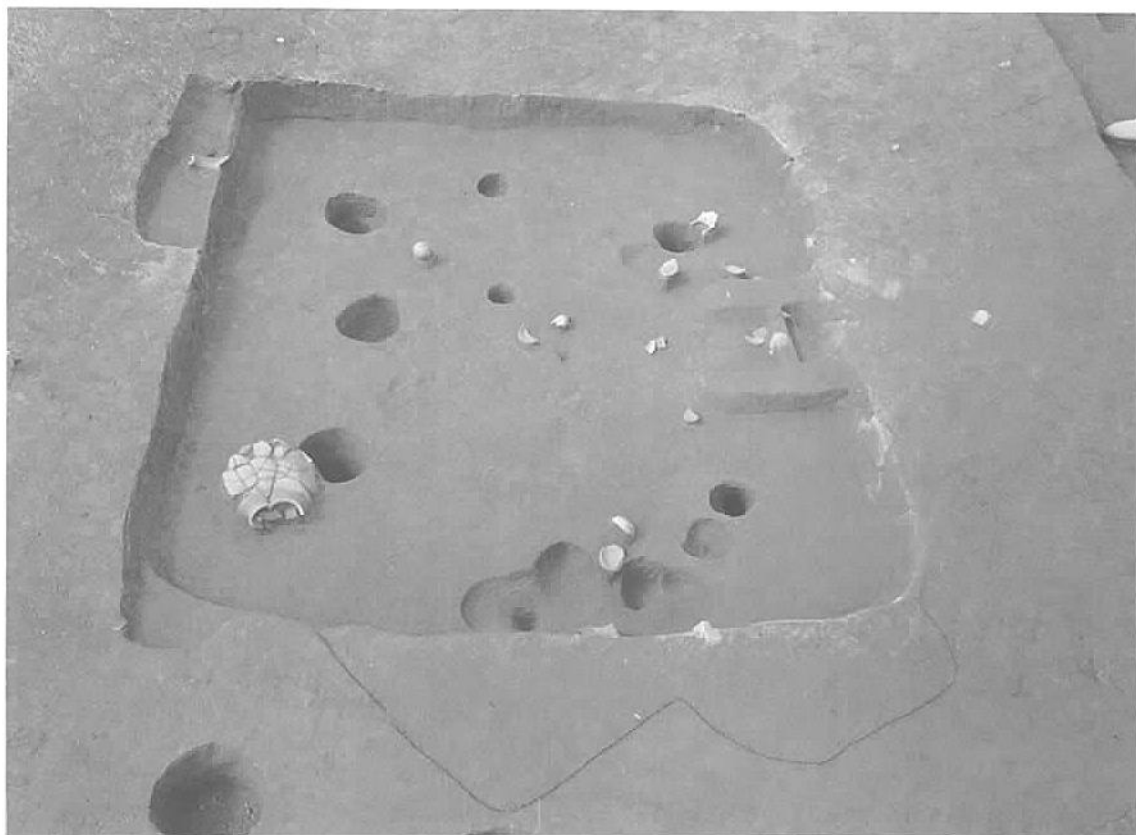
(2) 74号竪穴住居跡カマド復原（北から）



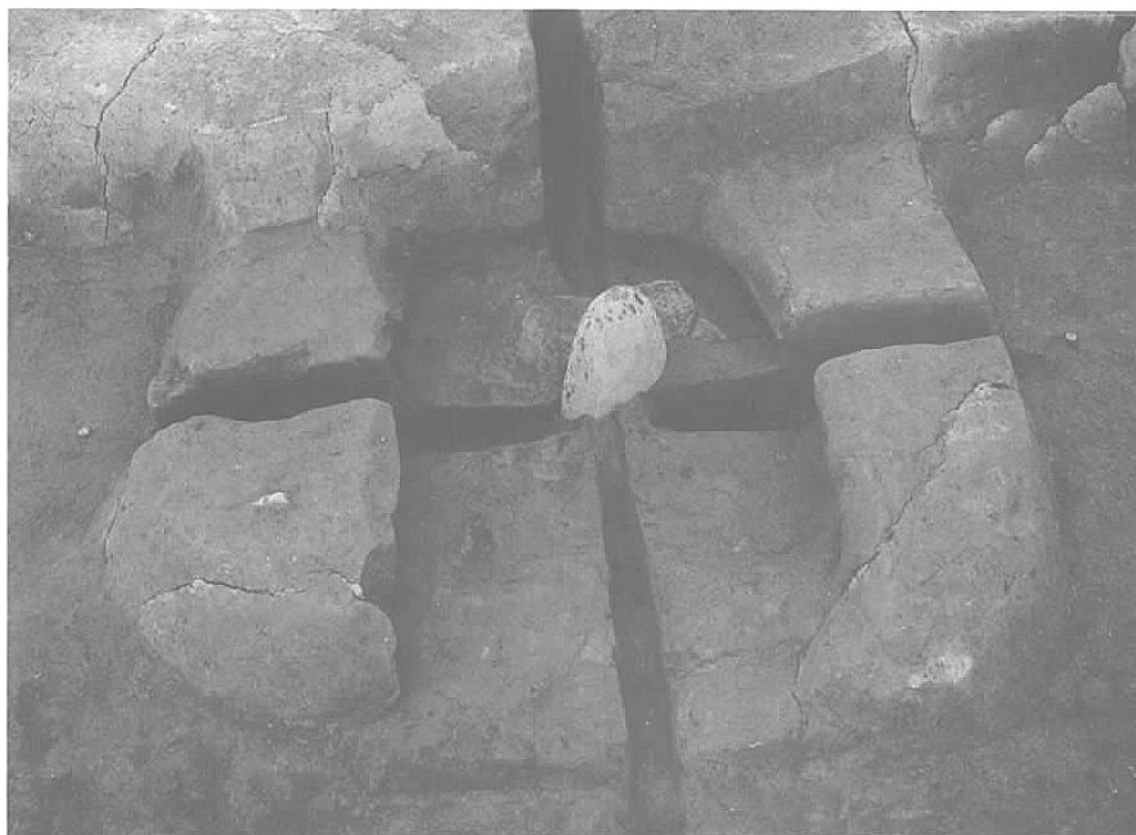
(1) 75号竪穴住居跡（南から）



(2) 75号竪穴住居跡下層カマド（南から）



(1) 77号竪穴住居跡（東から）



(2) 77号竪穴住居跡カマド（南から）



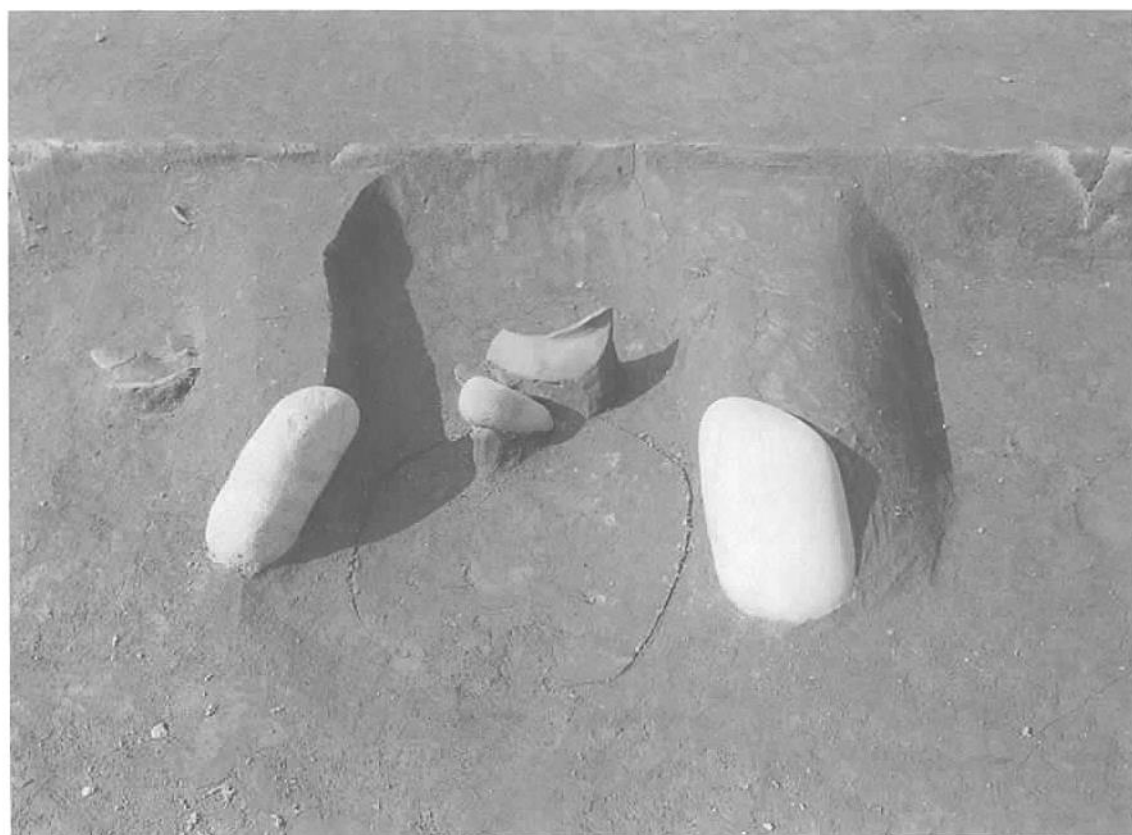
(1) 78号竪穴住居跡（西から）



(2) 81号竪穴住居跡（北から）



(1) 80号竪穴住居跡（東から）



(2) 80号竪穴住居跡カマド（南から）



(1) 85・86号竪穴住居跡（東から）



(2) 87号竪穴住居跡（南西から）



(1) 87号竪穴住居跡カマド. 1 (南西から)



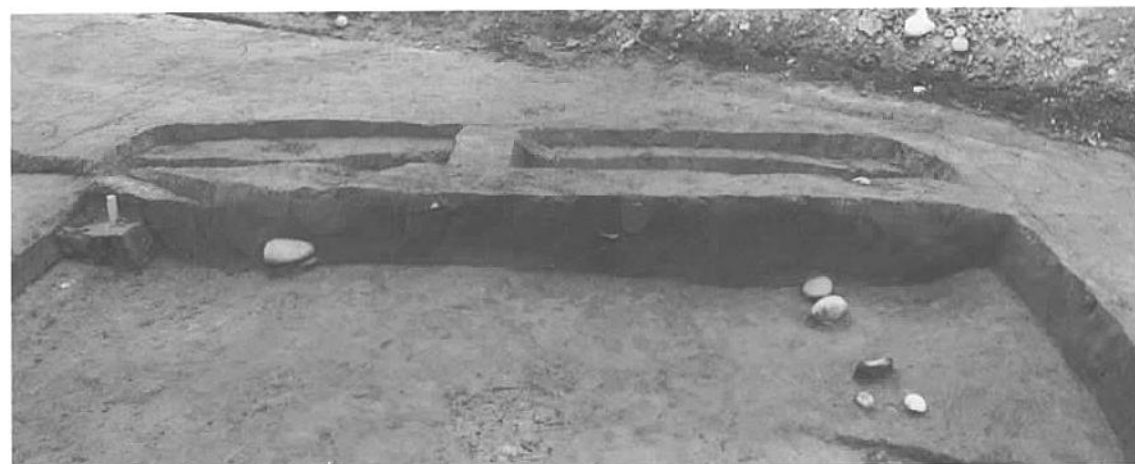
(2) 88・89・97・98号竪穴住居跡 (南から)



(1) 90号竪穴住居跡（南から）



(2) 90号竪穴住居跡完掘（南から）



(3) 90号竪穴住居跡土層断面（北から）



(1) 90号竪穴住居跡カマド. 1 (南から)



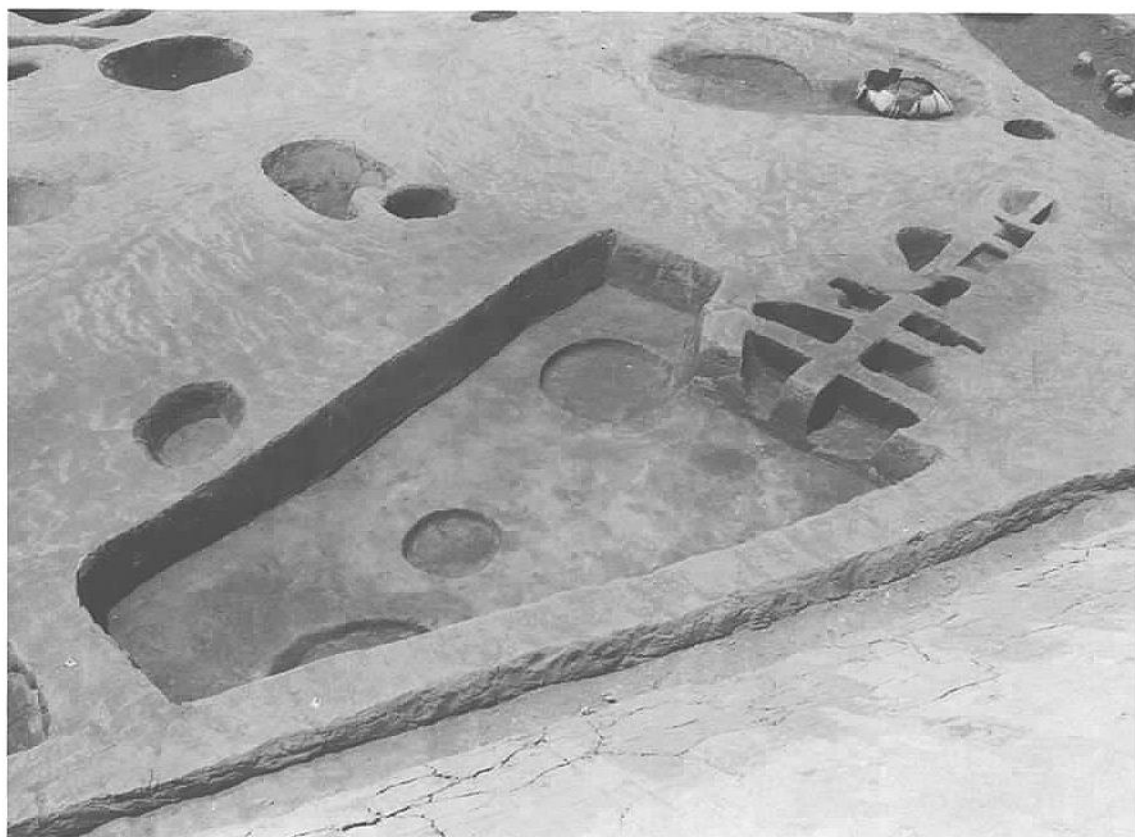
(2) 90号竪穴住居跡カマド. 2 (南から)



(1) 104号竪穴住居跡（北から）



(2) 104号竪穴住居跡カマド（北東から）



(1) 105号竪穴住居跡（北東から）



(2) 105号竪穴住居跡カマド（南東から）



(1) 108号竪穴住居跡 (南西から)



(2) 108号竪穴住居跡カマド (南から)



(1) 109号竪穴住居跡（南から）



(2) 109号竪穴住居跡カマド（南から）



(1) 110・111号竖穴住居跡（南西から）



(2) 111号竖穴住居跡完掘（東から）



(1) 112号竪穴住居跡. 1 (南から)



(2) 112号竪穴住居跡. 2 (南から)



(1) 102号竪穴住居跡遺物出土状態. 1 (北東から)



(2) 102号竪穴住居跡遺物出土状態. 2 (西から)



(1) 112号竪穴住居跡カマド. 1 (北西から)



(2) 112号竪穴住居跡カマド. 2 (南から)



(1) 114号竪穴住居跡（南から）



(2) 114号竪穴住居跡カマド（南東から）



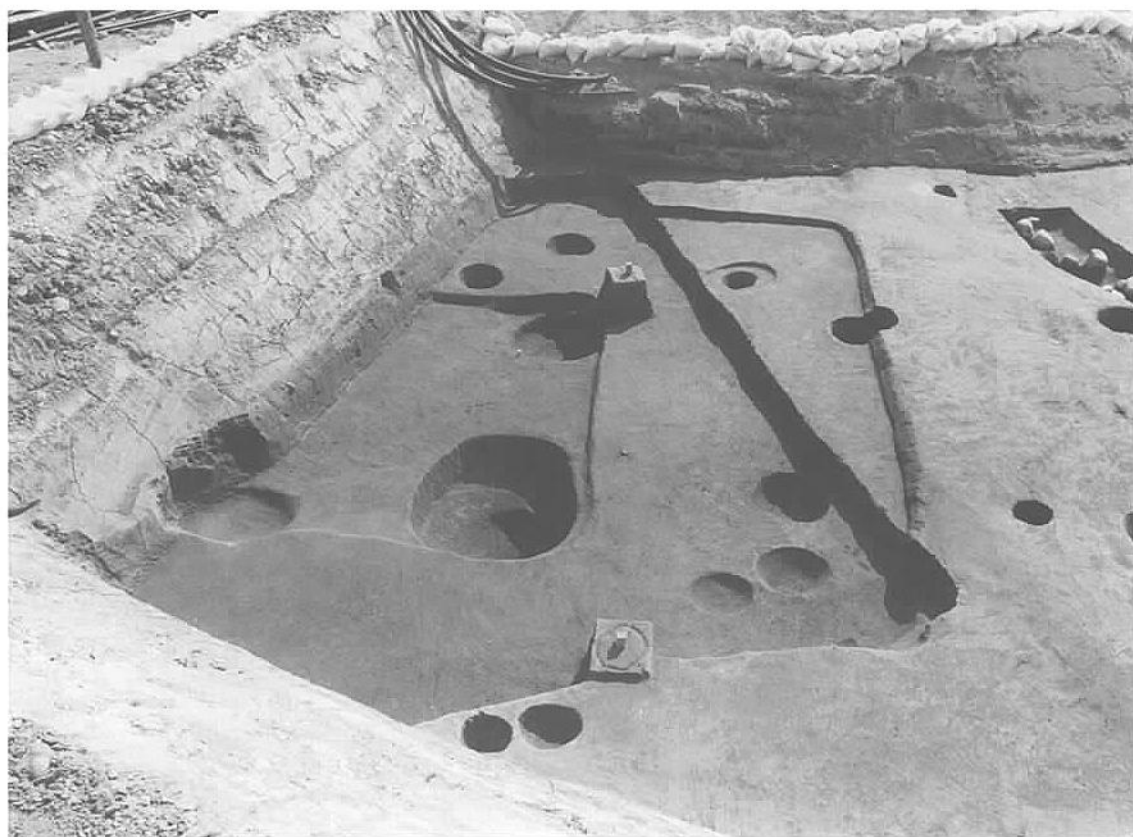
(1) 116号竪穴住居跡（南から）



(2) 116号竪穴住居跡カマド（南から）



(1) 116・117・119号竪穴住居跡. 1 (南から)



(2) 116・117・119号竪穴住居跡. 2 (北から)



(1) 118号竪穴住居跡（東から）



(2) 120号竪穴住居跡カマド（南東から）



(1) 123号竪穴住居跡 (南から)



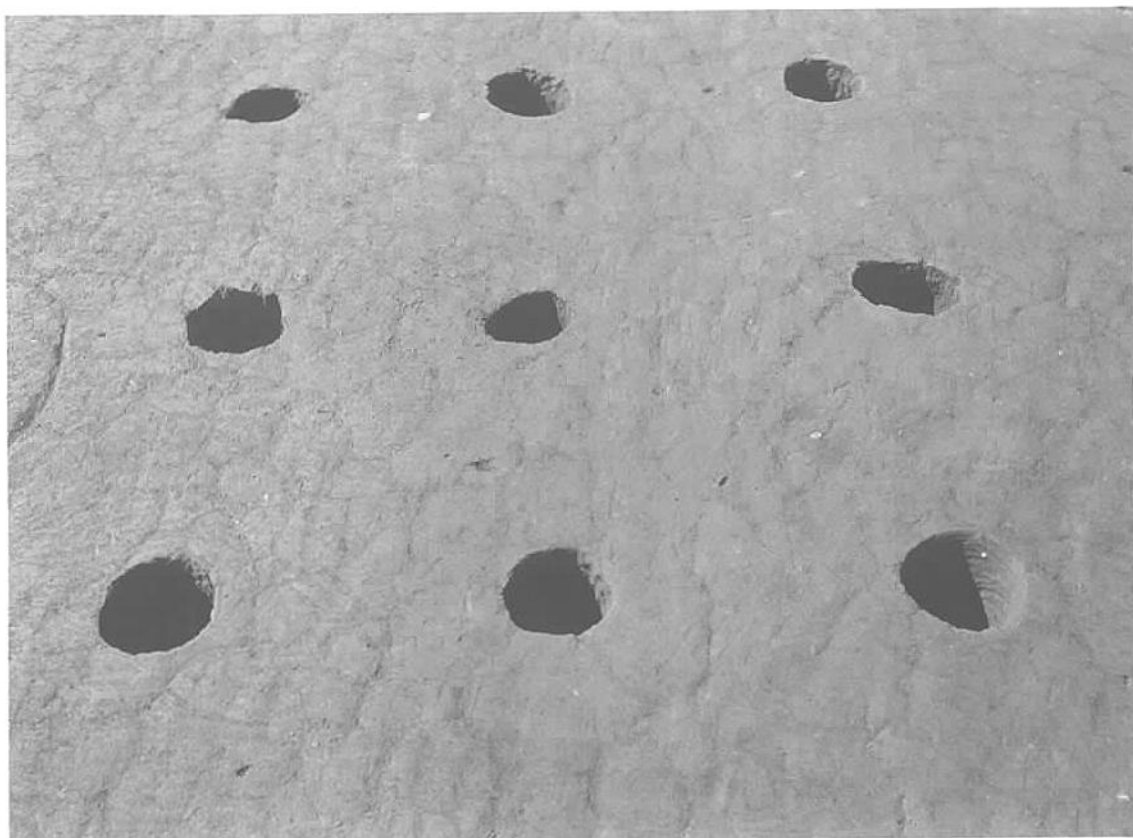
(2) 124号竪穴住居跡 (南から)



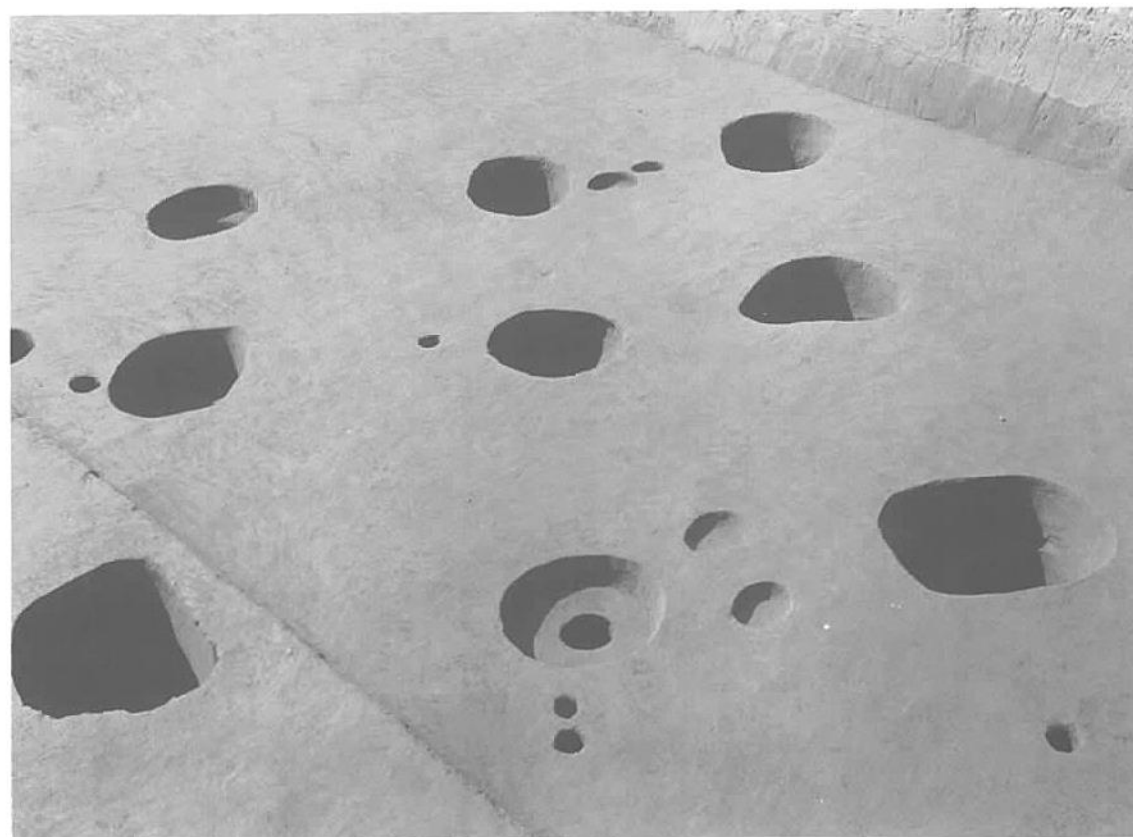
(1) 1号掘立柱建物跡 (西から)



(2) 4号掘立柱建物跡 (西から)



(1) 5号掘立柱建物跡（北から）



(2) 6号掘立柱建物跡（北から）



(1) 7号掘立柱建物跡（南から）



(2) 7号掘立柱建物跡周辺（南東から）



(1) 32号土坑 (南西から)



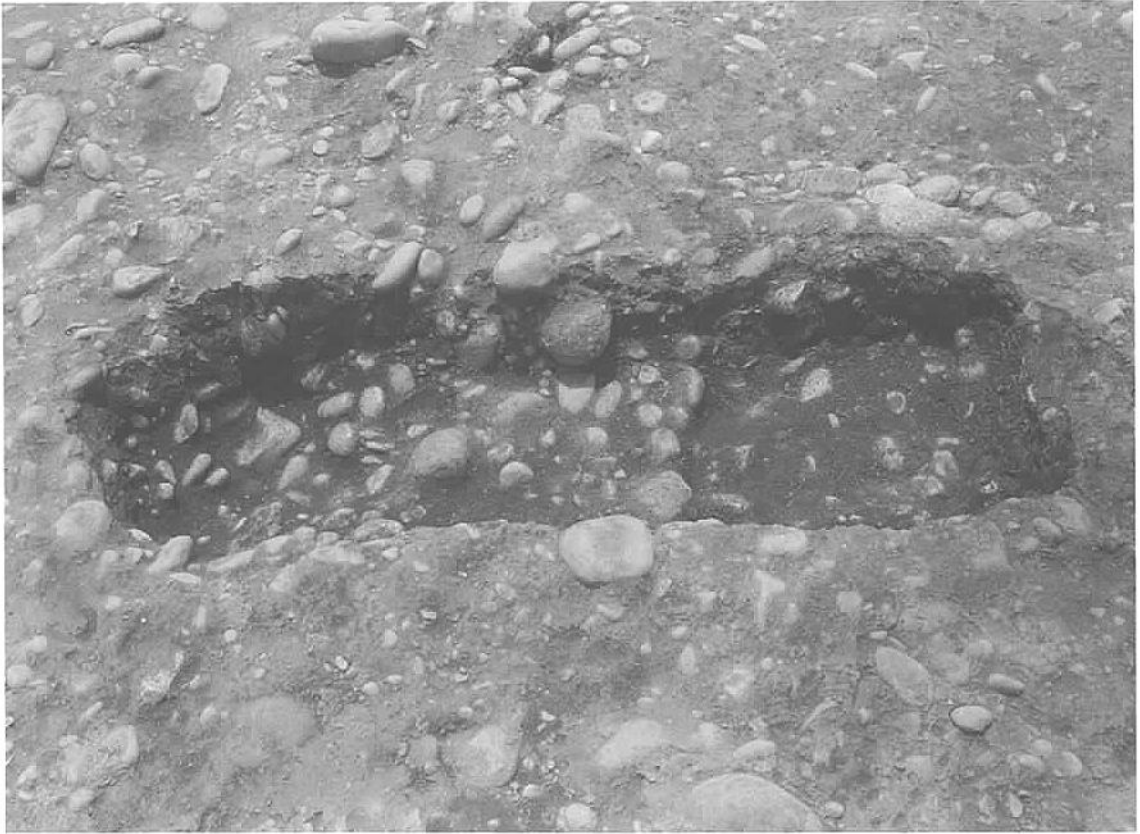
(2) 32号土坑土層断面 (南から)



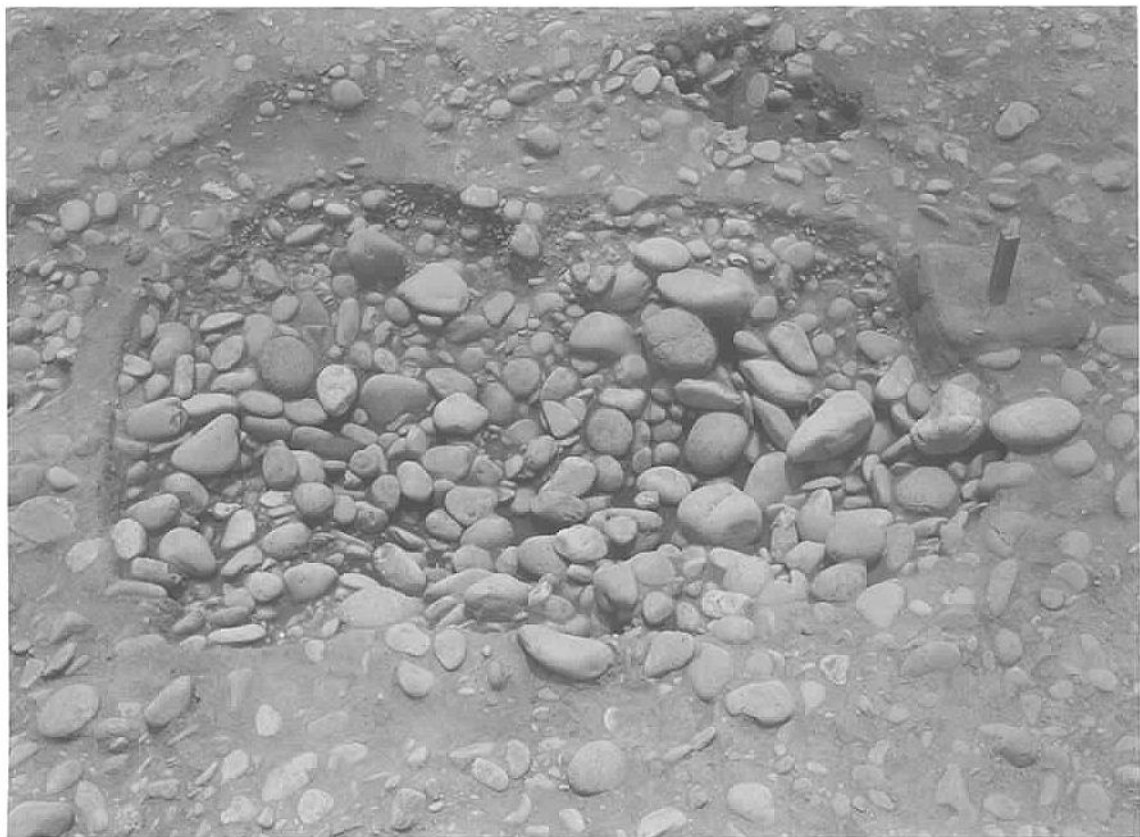
(1) 1・2号土壙墓 (南から)



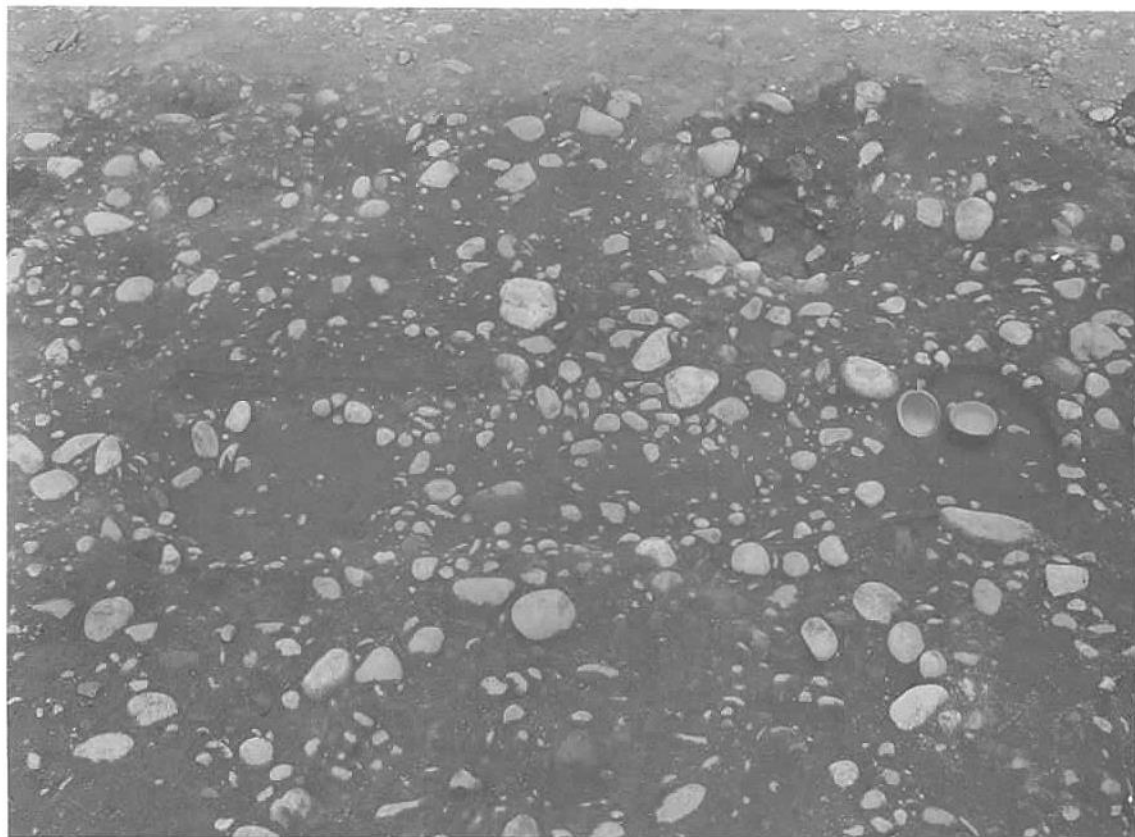
(2) 1号土壙墓遺物出土状態 (西から)



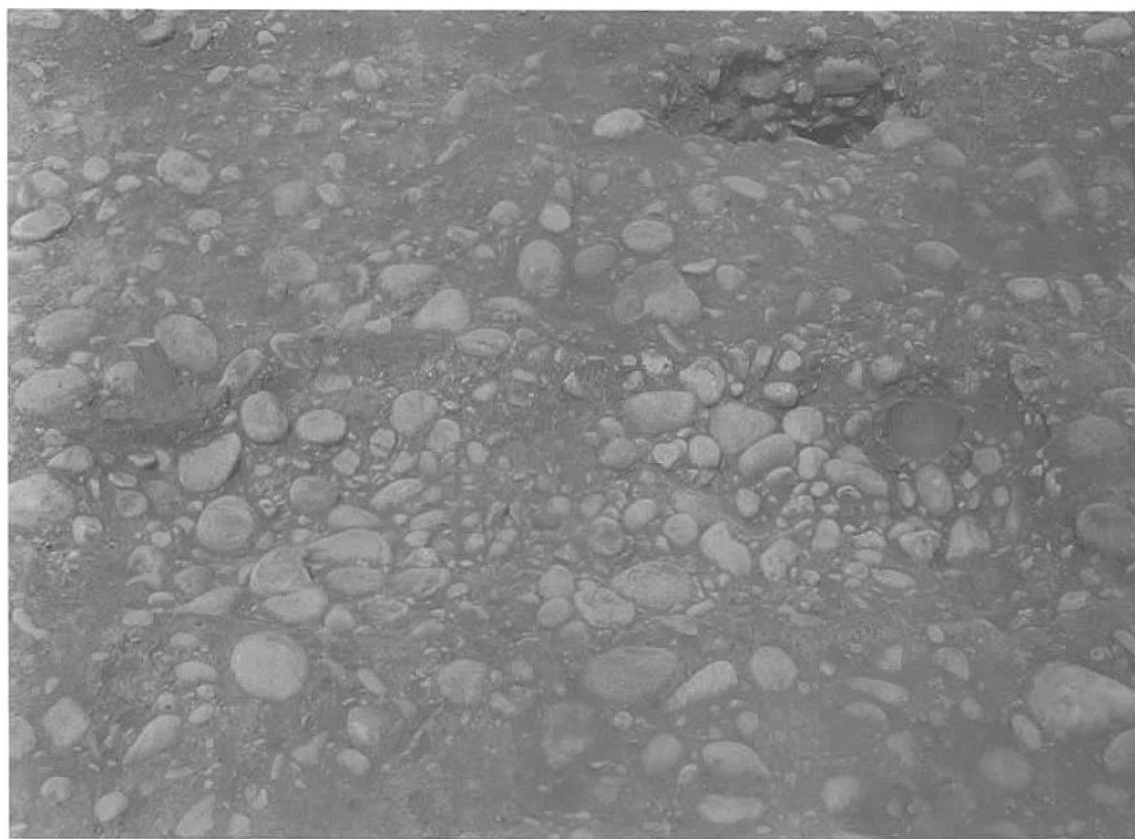
(1) 2号土壙墓 (南西から)



(2) 3号土壙墓 (北西から)



(1) 4号土壙墓 (東から)



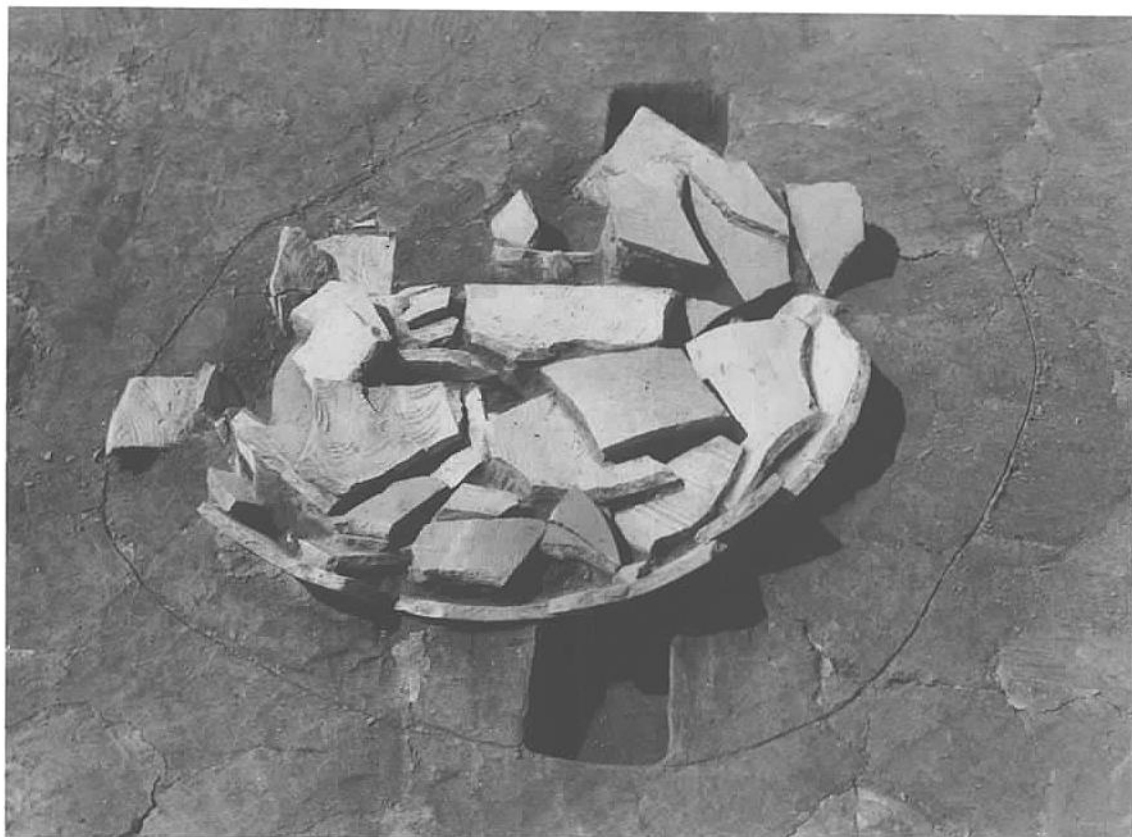
(2) 5号土壙墓 (東から)



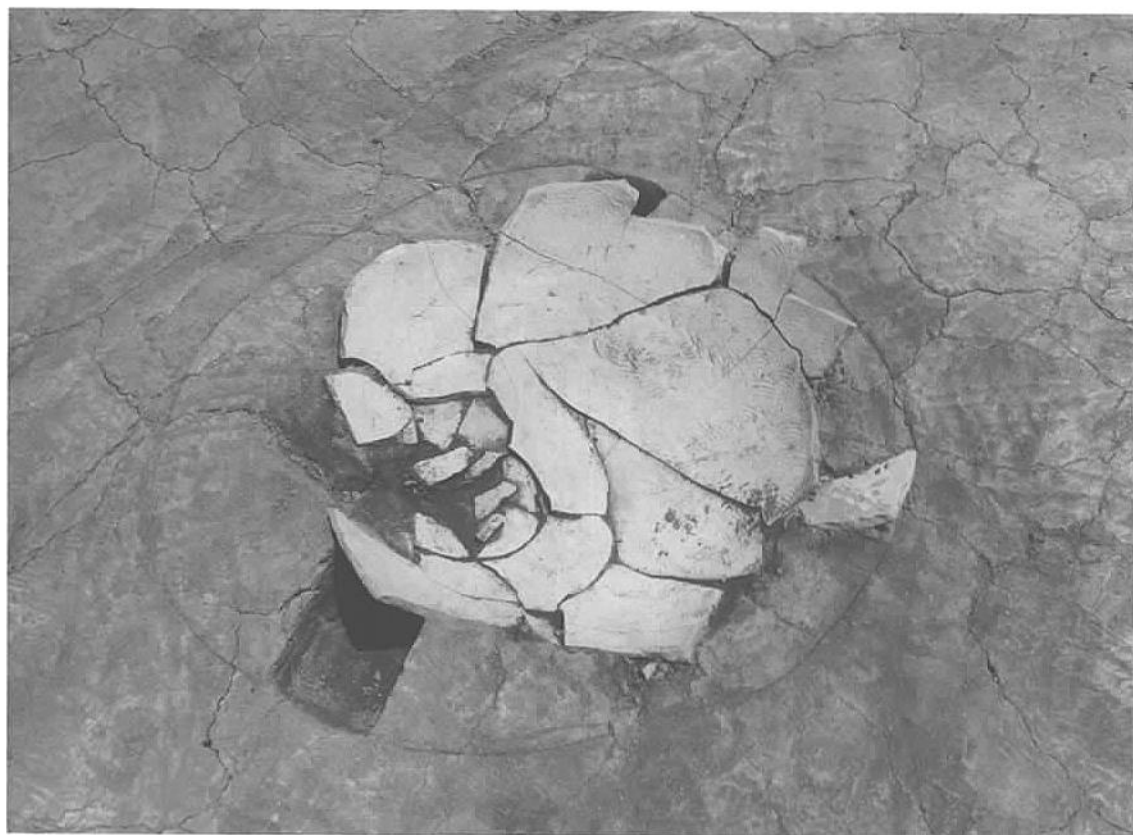
(1) 6号土壙墓（北から）



(2) 6号土壙墓遺物出土状態（北から）



(1) ビット1050. 1 (西から)



(2) ビット1050. 2 (東から)



(1) 15号溝土層断面（西から）



(2) 調査最終段階の状態（西から）



(1) 県道東側調査区. 1 (南東から)



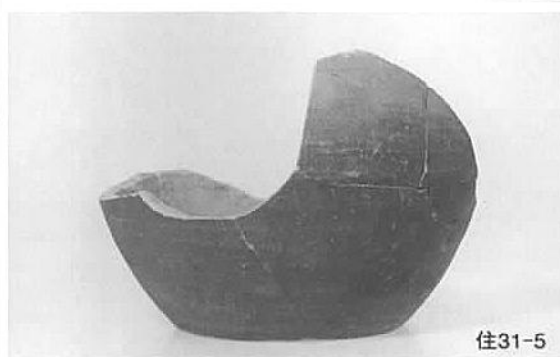
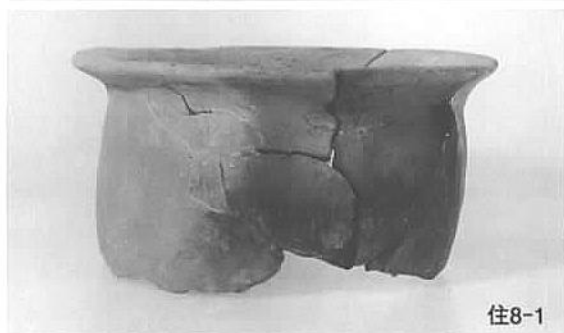
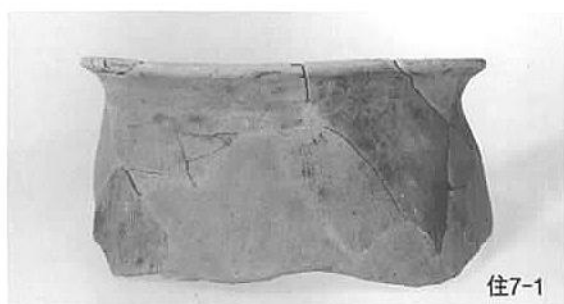
(2) 県道東側調査区. 2 (北西から)



(1) 16号溝 (北から)



(2) 16号溝土層断面 (北から)



竪穴住居跡出土土器. 1 (7・8・9・24・31号住居跡)



住36-6



住37-3



住37-3



住37-2



住40-1



住40-2



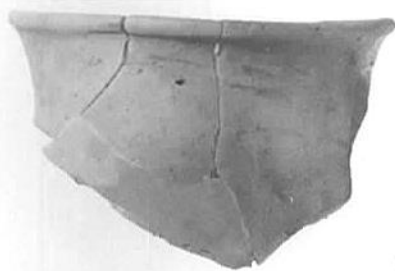
住47-3



住47-4



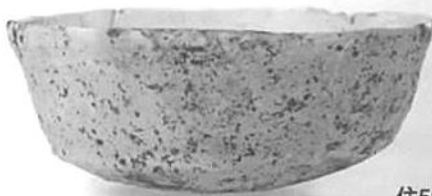
住48-2



住48-4



住50A-1



住50A-2



住50A-4



住50B-6



住50B-1



住50B-7



住50B-2



住51-1



住50B-3



住51-2



住50B-4



住51-4



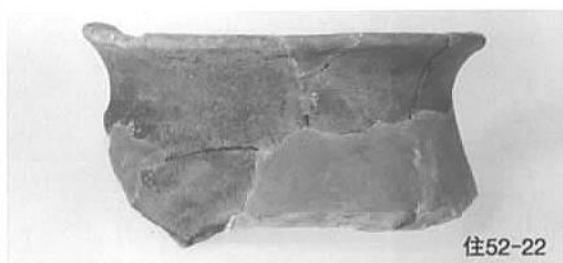
住50B-9



住52-4



住52-6



住52-22



住52-7



住52-23



住52-18



住52-21



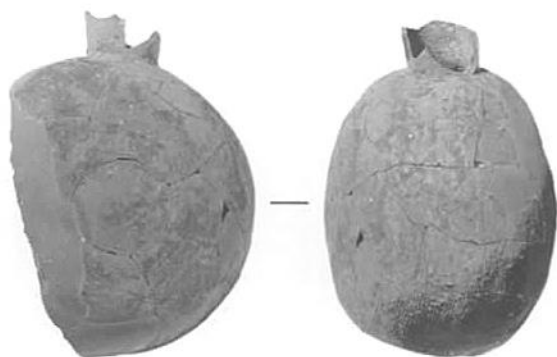
住52-20



住52-28



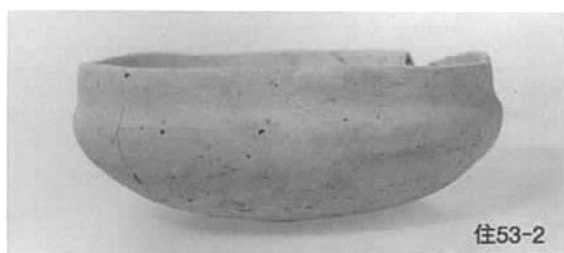
住52-37



住52-41



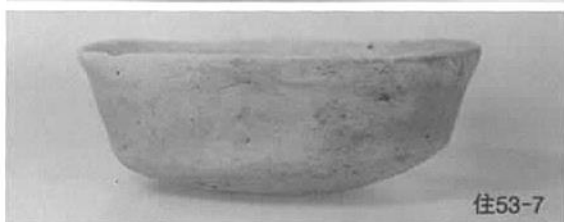
住52-25



住53-2



住53-3



住53-7



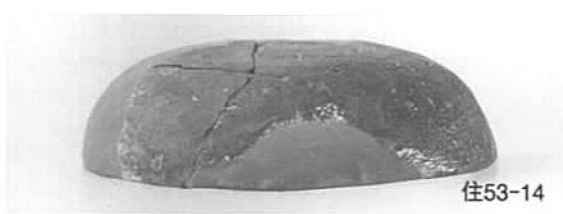
住53-10



住53-12



住53-13



住53-14



住53-15



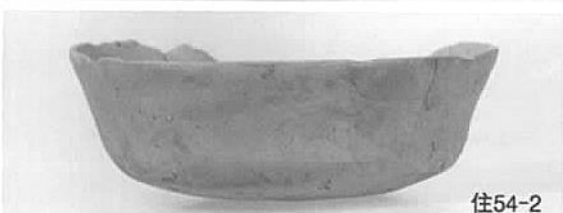
住53-17



住53-18



住54-1

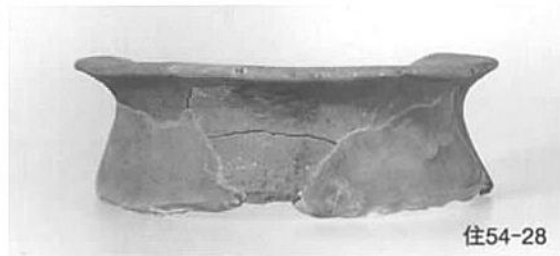
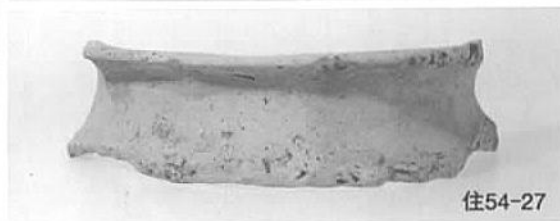


住54-2



住54-3

竪穴住居跡出土土器、5 (53・54号住居跡)



竪穴住居跡出土土器. 6 (54号住居跡)



住54-31



住54-43



住54-34



住55-5



住54-36



住56-2



住54-38



住56-6



住54-39



住57-3



住54-40

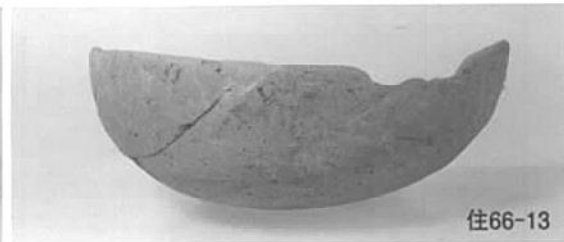
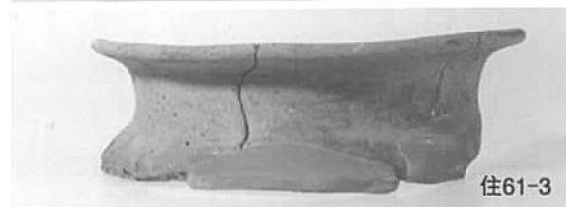
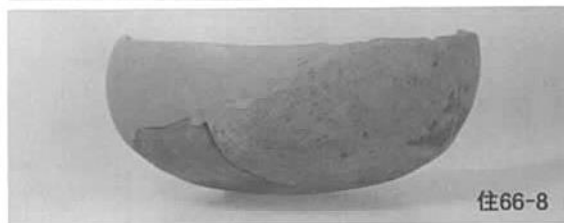
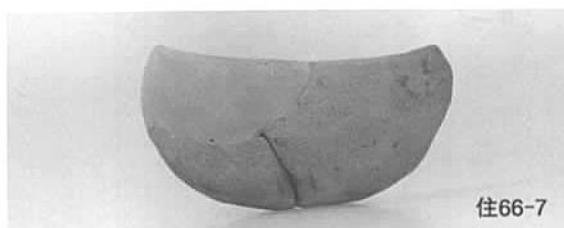
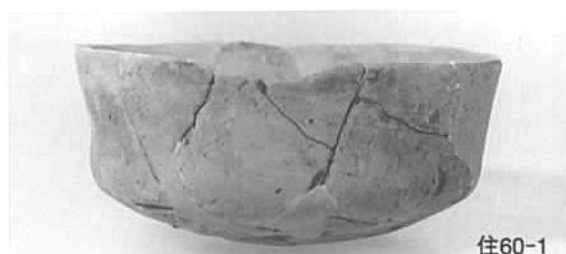


住54-41

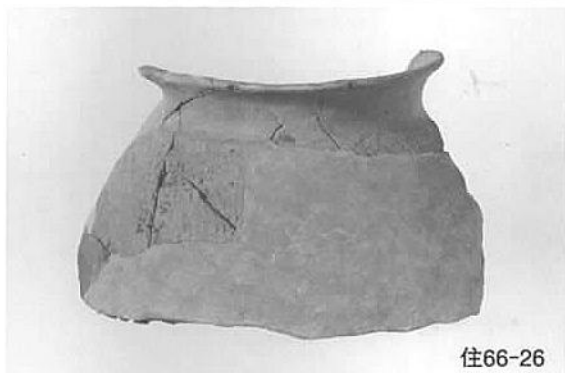
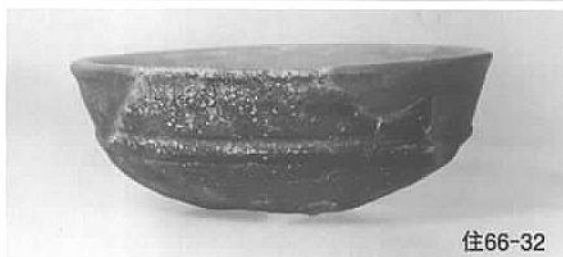
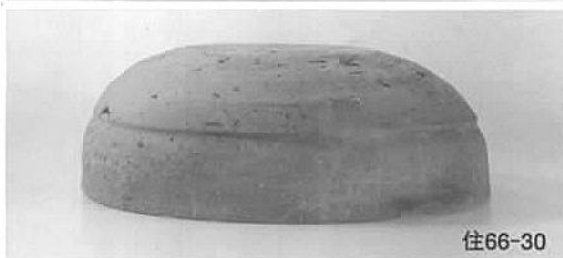
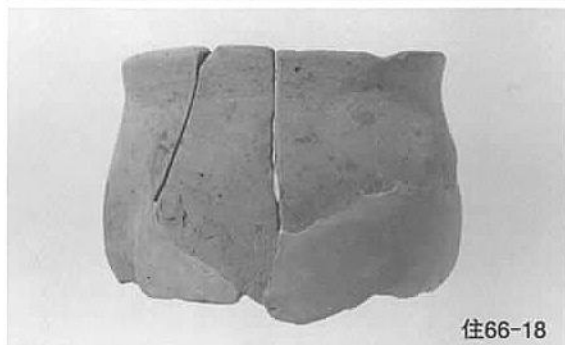
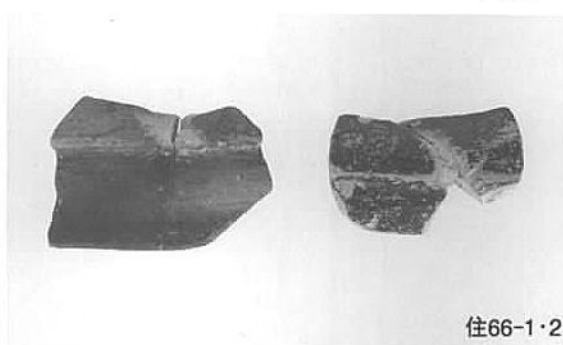


住59-3

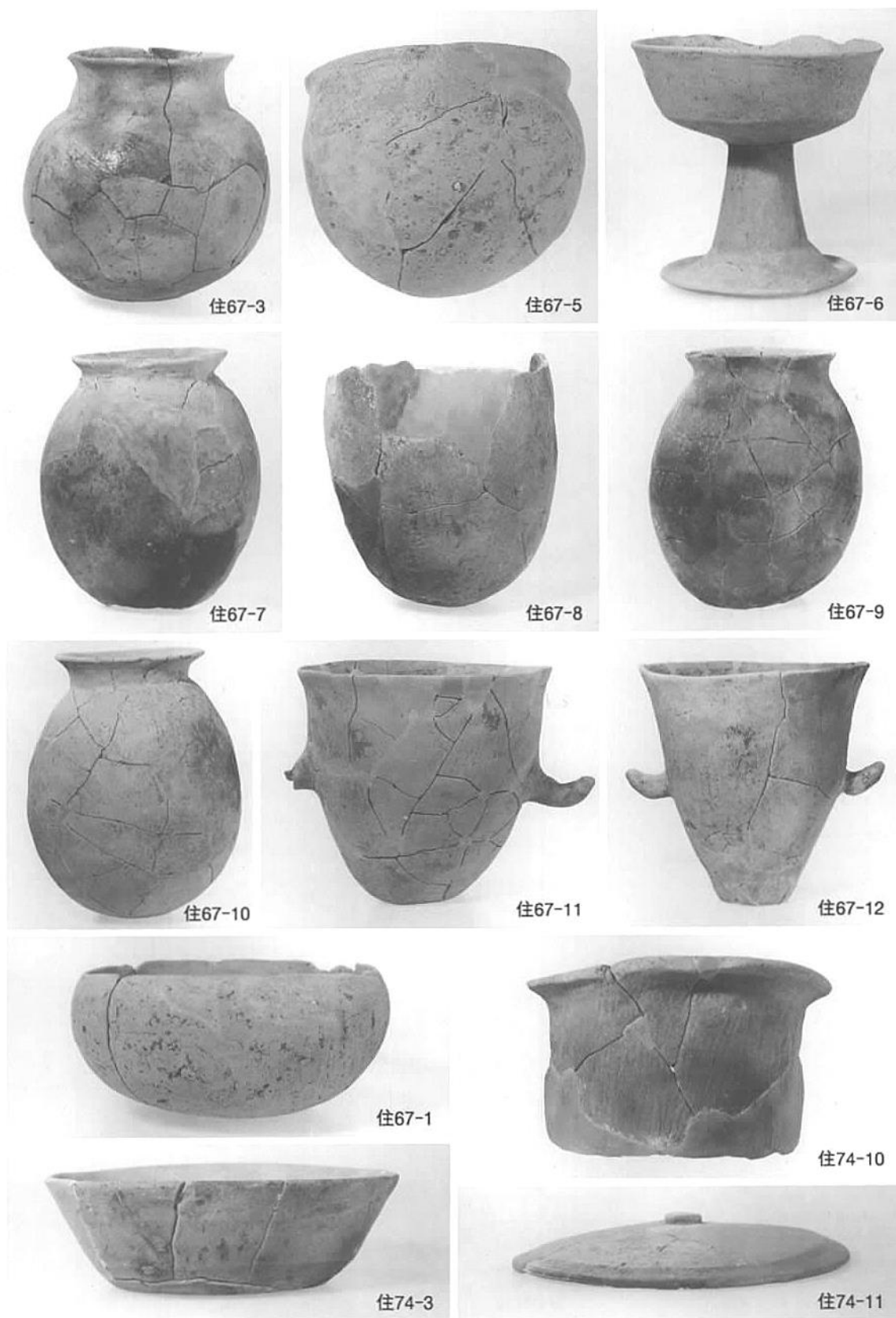
竪穴住居跡出土土器. 7 (54~57・59号住居跡)



竖穴住居跡出土土器. 8 (60・61・66号住居跡)



竪穴住居跡出土土器. 9 (66号住居跡)



竖穴住居跡出土土器. 10 (67・74号住居跡)



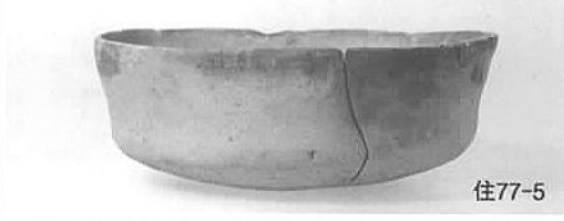
住75-2



住77-4



住75-4



住77-5



住75-7



住77-6



住75-8



住77-7



住75-9



住77-10

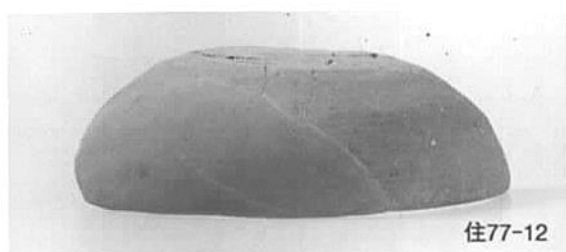


住76-6



住77-11

竪穴住居跡出土土器. 11 (75~77号住居跡)



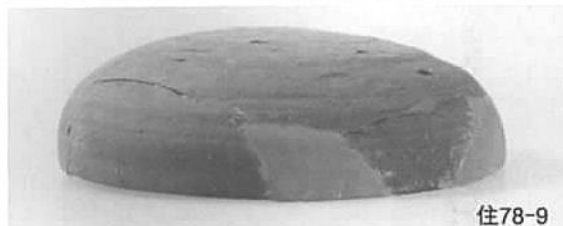
住77-12



住78-8



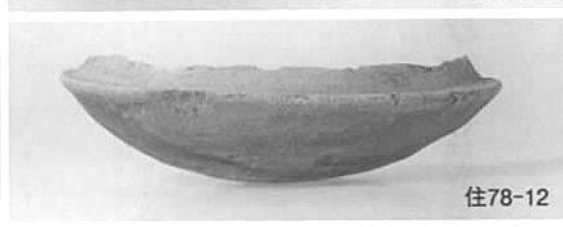
住77-14



住78-9



住77-15



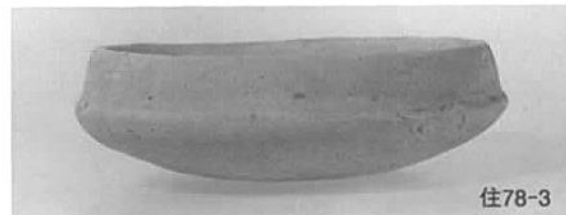
住78-12



住78-2



住80-3



住78-3



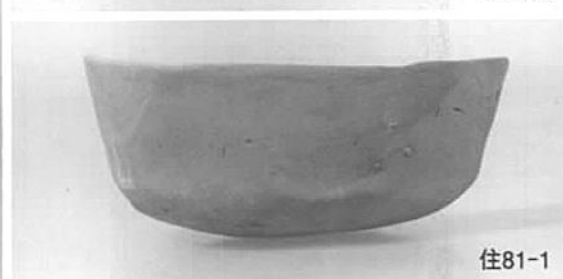
住80-6



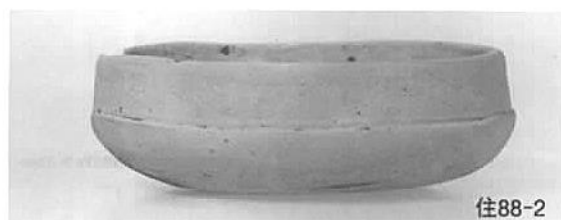
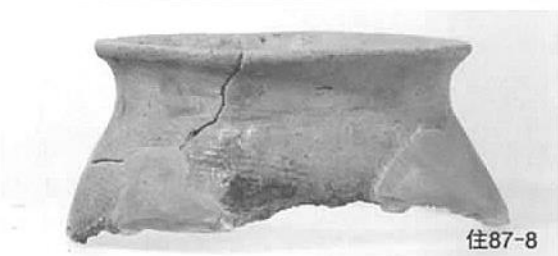
住78-4

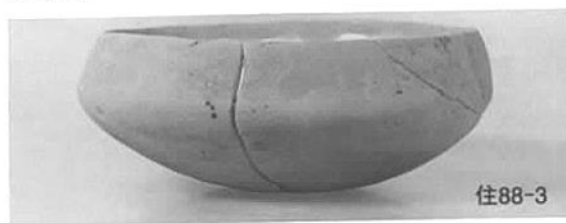


住78-7

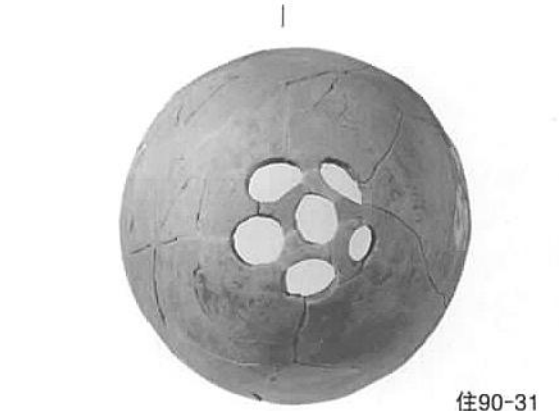
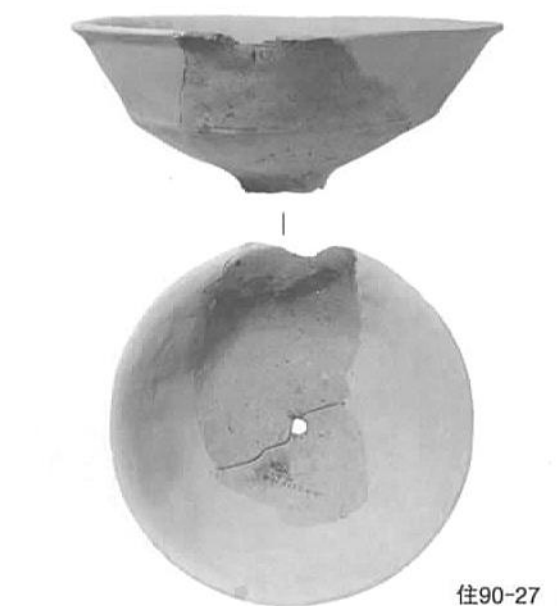


住81-1





竪穴住居跡出土土器. 14 (88・90号住居跡)



竖穴住居跡出土土器. 15 (90・101号住居跡)



住101-3



住101-4



住101-7



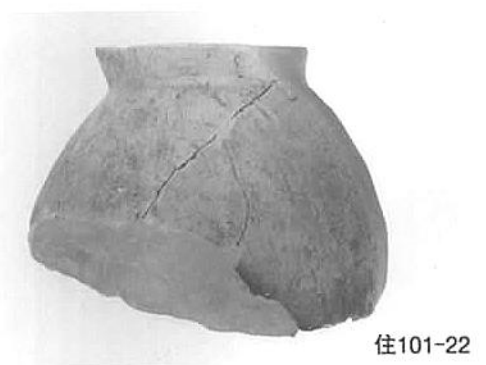
住101-12



住101-15



住101-16



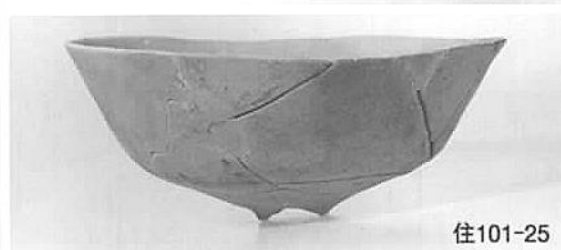
住101-22



住101-23



住101-24



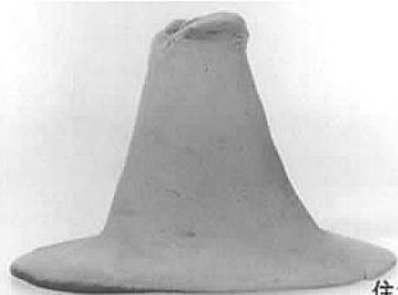
住101-25



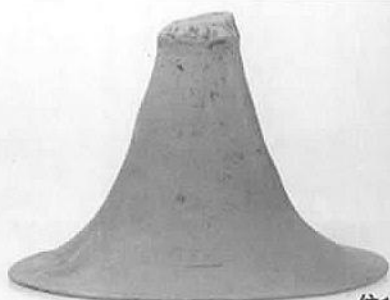
住101-26



住101-27



住101-28



住101-30



住104-8



住104-2



住104-3



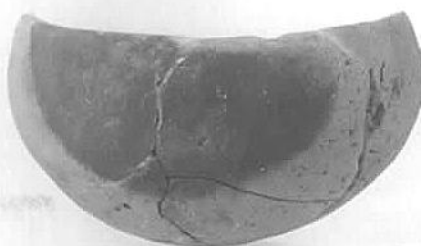
住104-4



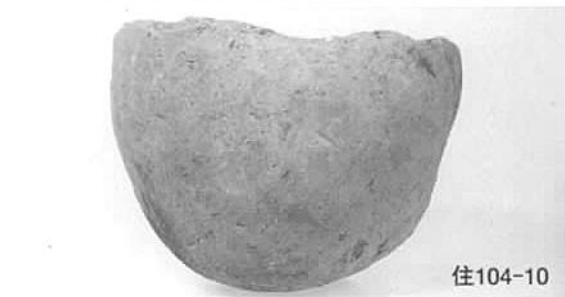
住104-5



住104-6



住104-7





住108-1



住108-4



住108-5



住108-9



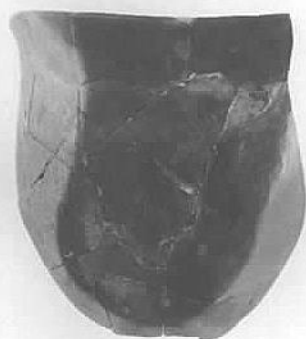
住108-10



住112-6



住108-11



住108-12



住108-13



住109-3



住111-1



住111-2



住112-5



住112-11



住112-24



住112-12



住112-26



住112-13



住112-28



住112-14



住112-29



住112-15



住112-30



住112-21



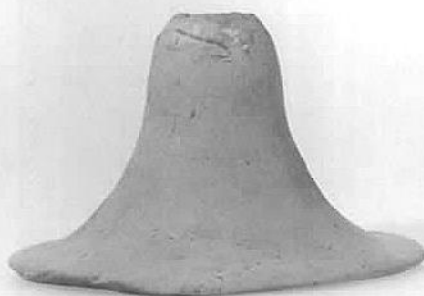
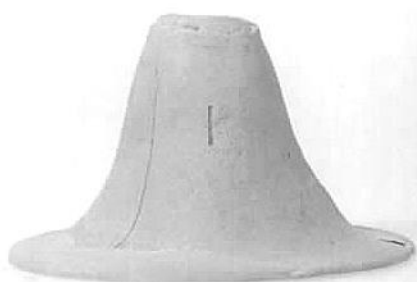
住112-22



住112-31



竪穴住居跡出土土器. 21 (112号住居跡)



竖穴住居跡出土土器。22 (112号住居跡)



住112-57



住112-58



住112-59



住112-63



住112-64



住112-65



住112-78



住112-70



住112-74



住112-76



住114-5



住114-2



住114-12



住114-3



住114-13



住114-25



住114-20



住116-1



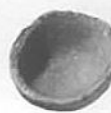
住114-23



住104-16



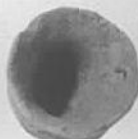
住112-18



住112-20



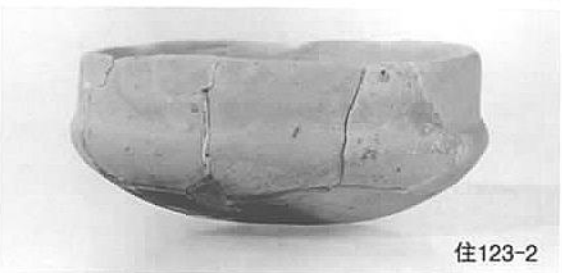
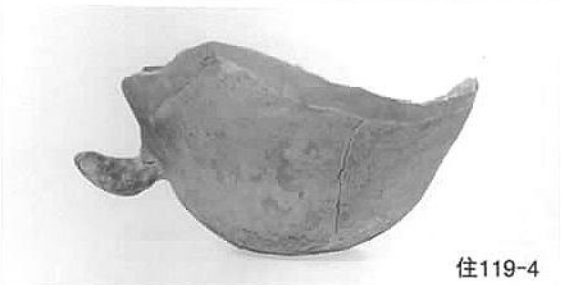
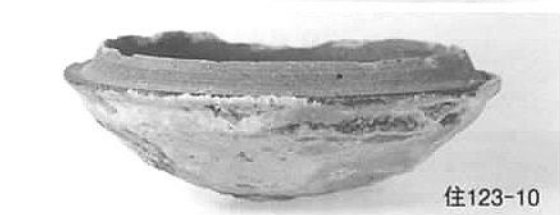
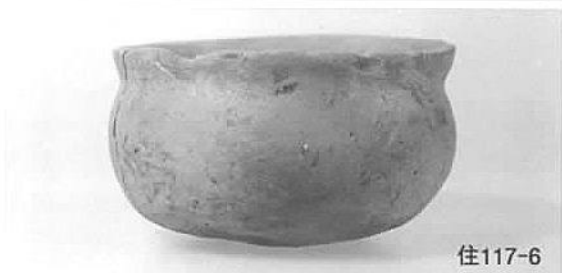
住114-22



住114-24



住116-2



竖穴住居跡出土土器。25 (116・117・119・123・124号住居跡)



土坑32-1



土坑32-2



土坑墓1-1



土坑墓1-2



土坑墓1-3



土坑墓1-4



土坑墓1-5



土坑墓1-6



土坑墓1-7



土坑墓1-8



土坑墓4-1



土坑墓5-1



土坑墓5-2



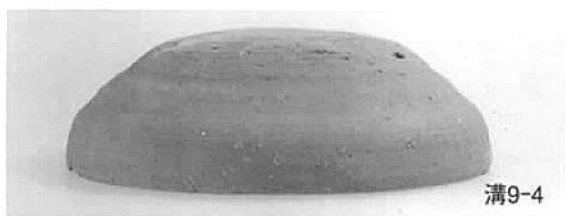
土坑墓6-1



土坑墓6-2



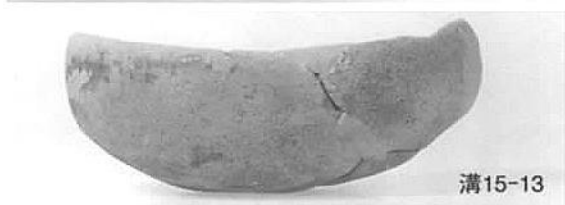
土坑墓10-1



溝9-4



ビット・包含層9



溝15-13



ビット・包含層12



溝15-14



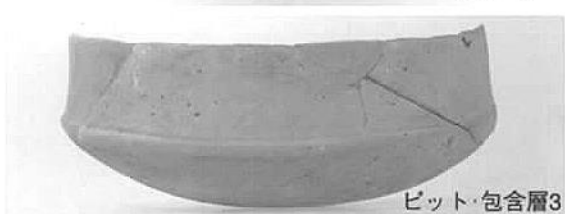
ビット・包含層14



溝15-17



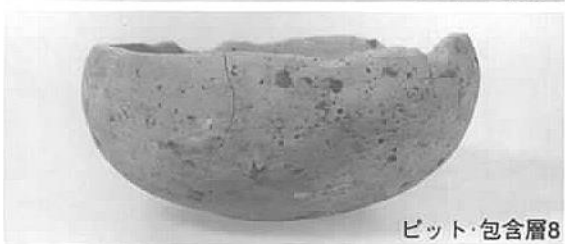
ビット・包含層23



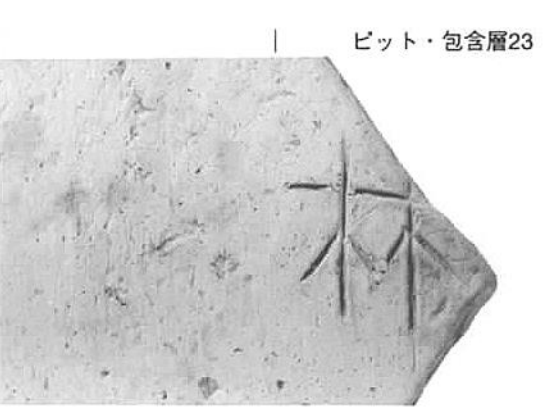
ビット・包含層3



ビット・包含層6



ビット・包含層8



溝・ビット・包含層出土土器



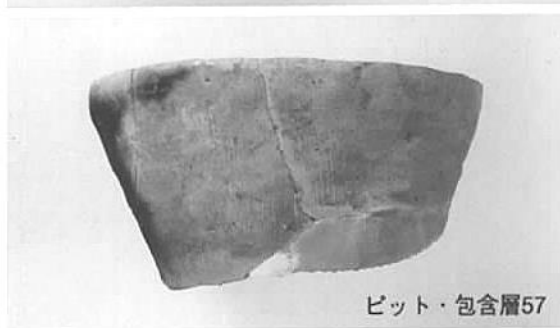
ビット・包含層24



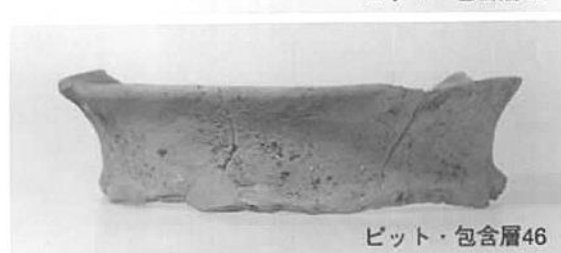
ビット・包含層52



ビット・包含層45



ビット・包含層57



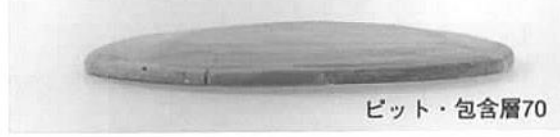
ビット・包含層46



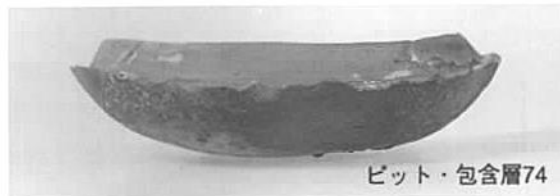
ビット・包含層63



ビット・包含層51



ビット・包含層70



ビット・包含層74



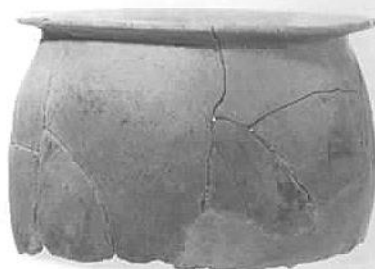
ビット・包含層54



ビット・包含層80



ピット1050



弥生41



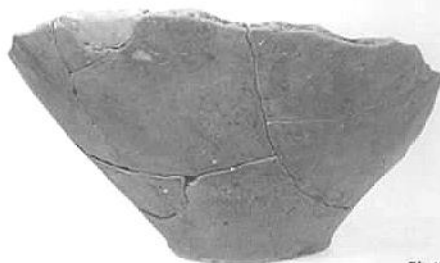
弥生47



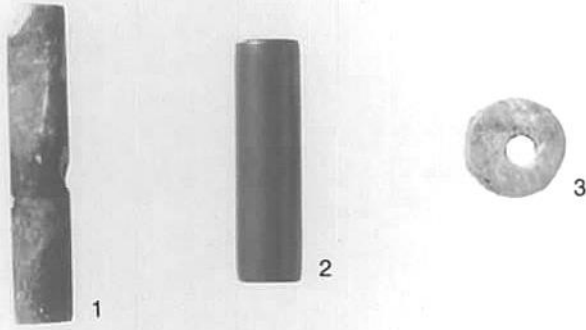
弥生61



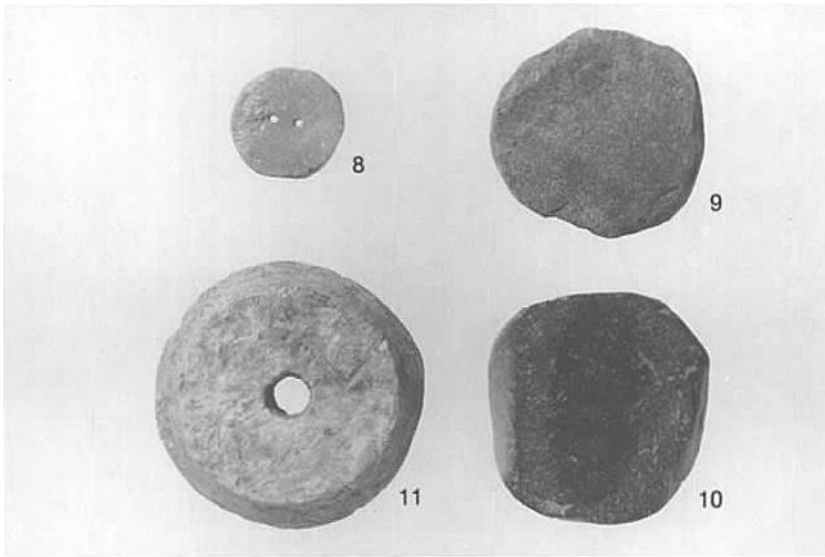
弥生76



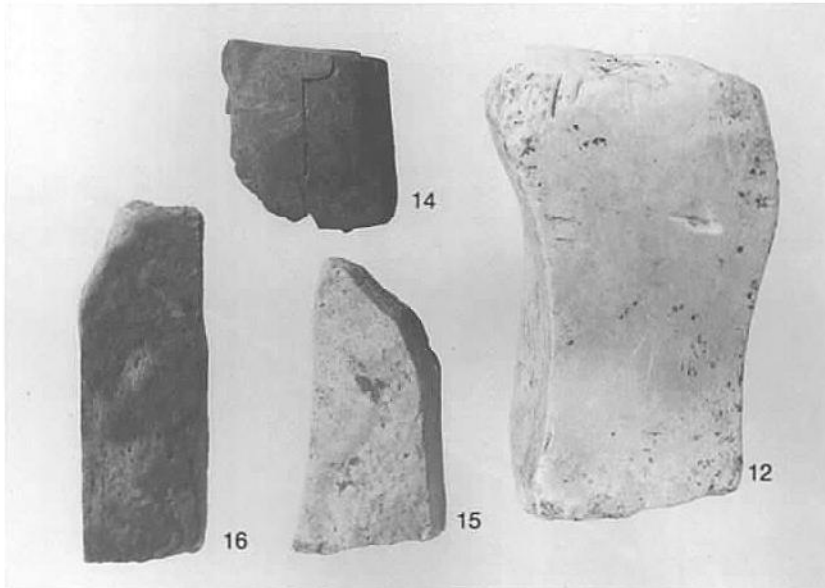
弥生100



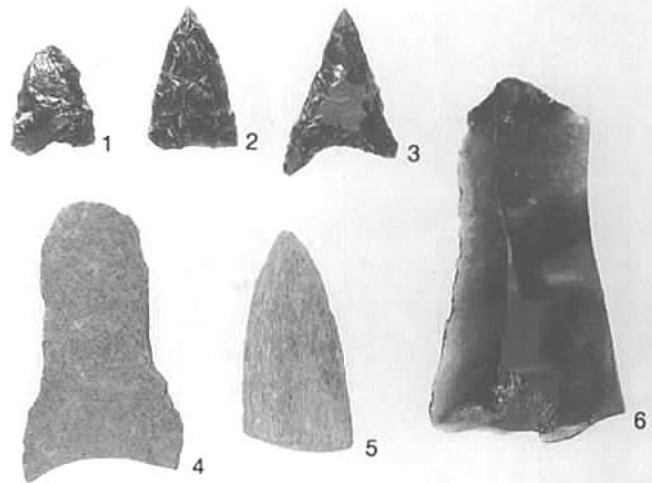
(1) 古墳時代の
石器・石製品. 1



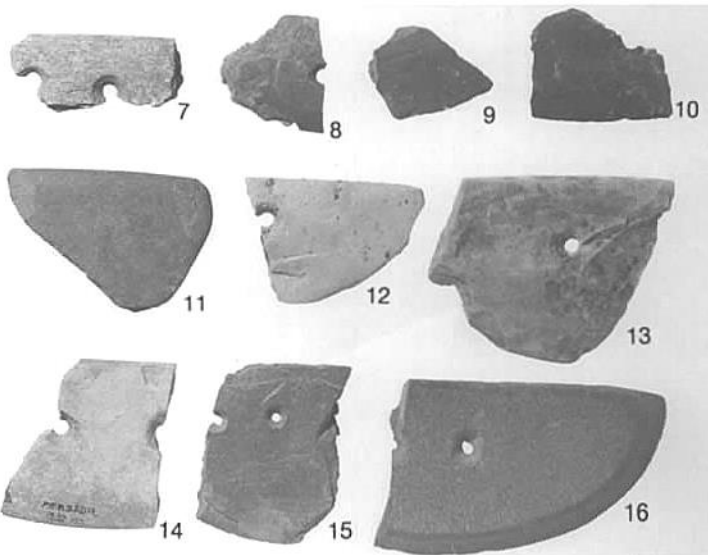
(2) 古墳時代の
石器・石製品. 2



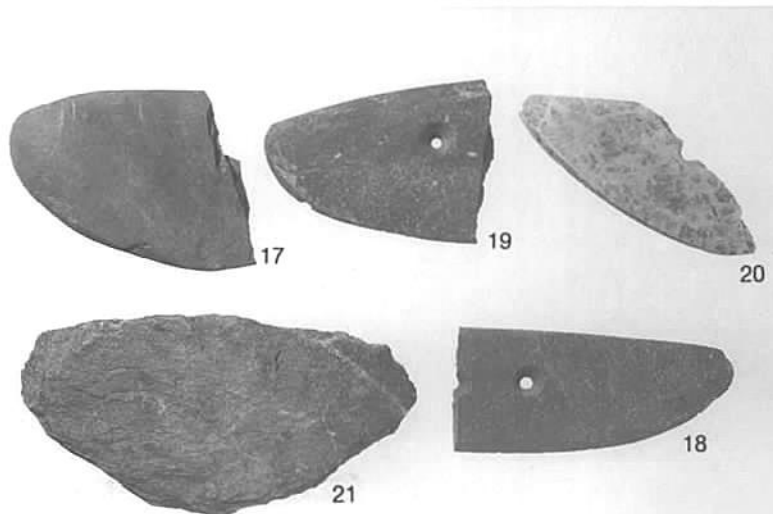
(3) 古墳時代の
石器・石製品. 3



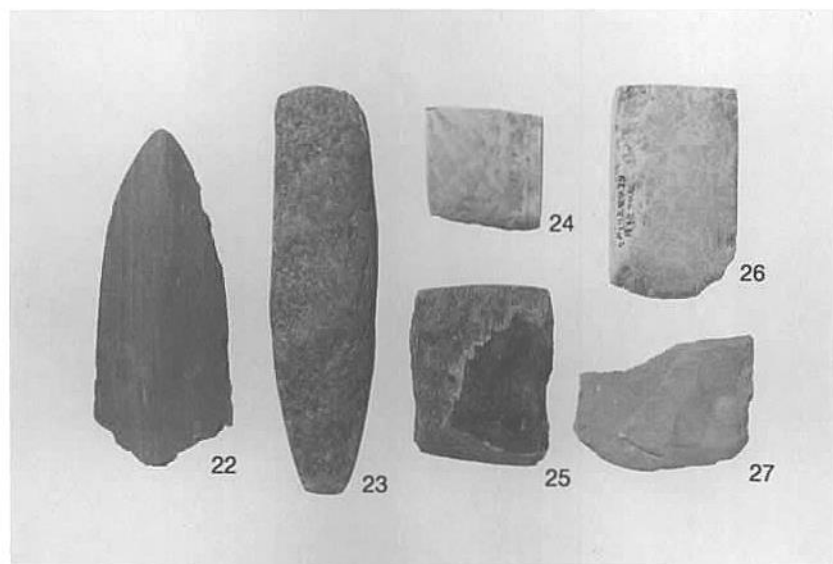
(1) ビット・包含層出土の
石器. 1



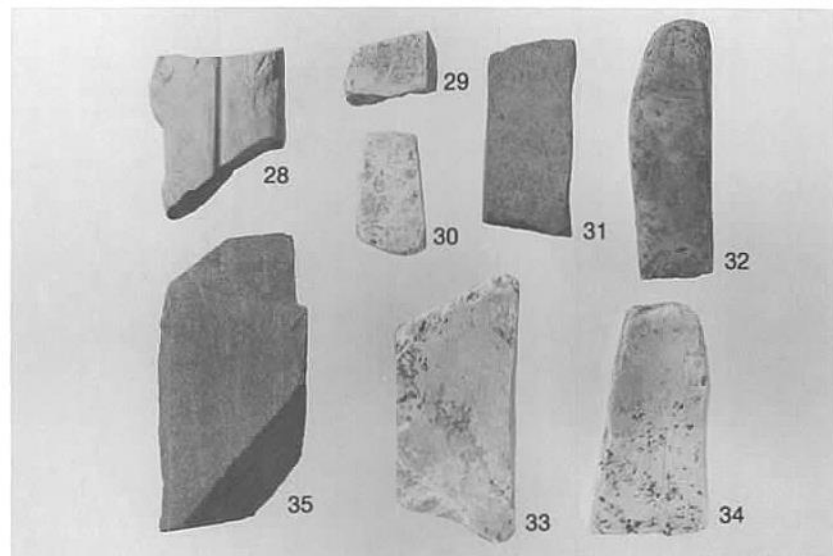
(2) ビット・包含層出土の
石器. 2



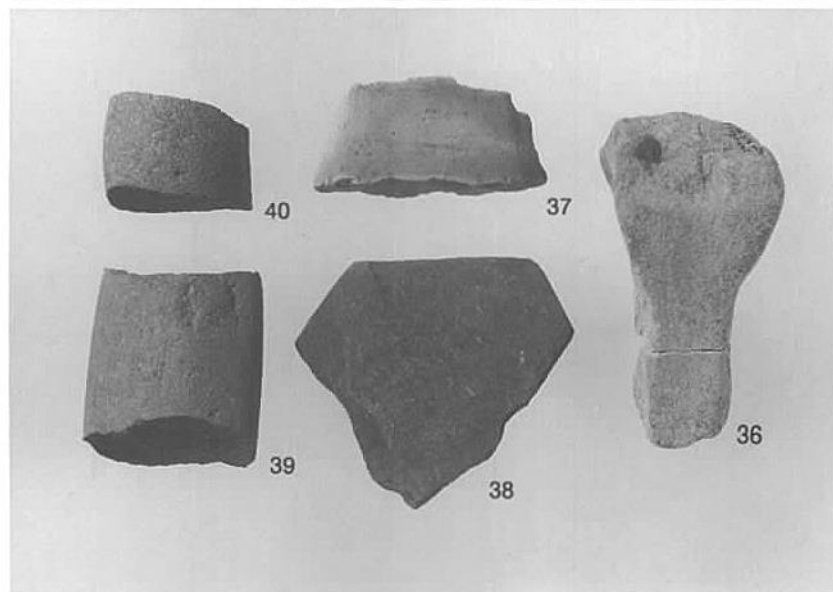
(3) ビット・包含層出土の
石器. 3



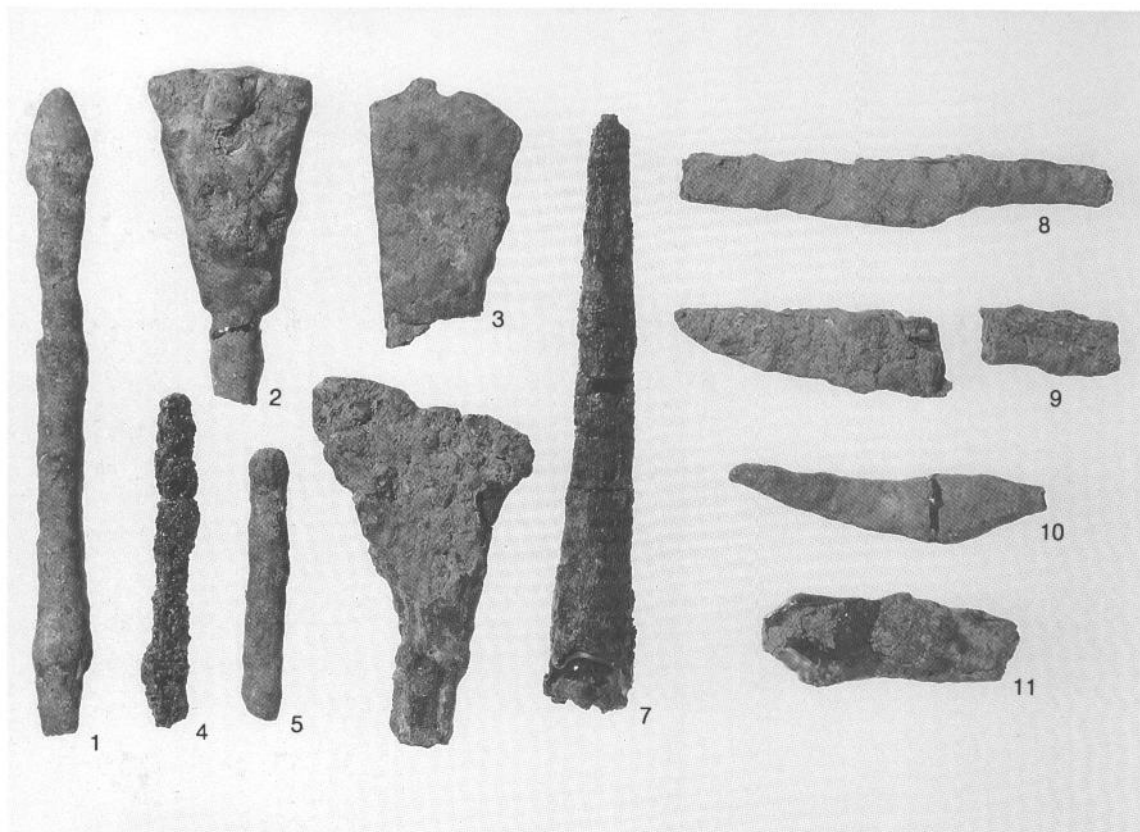
(1) ピット・包含層出土の
石器. 4



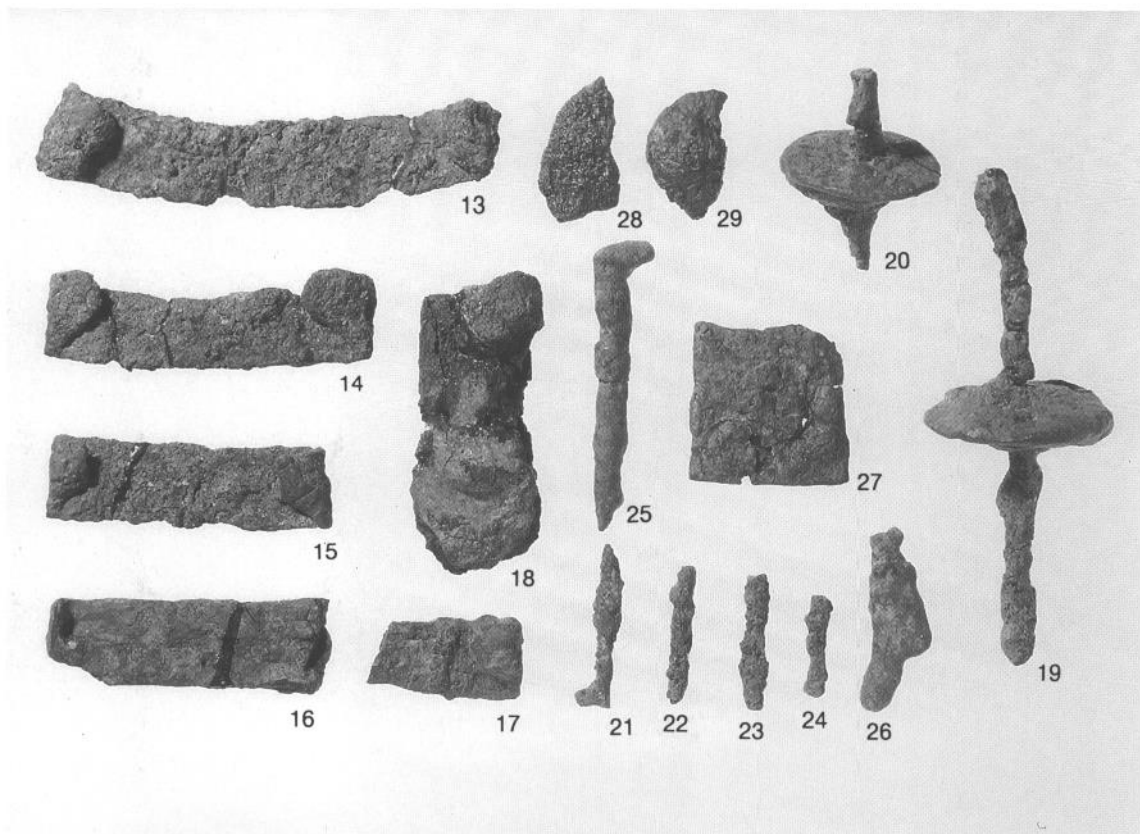
(2) ピット・包含層出土の
石器. 5



(3) ピット・包含層出土の
石器. 6



(1) 古墳時代の鉄器. 1



(2) 古墳時代の鉄器. 2

報告書抄録

ふりがな	たかとりごたんだ							
書名	鷹取五反田遺跡Ⅱ							
副書名	福岡県浮羽郡吉井町大字鷹取所在遺跡の調査							
巻次	Ⅱ（弥生時代包含層・古墳時代以降編）							
シリーズ名	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第10集							
編著者名	井上裕弘・木下 修・小田和利・水ノ江和同							
編集機関	福岡県教育委員会							
所在地	〒812-8785 福岡県福岡市博多区東公園7-7 TEL (092)651-1111							
発行年月日	西暦1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかとりごたんだ 鷹取五反田	ふくおか うきは 福岡県浮羽郡 よしい たかとり 吉井町大字鷹取 ごたんだ 字五反田318・328・ 343番地および なかのつぼ 字中ノ坪349番地	40481	630120	33°20'50"	130°43'40"	1990.4.15 } 1990.11.28 1993.10.26 } 1993.12.10 1994.5.26 } 1994.10.26	7,420㎡	道路 (一般国道 210号浮羽 バイパス建 設に伴う事 前調査)
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
鷹取五反田	集落 墓地	古墳中期 } 奈良時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 土墳墓 溝	75軒 7棟 1基 8基 16本	土器（須恵器・土師器） 石器 鉄器		古墳時代～奈良 時代の竪穴住居跡は 5世紀前～中葉7軒 6世紀中～後葉52軒 8世紀中～後葉15軒 に分かれ、分布域も 異なる。	

福岡県行政資料

分類番号	JH	所属コード	2133051
登録年度	10	登録番号	14

一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第10集

鷹取五反田遺跡Ⅱ

福岡県浮羽郡吉井町大字鷹取所在遺跡の調査

平成11（1999）年3月31日

発行 福岡県教育委員会
〒812-8587 福岡市博多区東公園7番地の7
電話（092）651-1111

印刷 株式会社 川島弘文社
〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭6丁目6番41号